監査役　中塚大二郎
同　山本誠兵衛

右任期滿了

大阪市北區西野田玉川町貳丁目番外壹番屋敷
島根縣能義郡赤江村大字中津四拾八番屋敷

右取締役ニ當選

京都市上京區釜座通竹屋町南へ入ル貳拾四番戸
大阪市北區堂島中壹丁目拾五番地

右監査役ニ當選

右之通登記濟ニ有之候也

大阪市東區島町貳丁目拾壹番地　東亞生命保險株式會社代表者　水谷長太郎
取締役　佐々木善右衛門

明治三十九年四月十四日

農商務大臣　松岡康毅殿

會社整理ニ關スル御届

大阪市東區島町貳丁目拾壹番地　東亞生命保險株式會社
代表者取締役　吉岡卯一郎

右當會社整理ニ關スル狀況別紙會社整理ニ關スル具陳書、整理方法及說明書並ニ第壹號乃至第參號ノ諸表ヲ相添ヘ御届申上候也

大阪市東區島町貳丁目拾壹番地　東亞生命保險株式會社
代表者取締役　中塚大二郎
同　高木成則

明治三十九年六月四日

【整理方法、說明書等ハ省略】

大阪市東區島町貳丁目拾壹番地　東亞生命保險株式會社
代表者取締役　佐々木善右衛門

會社整理ニ關スル具陳書

不肖佐々木善右衛門及水谷長太郎謹而書ヲ農商務大臣松岡康毅閣下ニ呈シ茲ニ本社整理ニ關スル愚裏ヲ披攄シ以テ　公明ナル　閣下ノ御一顧ヲ煩サントス仰キ願クハ劇職繁務ノ寸閑ヲ割愛シテ電覽ノ榮ヲ賜ヒ不肖等微衷ノ存スル所ヲ諒トセラレンカ此光榮何ゾ之ニ過キン

抑モ當會社ハ元山陰生命トシテ孤々ノ聲ヲ揚ゲシ以來年ヲ閱スルコト玆ニ旬餘當初ハ山陰ノ一隅ニ僻在シ呑洲ノ勇ナク鷲天ノ策ナシ唯タ孜々黽勉誠實ヲ經トシ正確ヲ綽トシ淳々トシテ事業ノ牛歩ヲ圖リ反テ急進ノ弊ヲ戒メタリ

然ルニ時世ノ推移ハ當會社ヲシテ荏苒姑息山陰ノ一隅ニ割居スルコトヲ許サヾルニ至レリ是ヲ以テ去ル明治三十七年二月本店ヲ帝國第二ノ都會タル浪華ノ地ニ移シ名ヲモ東亞ト改稱シ定款及約款ノ變更資本ノ增加並ニ役員ノ改善等幾多ノ改善ヲ施コシ以テ一大發展ノ道ヲ講センニ時會々〻曠古無比ナル日露開戰ノ時ニ際シ經濟界ハ緊縮シ擧世積極ヲ避ケテ消極ノ方向ニ傾キ一般斯業ニ影響スル所勘カラサリキ斯ル時運ニ遭遇セシ爲メニ本社ノ畫策ハ空シク一頓挫ノ嘆聲ヲ洩スノ已ムナキニ至レリ加之當局其人ヲ得ス或ハ犯罪ノ嫌疑ヲ蒙リテ踪跡不明ノモノアリ或ハ無能斯業ニ無經驗ノ徒事ヲ專ラニシ爲メニ綱紀壞ラス內ハ事務紊亂不整外ハ威信地ヲ掃ヒ財政ハ治マラス發展ノ機ハ逸シ所謂內憂外患終ニ本社ヲシテ瀕死ノ狀態ニ呻吟セルカ如キ世評ヲ招クニ至レリ不肖

等本社ニ對スル關係ヤ一日ノ故ニアラズ殊ニ善右衛門ノ如キ當會社ノ前身タル山陰生命創立以來乏シキヲ社長ニ受ケ在職中ニ契約セシ被保險者其數幾千其額幾十萬是等被保險者トノ關係ハ恰モ一族ノ如シ然レハ彼等ノ安危ハ又小肖等ノ休戚ニ繫ル不肖等ノ責任敢テ輕シト謂フヲ得サルヘシ然ルニ東亞ト改稱以還閑ヲ偸ミ名ヲ取締役ニ置キシノミ他ノ同僚ヲシテ專ラ施設經營ニ任セタリシニ不幸前陳ノ如キ背德汚行或ハ無識無能ノ徒輩ノ爲メニ蹂躙セラレ幾千ノ被保險者ハ疑懼ノ念一日モ去ルコト能ハス延テ解約續出シ諸種ノ支拂ハ嚴促セラルヽニ至リ本社ト被保險者トノ間實ニ障壁ヲ設ケシ如キ觀ヲ呈セリ熟々惟ミルニ不肖等ノ被保險者ニ於ケル其關係敢テ一朝ニアラス故ニ彼等ノ疑懼ヲ察シ恨愁ノ聲ヲ耳ニスルニ至リテハ豈之ヲ傍觀座視スルニ忍ヒンヤ之レ去ル二月以來自ラ揣ラス整理ノ任ニ當リシ所以ナリトス顧ミレハ本社ノ龜裂破綻ハ敢テ世評ノ如ク大ナラス其法ニシテ宜シキ得ンカ整理決シテ難事ニアラサルヘキヲ信シテ疑ハサルナリ然リト雖モ踏跼逡巡一日ノ安ヲ偸ミ彌縫糊塗之レ事トセハ遂ニ一木ノ能ク之ヲ支フル能ハサルニ至リ荼毒ヲ社會ニ流シ其害ノ波及スル所蓋シ測ル可カラザルベシ之ヲ已倒ニ挽廻スルハ不肖等當然ノ責任ナリトス不肖等固ト淺劣斯ル大任ヲ完フスルコトヲ得ルヤ否ヤ之ヲ今日ニ證スルヲ得スト雖モ左掣右携唯々誠實事ニ從ヒ進ンテ倦マサランカ精神ノ到ル所克ク彼岸ニ達スルヲ得ルノ自信ヲ有ス而シテ就職以來先ツ整理ノ第一着トシテ重役ノ改選社員ノ更迭ヲ行ヒ事務ノ整頓ヲ專ラトシ又經費ノ節減トシテ重役ヲ無報酬トシ支店及出張所等ノ如キハ事實上一時之ヲ閉鎖シ稍々見ルヘキ整理ノ端緒ヲ得タリ新規契約ニ關シテハ大ニ之ヲ緊縮シ募集員ノ出張ヲ中止シ新ニ責任ノ加重スルコトヲ戒飾セリ

整理ノ結果タル缺損ハ拂込濟株金ノ切下ヨリ得タル金額ヲ以テ塡補スルコトヽ爲シ既ニ一株五拾圓（總計十萬圓）ノ株式拂込ヲ斷行セリ（目下催告中ニアリ）而シテ此拂込ニシテ整理ノ目的ヲ達セス缺損塡補スルニ足ラサランカ進ンテ殘餘未拂全部ノ拂込（五万圓）ヲ遂行シ飽迄整理ノ目的ヲ達セントス以上ハ不肖等整理考案ノ概要ナリ若シ夫レ其詳細ニ至リテハ別表ニ之ヲ闡明スヘシ伏シテ願クハ賢明ナル閣下ノ淸鑑ニ由リ不肖等ノ微衷ヲ酌量セラレ自信ノ遂行ニ任セラレンコトヲ

恐惶頓首

任意解散ノ諭達ヲ通牒 (695)

農商務省商工局長ヨリ大阪府知事ヘ通牒　明治三十九年十二月十八日

商第一五三號　貴管下大阪市東區島町二丁目東亞生命保險株式會社ニ付テハ過般局員出張實地檢査ノ上復命之次第モ有之候處右檢査執行ノ結果ニヨレハ該會社ハ社務ノ不整理ノミナラス財產上ノ紊亂著シク今日ノ現況ニ徵シ之カ整理改善ヲ圖ルモ健全ナル基礎ヲ作リ以テ事業ヲ繼續シ得ヘキ狀態ナラシムルコトハ到底望ムヘカラサルコト、被認候而已ナラス此儘持續スルニ於テハ保險契約者ノ利益ヲ害シ延ヒテ一般公益上ノ利害ニ關スルコト亦尠ナカラサルモノト被認候ニ就テハ此際斷然任意解散ヲナシ適當ナル淸算手續ヲ採ラシムル樣篤ト御諭達相成度依命此段及御通牒候也

追而本文御諭達ノ結果ハ折返シ何等ノ御報告相成度此段申添候也

解散ノ手續ニ付會社ノ答申 (696)

答申書

今回御諭旨相成候當會社任意解散ノ件ハ去ル貳拾壹日付ヲ以テ來ル明治四拾年壹月拾日臨時株主總會ヲ開キ之レカ決議ヲ爲スヘク其招集手續ヲ了シ候ニ付謹テ及答申候也

明治三十九年十二月二十四日

大阪市東區島町貳丁目十一番地　東亞生命保險株式會社

取締役　佐々木善右衛門

農商務大臣　松岡康毅殿

明治三十九年　東亞生命

眞宗信徒生命保險株式會社

御届

當會社專務取締役高井幸三辭任ニ付定款第二十一條ニヨリ本年六月十八日取締役會ヲ開キ後任專務取締役ニ取締役木村省吾ヲ選任セリ社長ハ適當ノ候補者ヲ得タル上選任スヘキコトニ決議セリ

右御届申上候也

京都市下京區油小路通御前通下ル玉本町廿五番戸　眞宗信徒生命保險株式會社

明治卅九年七月三日　　專務取締役　木村省吾

農商務大臣　松岡康毅殿

通常生命普通保險約款（抄）（明治三十九年十月一日改正實施）

【備考】明治三十六年八月改正約款ノ抄錄條項（本卷　）ニ比シ異ナレル條項ヲ抄錄セリ

第五條　猶豫期間内ニ掛金ヲ拂込マザルトキハ契約ハ其効力ヲ失フ然レトモ解約價額ヲ有スルモノニ限リ（凡テ此約款ニ於テ解約價額ト稱スルモノハ責任準備金ヨリ保險金ノ百分ノ五以内ニ當ル金額ヲ控除シタルモノニシテ其金高ハ保險證券ニ添附シ又ハ記載ス）猶豫期間内ニ契約人ヨリ請求アレバ左記第一號又ハ第二號ノ如ク取扱フモノトス

一　解約價額ヲ現金ニテ拂渡スコト

二　解約價額ニ當ル金額ヲ以テ拂濟證券ヲ交付スルコト

三　解約價額ニ當ル金額ノ内ヲ以テ延濟掛金及ビ利子ニ充當シ之ヲ貸附金ニ振替ヘ置クコト

第八條　保險金ハ新利益配當附累加終身保險ニ在テハ被保人死亡ノ時、新利益配當附養老保險ニ在テハ契約滿期ニ至リ被保人生存スル時若クハ其以前ニ於ケル被保人死亡ノ時ニ之ヲ拂渡スベキモノトス但新利益配當附累加終身保險ニ於テ被保人ガ滿一年以内ニ死亡シタルトキハ毎年一年ニ滿タサル端數モ一年ニ算ス初年契約保險金ノ十分ノ一ヅヽヲ累加シタル保險金ヲ拂渡スベキモノトス

第十四條　被保人ガ死亡ノ原因タルベキ危難ニ遭遇シ其生死分明ナラザル場合ニ於テハ會社ガ之ヲ調査シタル上其死亡シタル事實ヲ認定シタルトキ保險金ヲ拂渡スベシ

第十五條　左ノ場合ニ於テ一以上ノ事由ニ該當スルトキハ保險金ヨリ其壹割ヲ控除スベシ

被保人ガ陸海軍務、警察務、監獄務、火藥ノ製造又ハ取扱、採炭又ハ採鑛、電氣又ハ蒸汽機關取扱、航海其他著ルシキ危險ノ職業ニ從事シ之ガ爲ニ死亡シタルトキ

第十六條　被保人ガ戰爭其他變亂ノ地ニ赴カントスルトキハ會社所定ノ手續ニ從ヒ特別保險料ヲ拂込ムベシ

第二十八條　會社ハ毎年決算期ニ於テ新利益配當附保險ヨリ生スル利益ヲ計算シ其一分七以上ニ當ル金額ヲ積ミ立テ置キ之ヲ五年ノ後尚繼續セル契約人ニノミ配當ス

前項ノ配當ヲナスニハ各保險契約ニツキ滿五年以前ノ決算期ニ至ル迄ノ經過年數（端數及掛金拂込濟後ノ經過年數ヲ算入セズ）ニ年額保險料ヲ乘シタル數ニ比例ス

第二十九條　配當金ハ直ニ現金ニテ拂渡サズ次ニ拂込ムベキ掛金ト相殺スルモノトス但掛金ガ既ニ拂込濟トナリタル又ハ受取ルベキ配當金ガ次ノ一ケ年間ニ拂込ムベキ掛金ヨリ大ナル時ハ現金ヲ以テ其全部又ハ一部ヲ交附ス

第三十條　會社ガ配當額ヲ現金ニテ交附スル場合ニ於テ通知後二ケ年間ニ請求セザルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第三十一條　會社ハ配當金分配ノ都合ニヨリ第二十八條第二項ノ配當率（配當金ノ配當標準ニ對スル割合）ニ一分以下ノ端數

ヲ生ジタルトキハ其端數ニ對スル配當金ノ全部又ハ一部ヲ次年度ニ繰越スコトアルベシ

通常生命保險規則（抄）

第四條　通常生命保險ヲ左ノ二種類トス

新利益配當附累加終身保險、新利益配當附養老保險

第五條　新利益配當附累加終身保險トハ契約成立ノ後被保人ノ死亡ニヨリ年々累加シタル保險金ヲ拂渡シ以後掛金ヲ要セザルモノトス

第十四條　被保人一人ニ付契約シ得ベキ保險金ハ最低額ヲ貳百圓トシ其以上ハ壹百圓毎ニ增加シ最高額ヲ壹萬圓トス

保險掛金表【累加終身保險（二十ケ年掛、終身掛）ノ掛金ヲ契約年齡五歲毎ニ抄錄シ他ハ略ス】

累加終身保險掛金表

（初年百圓＝付）

貳拾ケ年掛			
年齡	毎年掛	毎半ケ年掛	毎三ケ月掛
	圓 錢	圓 錢	圓 錢
15	8.87	4.66	2.37
20	9.40	4.94	2.51
25	9.98	5.24	2.66
30	10.57	5.55	2.82
35	11.20	5.88	2.99
40	11.88	6.24	3.17
45	12.64	6.64	3.37
50	13.54	7.11	3.61
55	14.65	7.69	3.91
60	16.13	8.47	4.30

終身掛			
年齡	毎年掛	毎半ケ年掛	毎三ケ月掛
	圓 錢	圓 錢	圓 錢
15	6.16	3.23	1.64
20	6.66	3.50	1.78
25	7.23	3.80	1.93
30	7.88	4.14	2.10
35	8.65	4.54	2.31
40	9.54	5.01	2.54
45	10.62	5.58	2.83
50	11.91	6.25	3.18
55	13.47	7.07	3.59
60	15.38	8.07	4.10

〔一二・一二、大阪毎日〕三保險會社紛議調停談　豫て京都地方裁判所にて審理中なる九州、北陸、兩生命保

九州北陸トノ紛議成行

險會社より眞宗生命保險會社取締役三田勝俊及び小田尊順兩氏外一名に對する同社株券五千百十九株名義書替取戻の訴訟は其後數回辯論の末、原告の請求により證人岡部廣召喚の事となり、再三期日を變更せるも岡部は病氣の故を以て出頭せず、今回其取調べを東京地方裁判所に囑托せるが昨今双方の間には調停談余程進捗の模様にて右に付昨夜眞生の重役木村省吾氏は支配人村岡角太郎氏と共に東上したるが多分眞生より幾万圓かを原告側に仕拂ひ訴訟は取下らるべしと

九州生命保險株式會社

明治三十九年ノ主要事項（第十二回明治三九・一・一―一二・三一事業報告書ヨリ）

一明治三十九年一月廿五日其筋ノ委囑ニヨリ戰爭ノ保險業ニ及ホシタル影響ニツキ前年度五月ヨリ八月ニ至ル月別統計ヲ作成シ提出セリ

一同年九月十日取締役吉田健藏氏常務取締役トナリ是迄本社ニ在テ常務ヲ執ラレシ取締役中山直方氏ニ東京出張所長ヲ委囑スルコトナレリ

明治三十九年　眞宗信徒生命　九州生命

整理困難 (701)

六條生命保險株式會社

〔一・五、京都日出〕六條生命の内部紊亂は到底救濟の見込なきと屢々記載せし處にて世人は主務省か解散を命ぜざるを怪めるが、同社は今回東京の辯護士守屋此助氏を聘して整理の任に當らしむることにせんと云ふ

差押ヘラル (702)

〔一一・二八、京都日出〕六條生命差押の異議　目下新契約停止中なる六條生命保險會社は大和大路三條下る三景樓事戸田多次郎より明治三十六年十一月ニ重役横井善三郎外二名が二千五百圓を借入れたれど内金一千圓を入れたるまゝ更に返金せざるより、戸田は殘金一千五百圓に對し去る二十二日岡本執達吏の手を經て六條生命保險會社の有體動産悉皆を差押へたるが、同社横井善三郎は辯護士森田茂氏を訴訟代理人として右に對する強制執行異議の訴訟を昨日京都地方裁判所民事部に提起せしを以て來る一月二十五日を口頭辯論期日と指定されたり

日宗生命保險株式會社

定款變更認可申請 (703)

定款變更認可申請書

當會社定款明治三十九年三月二十六日臨時株主總會ニ於テ別紙ノ通リ變更致候間御認可被成下度變更理由書及株主總會決議錄寫相添ヘ此段及申請候也

明治三十九年四月十九日　東京市日本橋區通三丁目六、七番地　日宗生命保險株式會社　專務取締役社長　川合芳次郎

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年七月二十六日附農商務省指令商第三四七五號ヲ以テ認可

變更條項

定款第十條　株式ハ相續遺贈又ハ法律ノ作用ニヨリ株式ヲ競賣セラレタル場合ノ外會社ノ承諾ヲ經スシテ他人ニ賣讓渡スルコトヲ得ズ尚ホ株式競賣ノ場合ニハ競賣當日ヨリ少クモ五日以前ニ之レヲ當會社ニ通知スルヲ要ス

變更理由

株式ノ賣買讓渡ハ株券裏面ニ買讓受人記名捺印シ會社ニ差出スヘシ會社ハ株主名簿ニ登錄シ社長記名捺印シテ賣買讓受渡ヲ證明スヘシ但株券壹通ニ付金五錢ノ登錄手數料ヲ徵收スヘシ

定款變更理由書

元來當會社ハ日蓮宗信徒ノ團結ニヨリテ設立シタルモノナルヲ以テ株式ハ可成信徒以外ニ散逸セザラシムルノ趣旨ニ依リ曾テ

三十六年三月ノ臨時總會ニ於テ同條ニ「株式ハ相續遺贈又ハ法律ノ作用ニヨリ株式ヲ競賣セラレタル場合ノ外會社ノ承諾ヲ得スシテ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ」トノ制定補加ヲ決議シ同年七月其筋ノ認可ヲ經タリ然ルニ相續遺贈ハ自カラ親知ノ間ニ行ハル、ガ爲多クハ信徒ヨリ信徒ニ繼承セラル、ト雖特リ法律ノ作用ニ基ク株式ノ受渡ハ常ニ何等日蓮宗ニ因緣ナキ者ノ手ニ歸スルヲ免レズシテ自カラ如上設立ノ趣旨ヲ根本ヨリ破却シ去ル場合尠シトセズ依テ之レヲ避斥センガ爲メニ競賣前豫メ之ヲ會社ニ通告セシメ會社ハ之レニ由リテ可成信徒ヲシテ任意ノ引受ヲ爲サシムルニ努メントス是レ一面ニハ當會社設立ノ趣旨ヲ失ハザラシムルト共ニ一面ニハ當事者相互ニ比較的滿足ナル受渡ヲ遂ゲシムルノ便法タルヘキ也

以上ノ理由ニ基キ別紙變更書ノ通リ補加ス

日本教育生命保險株式會社

新任役員 (704)

〔二・一二、官報〕日本教育生命保險株式會社取締役宅德平、越野嘉助、瀧山瑄、監査役豐田善右衞門、安田源三郎、肥塚源次郎任期滿了ニ付

宅德平、越野嘉助、瀧山瑄、安田源三郎、肥塚源次郎各再重任

大阪市東區高麗橋一丁目豐田善右衞門取締役ニ就任

右明治三十九年一月三十一日登記

大阪區裁判所

本店移轉 (705)

〔四・一〇、官報〕徵兵保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治三十九年三月十七日本店ヲ左ノ所ニ移轉セリ

東京市日本橋區呉服町壹番地

右明治三十九年四月六日登記

東京區裁判所

生命保險營業認可申請 (706)

生命保險營業認可申請書

當會社徵兵保險業ノ外更ニ生命保險營業仕度候間御認可相成度別冊生命保險普通保險約款及事業方法書並ニ保險料及責任準備金算出ノ基礎方法書相添ヘ此段及申請候也

明治三十九年四月廿一日

東京市日本橋區呉服町一番地　徵兵保險株式會社

社長　小澤武雄

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年八月二十七日農商務省指令商第三六七八號ヲ以テ認可

事業方法書（抄）

【備考】抄錄ノ事項ハ明治三十九年七月七日届ノ訂正ヲ經タルモノ

明治三十九年　日宗生命　日本教育生命　徵兵保險

事業方法書

保險ノ種類

一本會社ノ營ム生命保險ハ養老保險ニシテ之ニ十年滿期十五年滿期二十年滿期二十五年滿期三十年滿期三十五年滿期四十年滿期及八十歳受取ノ八種アリ

保險金額ノ制限

一本會社ニ於テ契約スル保險金額ハ被保險者一人ニ對シ金壹萬圓ヲ最高トシ金貳百圓ヲ最低トス此制限內ト雖モ壹百圓未滿ノ端數ハ契約セス

愛國生命保險株式會社

定欵中變更認可申請

(708)

定欵變更認可申請書

當會社定欵第二十一條ヲ左記之通變更致度候間至急御認可被下度別紙總會決議錄寫幷變更理由書相添此段申請仕候也

明治卅九年二月十五日　東京市日本橋區本材木町二丁目二番地　愛國生命保險株式會社

取締役社長　安川繁成

農商務大臣　松岡康毅殿

變更條項（役員ヲ減少）

變更理由

(709)

其他ノ事項

【備考】明治三十九年二月二十四日附農商務省指令商第一五七七號ヲ以テ認可

一定欵第二十一條第一號「取締役拾壹名」トアルヲ「取締役七名」ト變更シ同條第二號「監査役五名」トアルヲ「監査役四名」ト變更スルコト

理由書

定欵第二十一條ニ於テ取締役十一名監査役五名ト定員ヲ規定シタルハ元來少シク多數ニ過クルノ嫌アルモ會社創立ノ當時ニ在リテハ以上ノ人員ヲ必要ト認メ新ク規定致候次第ニ御座候得共爾來實際經驗ノ結果右之員數ハ社業經營上必要無之ヲ認メ而シテ定欵ノ規定ヲ變更セサル限リハ實際ニ必要ナキ人員ヲモ之ヲ撰擧セサルヘカラザル不都合アルヲ以テ今回之ヲ適當ト認ムル定員ニ變更セントスル次第ニ御座候

其他ノ事項——安川社長死去・創立十周年紀念・利附養老ノ成績・鈴木氏社長ニ就任（第十四回明治三九・一・一　同一二・三一）

事業報告書ヨリ

一專務取締役社長安川繁成氏八月三十一日死亡シタルニ付規定ニ從ヒ之ヲ本支店ノ所轄區裁判所ニ登記シタリ

一本年ハ當會社創立十周年ニ相當スルヲ以テ二月十一日社員一同ヲ會シテ之レカ祝典ヲ擧ケ且ツ開業初年度ヨリ繼續セル被保險者及代理店諸氏ニ對シ紀念帛紗ヲ寄贈セリ

一本年一月ヨリ實施シタル利益配當附養老保險ノ新契約高ハ四拾九萬九千五百圓ナリキ尙該保險ノ組織及効用ハ漸次世ノ認識歡迎スル所トナレルヲ以テ次年度ニ於テハ更ニ大ニ見ルヘキノ成績ヲ收メ得ヘキヲ信ス

追而監査役ノ全員任期滿了ニ因ル改選ノ結果ハ日下義雄、兵藤芳矩、三枝守富、服部嘉十郎ノ四名當選重任シ引續開會シタル臨時株主總會ニ於ケル取締役二名ノ補缺選擧ニハ肥塚龍、清水彥次郎ノ二名當選就任セリ

尙又取締役ノ互選會ニ於テ社長ニ鈴木萬次郎、專務取締役ニ中野實當選就任シタリ

明治三十九年　徵兵保險　愛國生命

日本生存保險株式會社

〔二・一四、中外商業〕三八（ツ）九五號　決定

東京市日本橋區大傳馬町二丁目二十番地　日本生存保險株式會社

右法定代理人　取締役　服部作太郎

右會社ニ對スル破產事件ニ付キ當裁判所ハ債權者茨城縣水戶市下市本一丁目大津金兵衞、小森市兵衞、同市上市大工町大津みちノ申立ニ因リ之ヲ審査スルニ被申立人カ支拂ヲ停止シタルコト明瞭ナリト認メ商法第九百七十八條ニ依リ決定スルコト左ノ如シ

日本生存保險株式會社ヲ破產者トス

日本生存保險株式會社ノ支拂停止ハ明治三十八年十月十二日午前十時トス

判事岡本巖ヲ本件破產主任官ニ東京市芝區西久保明舟町十七番地辯護士曲木如長ヲ本件破產管財人ニ選定ス

破產者ノ動產ハ總テ封印ヲ命ス

破產者ニ對シテ債務ヲ負フ者、破產財團ニ屬スル物件ヲ占有スル者ハ破產者ニ債務ノ辨濟又ハ物件ノ交付ヲ爲スヘカラス

破產者ノ債權者ハ其請求權ヲ明治三十九年八月六日マテニ破產主任官ニ屆出ツヘシ

屆出債權調査會ハ明治三十九年八月二十一日午前九時、債權者集會ハ明治三十九年九月二十日午前九時當地方裁判所ニ於テ開ク

明治三十九年二月十二日午前九時宣告ス

東京地方裁判所第二民事部

裁判長判事　鈴木英太郎

判事　岡本巖

判事　三橋久美

〔四・一一、中外商業〕破產事件

東京市日本橋區大傳馬町二丁目二十番地　日本生存保險株式會社

右法定代理人　取締役　服部作太郎

右會社ニ對スル明治三十八年（ツ）第九十五號破產申立事件ニ付明治三十九年二月十二日言渡シタル破產宣告ハ同年三月廿三日取消サレ該取消決定ハ既ニ確定シタリ

右公告ス

明治三十九年四月九日

東京地方裁判所第二民事部

裁判長判事　鈴木英太郎

判事　岡本巖

判事　三橋久美

明治三十九年　日本生存

禪徒生命保險株式會社

定欵中變更認可申請 (712)

定欵變更認可申請書

當會社本年八月廿日臨時株主總會ノ決議ヲ以テ左之通定欵變更致度候ニ付御認可被成下度別紙理由書及決議錄相添此段奉願候也

明治三十九年八月廿七日　東京市神田區上白壁町七番地　禪徒生命保險株式會社

清算人　秋　房太郎

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年九月十九日農商務省指令商第六八七八號ヲ以テ認可

變更條項（本社ノ移轉）

禪徒生命保險株式會社定欵中變更シタル條項

舊定欵第三條「當會社ハ本店ヲ東京市神田區上白壁町七番地ニ設置シ各地方樞要ノ場所ニ出張所及代理店ヲ設置ス」トアルヲ左ノ如ク變更ス

第三條　當會社ハ本店ヲ東京市本鄉區駒込千駄木町二百十七番地ニ設置スト改正ス

變更理由

定欵變更理由書

當會社是迄東京市神田區上白壁町七番地ニ於テ清算事務取扱來候處該事務取扱ノ都合ニ依リ東京市本鄉區駒込千駄木町二百十七番地ニ移轉致度右理由上申候也

移轉登記 (713)

帝國徵兵保險株式會社

〔七・二三、官報〕株式會社本店移轉登記

一商　號　帝國徵兵保險株式會社

一本　店　名古屋市納戸町二十三番戸

一目　的　徵兵保險業

一設立ノ年月日　明治三十年十一月十五日

一資本ノ總額　金十五万圓

一一株ノ金額　金五十圓

一各株式ニ付拂込ミタル株金額　金十二圓五十錢

一會社カ公告ヲ爲ス方法　本店所轄登記所ノ公示スル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス

明治三十九年　禪徒生命　帝國徵兵

一監査役ノ住所氏名
　名古屋市鐵砲町三丁目九十五番戸
　三重縣員辨郡笠田村大字笠田新田五番屋敷ノ一　林　照太郎
一存立ノ時期　明治三十年十一月十五日ヨリ同八十年十一月十四日迄滿五十ヶ年　二井進之助
一解散ノ事由　明治三十四年七月二十九日總社員ノ同意
一清算人ノ住所氏名
　三重縣桑名郡長島村大字西外面九十九番屋敷　伊藤駒三郎
　同縣同郡伊曾島村大字都維新田一番屋敷　松平家晃
　名古屋市京町七十三番戸　岡田芳藏
　同　市蛭子町五十五番地　小島兼衛
　同　市船入町三十七番戸　山田平次郎
以上明治三十九年七月十四日登記
右公告ス
　明治三十九年七月十六日
　名古屋區裁判所

東北生命保險株式會社

清算結了 (714)

〔五・三、官報〕東北生命保險株式會社ハ明治三十九年四月二十七日清算結了セリ
右明治三十九年四月二十八日登記
　青森區裁判所

解散認可申請 (715)

日本共同生命保險株式會社

解散認可申請書

當會社ハ明治三十九年六月廿六日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散仕候間御認可相成度別紙理由書、總會之決議錄、財產目錄、貸借對照表相添ヘ此段申請仕候也

明治三十九年　帝國徵兵　東北生命　日本共同生命

明治三十九年八月四日　大阪市東區本町二丁目六拾壹番地　日本共同生命保險株式會社

取締役　安部直衛

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年十月二十二日附農商務省指令商第六三九八號ヲ以テ認可、尙總會決議錄ハ省略セリ

理由書

當會社ハ明治三十五年二月二十七日ヲ以テ保險契約ノ全部幷ニ未拂込株金ヲ除キタル他ノ財產全部ヲ大阪生命保險株式會社ニ移付致候ニ付今回臨時株主總會ノ決議ニ基キ解散スル次第ニ有之候

解散理由

明治三十九年六月二十六日貸借對照表

貸借對照表

資產		負債	
未拂込株金	六九、〇〇〇、〇〇〇	株金	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
欠損金	三一、〇〇〇、〇〇〇		
合計	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	合計	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

(716)

解散、清算人登記

〔一一・一四、官報〕日本共同生命保險會社株主總會ノ決議ニ依リ明治三十九年十月二十六日解散

大阪市東區內本町一丁目　平林幾太郎

同　市北區本庄西權現町　高橋道三郎

同　市東區谷町五丁目　安部直衛

清算人ニ各選任

右明治三十九年十一月八日登記

大阪區裁判所

上越生命保險株式會社
日東生命保險株式會社（三十九年一月改稱）

(717)

日東生命ノ改稱

官報　第六八三七號　明治三十九年四月十八日

上越生命保險株式會社登記事項中左ノ通變更ス

一明治三十九年一月二十八日商號ヲ日東生命保險株式會社ト變更ス

一明治三十九年四月七日支店ヲ東京市淺草區諏訪町二十四番地ニ設置ス

以上明治三十九年四月十日登記

高田（新潟地方裁判所管內）區裁判所

(718)

東京支店ヲ設置

官報　第六八三八號　明治三十九年四月十九日

【備考】第二卷第二編（762）上越生命設立登記事項ト同樣ノ事項ハ省略セリ

明治三十九年　日本共同生命　上越生命（日東生命）

登記事項
役員等

一商　號　日東生命保險株式會社
一本　店　新潟縣中頸城郡高田町大字吳服三十二番地
一支　店　東京市淺草區諏訪町二十四番地
一公告ヲ爲ス方法　當會社ノ公告ハ所轄裁判所ノ商業登記ヲ公告スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス
一取締役ノ氏名住所
新潟縣中頸城郡高城村大字馬場先十三　上野茂三郎
同　縣同　郡板倉村大字下田屋九　石黒昌治
同　縣同　郡菅原村大字上田島六　古澤文太郎
同　縣同　郡吉川村大字竹直二十一　小田仁作
同　縣同　郡高田町大字土橋四十七　玉井久兵衞
同　縣同　郡有田村大字安江十四　石田政義
一監査役ノ氏名住所
新潟縣中頸城郡大濱村大字百間町新田二十八　瀧本義雄
同　縣同　郡參賀村大字美守七　岩佐麟太
同　縣同　郡直江津町大字直江津三百十二　岩崎廣作
同　縣同　郡津有村大字新保左新田五　野口孝治
同　縣東頸城郡下保倉村大字長走十六　村松順藏
右明治三十九年四月十六日登記　東京區裁判所

東洋生命保險株式會社

〔一〇・一七、中外商業〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
一取締役森村金造、五十嵐愼一郎、岩谷松平、木下謙次郎・澁谷嘉助ハ明治三十九年十月三日重任セリ
一監査役大谷幸兵衞、箕田長三郎、江島粂雄ハ同日重任セリ
右明治三十九年十月十一日登記

〔一一・一七、官報〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
一各株ニ付拂込ミタル株金額ヲ金十五圓ト變更ス
右明治三十九年十一月十四日登記　東京區裁判所

大同生命保險株式會社

二千萬圓達成促進 (721)

〔二・九、京都日出〕大同生命保險大募集の經過　大同生命保險會社の契約總高千七百万圓、積立金八十五万圓に達したるか今回二千万圓の契約高と爲さんとて此程來大募集中にて京都支店は少くも十万圓の新募集を爲す計畫なりと

定款中變更 (722)

定款中變更　明治三十九年三月三十日申請　同　年五月十五日認可

第三十八條ヲ追加（追加條項左ノ通リ）

『當會社ノ株式ハ當會社ノ承諾ナクシテ之ヲ讓渡スコトヲ得ス』

責任準備金計算方法ノ變更 (723)

第一生命保險相互會社

責任準備金計算方法ノ變更（第四回明治三八・九・一事業報告書ヨリ　同　三九・八・三一事業報告書ヨリ）

責任準備金中未經過保險料ハ從來法規ノ許ス處ニ從ヒ其ノ年度收入保險料ノ四分ノ一ヲ積立來タリシモ積立金額常ニ過少ニ失スルノ恐アルコトヲ發見セルカ故ニ本年度ヨリハ個々ノ契約ニ付キ精算スルコトニ改メ農商務大臣ノ認可ヲ得タリ

【備考】明治三十九年八月認可、保險料及び責任準備金算出の基礎に關する書類中の變更「從來未經過保險料は事業年度に收入したる保險料の四分の一を積立てたのであるが過少に失するの嫌ありしを以て、各箇の契約に付き未經過部分を算出して積立てることにした。」第一生命二十五年史一一三頁

移轉登記 (724)

〔九・一〇、官報〕相互保險會社登記

第一生命保險相互會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一事務所ヲ明治三十九年九月一日左ノ所ニ移轉セリ

東京市日本橋區通三丁目一番地

明治三十九年　大同生命　第一生命

右明治三十九年九月四日登記

新築披露 (725)

〔一〇・一四、東京日々〕第一生命の新築落成式　我國に於ける相互保險會社の嚆矢たる同社は今回日本橋區通三丁目に堅牢なる事務所を建築したるに付昨十三日午後一時より新築落成式を擧行せり劈頭に於て社長柳澤伯及同社專務矢野恒太氏の挨拶あり來賓總代として松岡農相の演說あり阪谷藏相は同社の隆盛を祝し將來益保險業の勃興を必要とする旨を述べ我國に於ても政治家間に强迫保險會社の設立が主張せらるゝ時機の到來す可き旨を演說し式了りて來賓一同に定食の饗應あり其の際大隈伯の祝辭到來したりとて矢野氏之を披露し午後三時半散會せり

約款中變更條項 (726)

千代田生命保險相互會社

普通保險約款中變更條項

【備考】明治三十九年八月八日申請、同年同月二十七日農商務省指令商第六二八一號ヲ以テ認可

第八條　被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキト雖モ當會社ハ保險金ヲ支拂フモノトス但被保險者カ戰地又ハ變亂地ニ赴クトキハ豫メ之ヲ會社ニ通知シ一ケ年ニ付キ保險金額ノ百分ノ三乃至百分ノ十ノ範圍內ニ於テ會社カ定ムル所ノ特別保險料ヲ拂込ムヘシ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

一第一回保險料拂込前ニ被保險者カ死亡シタルトキ

二被保險者カ自殺決鬪其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リ若クハ禁錮以上ノ刑ノ執行中ニ死亡シタルトキ

但自殺ノ場合ニハ評議委員會ノ決議ヲ以テ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂フコトアルヘシ

三保險契約者又ハ保險金ヲ受取ルヘキ者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

四第八條ニ規定シタル特別保險料ヲ拂込マスシテ被保險者カ戰爭其他變亂ニ因リテ死亡シタルトキ

右ノ通リ第八條及第十一條四ノ變更アリタリ

事業方法書變更認可申請書 (727)

事業方法書變更認可申請書

當會社事業方法書中別紙ノ通リ變更致度候間認可被成下度理由書相添此段申請候也

明治卅九年九月十一日　東京市日本橋區新右衞門町十五番地　千代田生命保險相互會社

取締役社長　門野幾之進

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年九月十七日認可（第三回報告ニヨル）

事業方法書變更ノ件

變更事項（月掛ヲ開始）　事業方法書第十八項但書ヲ左ノ如ク變更ス

但社定保險料ノ半年掛ハ年掛社定保險料ニ其百分ノ四ヲ加ヘテ之ヲ貳分シ參ケ月掛社定保險料ハ同シク其百分ノ七ヲ加ヘテ之ヲ四分シ毎月掛社定保險料ハ同シク其百分ノ十ヲ加ヘテ之ヲ十二分シタルモノナリ

變更理由　理由書

當會社ノ保險料拂込方法ハ從來毎年掛、毎半年掛、毎三ケ月掛ノ三種ニ限リタレトモ場合ニ依リ毎月掛ノ方法ヲ行フ必要アルヲ認ムニ依テ別紙ノ通リ變更セント欲スル所以ナリ

(728) 一千萬圓達成祝

〔一一・七、報知〕千代田生命の一千万圓祝　同會社は去月を以て保險金高一千万圓に達したるを以て芝紅葉舘に於て祝宴會を開き門野社長の挨拶、朝吹英二氏の祝辭あり百餘名の來賓擧杯萬歳を唱へ又講談、落語、手踊等の餘興ありて盛會なり

(729) 發起認可申請

萬歳生命保險株式會社

萬歳生命保險株式會社發起認可申請書

今般私共相謀リ萬歳生命保險株式會社發起仕度候ニ付御認可被下度保險業法施行規則第一條ニ據リ別冊定款事業方法書普通保險約款保險料及ヒ責任準備金算出基礎及ヒ方法ニ關スル書類並ニ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類相添ヘ此段申請仕候也

明治三十九年一月二十八日

萬歳生命保險株式會社發起人

東京市京橋區明石町六拾壹番地　藤村義苗
東京市芝區車町八拾五番地　渡邊亨
東京府荏原郡品川町大字北品川宿七百四拾番地　西村勝三
東京市芝區高輪南町參拾番地　大田黒重五郎
東京市京橋區築地貳丁目參拾五番地　大澤省三
東京市芝區三田功運町參拾九番地　八十島親徳
大阪市南區松屋町八番地　小塚正一郎

明治三十九年　千代田生命　萬歳生命

大阪市東區寺山町四百九拾參番地
大阪市東區谷町貳丁目貳百拾七番屋敷
大阪市南區天王寺南河堀町貳千四百七番地
大阪市西區靱南通參丁目拾參番屋敷
東京市麹町紀尾井町參番地
東京市四谷區鹽町壹丁目貳拾參番地
東京市芝區芝公園第拾四號地貳番
東京市麹町區富士見町貳丁目四拾參番地
東京市麹町區壹番町四拾貳番地
東京市日本橋區濱町壹丁目貳番地
東京市小石川區音羽町七丁目拾番地
東京市芝區櫻川町拾壹番地

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年六月八日附農商務省指令商第一九九三號ヲ以テ認可

萬歲生命保險株式會社定款（抄）

第一條　當會社ハ萬歲生命保險株式會社ト稱ス
第二條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置キ支店ヲ大阪市ニ置ク出張所
代理店ノ設置ハ之ヲ取締役ノ決議ニ一任ス
第三條　當會社ノ目的ハ生命保險事業ヲ營ムニ在リ
第四條　當會社營業ノ範圍ハ日本國ノ內外ヲ問ハス一般公衆ニ對シ左ノ保險契約ヲ締結スルニ在リ

岡松忠利
向坂均一
藤本清兵衛
志方勢七
岩下清周
柳谷謙太郎
小川貞一
石塚琢三郎
瀧澤吉三郎
益田太郎
鳩山和夫
馬越恭平

一養老保險　年齡九年七ヶ月以上六十五年六ヶ月以下ノ者ヲ被保險者トスル死亡生存混合保險
一教育保險　年齡十六年六ヶ月以下ノ幼者ヲ被保險者トスル生存保險

第五條　當會社ノ資本ハ金五拾萬圓ニシテ之ヲ株式五千個ニ分チ一株ノ金額ヲ百圓トス
第八條　當會社株金ノ第一回拂込ハ一株ニ付金貳拾五圓トシ發起認可ヲ得タル日ノ翌日ヨリ六十日以內ニ拂込其殘額ハ必要ニ應シテ拂込マシムヘシ但第二回以後ノ拂込金額及期日ハ取締役會ニ於テ決定シ期日三ヶ月以前ニ各株主ニ通知スヘシ
第十八條　當會社ニ取締役三人以上五人以下及ヒ監査役三人以下ヲ置ク
第二十條　取締役ハ互撰ヲ以テ社長及ヒ專務取締役ヲ定ム
第二十八條　當會社ハ每年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一ヶ年ヲ以テ每事業年度トス
第二十九條　當會社ノ定時株主總會ハ每年六月中ニ之ヲ開キ前年度ニ對スル財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書ノ承認並ニ諸準備金、賞與金、株主配當金ノ決議ヲ爲ス
第三十四條　當會社ノ設立費用ハ初年度ノ終ニ於テ其全部ヲ償却ス
第三十五條　各年度ノ收入保險料諸利息其他ノ雜益ニ前年度末ニ於ケル責任準備金、支拂備金及ヒ繰越金ヲ加ヘタル合計ヨリ支拂保險金、解約拂戻金、責任準備金、支拂備金、營業費其他ノ雜損ヲ控除シタル殘額ヲ利益金トシ左ノ如ク配當ス

一法定積立金　利益金ノ百分五以上
一利益分配付保險ニ對スル利益分配準備金　同百分十以上
一別途積立金　便宜之ヲ爲スコトヲ得
一役員賞與金　利益金ノ百分ノ十以下
一株主配當金　利益金ノ內ヨリ以上ノ金額ヲ控除シタル殘
一次年度繰越金

第三十六條　株主配當金ハ每事業年度末日現在ノ株主ニ之ヲ配當ス

萬歲生命保險株式會社事業方法書（抄）

第一章　養老保險
第一節　保險ノ種類及ヒ保險金額ノ制限
第一條　當會社ニ於テ營ム養老保險ノ種類ハ十年滿期、十五年滿期、二十年滿期、二十五年滿期、三十年滿期、三十五年滿期及ヒ四十年滿期ノ七種ニシテ契約保險金額ノ多寡ニ因リテ各之ヲ二類ニ分ツ
第二條　第一類ニ於テ契約スル被保險者一人ニ對スル保險金額ハ契約ノ回數ニ拘ハラス合計金壹百圓以上金五百圓以下トス

明治三十九年　萬歲生命

第三條　第二類ニ於テ契約スル被保險者一人ニ對スル保險金額ハ契約ノ回數ニ拘ハラス合計金五百圓以上金壹萬圓以下トス

第四條　一人ノ被保險者ニ對シテ第一類及ヒ第二類ノ最高保險金額ヲ併セ契約スルコトヲ得又孰レノ場合ニ於テモ金百圓以下ノ端數アル保險金額ヲ契約セサルモノトス

第二節　被保險者ノ年齡

第六條　被保險者ノ契約當時ニ於ケル年齡ハ十歲以上六十五歲以下トス

但六十一歲以上ノ被保險者ハ十五年滿期ヨリ長キ種類ヲ契約スルヲ得ス五十六歲以上ノ者ハ貳拾年滿期ヨリ長キ種類ヲ五十一歲以上ノモノハ二十五年滿期ヨリ長キ種類ヲ並ニ四十六歲以上ノモノハ三十年滿期ヨリ長キ種類ヲ契約スルヲ得サルモノトス

第五節　年金交付

第十二條　保險契約ノ滿期ニ達シタルトキ被保險者カ保險金ヲ受取ラスシテ年金ノ交付ヲ望ム場合ニハ之ニ年金證券ヲ交付スヘシ年金證券ノ樣式ハ別紙ノ通リトス

第六節　利益分配

第十三條　第二類ノ保險契約ニ對シテハ保險金受取人ヘ當會社利益金ノ一部ヲ分配スルモノトス會社利益ノ幾部分ヲ利益分配ニ充ツルヤハ定款ニ於テ之ヲ定ムト雖トモ之カ支拂時期ハ各保險契約カ滿期ニ達シタルトキニシテ其分配額ハ其前事業年度ノ終ニ於テ決定シ其ノ時ニ於ケル第二類保險ニ對スル總責任準備金額ヲ以テ總利益分配準備金額ヲ除シ其得數ニ次年中ニ契約滿期ニ達スヘキ第二類保險契約ニ對スル責任準備金ノ十分ノ二ヲ削減シテ支拂フモノトス

第三章　教育保險

第一節　保險種類及ヒ保險金額ノ制限

第十五條　教育保險ノ種類ハ十七歲受取、二十歲受取及ヒ二十三歲受取ノ三種ニシテ被保險者死亡ノ場合ニ於ケル保險料返還ノ有無ニ依リテ各之ヲ二類ニ分ツ

第十六條　被保險者一人ノ保險金額ハ金百圓以上トシ且金百圓以下ノ端數アル保險金額ヲ契約セサルモノトス

第十七條　保險金ハ被保險者カ契約滿期ニ達シテ生存セル場合ニ於テ之ガ支拂ヲ爲スモノトス

但被保險者カ契約期滿ニ達セサル以前ニ於テ死亡シタル場合ニ於テハ第一類ノ保險契約ニ限リ其既ニ拂込ミタル保險料ノ元金額（利子ヲ附セス）ヲ返還ス可シト雖モ第二類ノ保險契約ニ在テハ一切之ヲ返還セサルモノトス

第二節　被保險者ノ年齡

第十八條　被保險者ノ契約當時ニ於ケル年齡ハ十六歲迄トス

但十七歲受取ニ於テハ十一歲以上二十歲受取ニ於テハ十四歲以上ノ者ヲ契約セス

第四條　保險金ハ被保險者カ保險契約ノ滿期ニ至リ尚生存セルトキ又ハ其以前ニ死亡シタルトキ之ヲ支拂フ

但被保險者滿期生存ノ場合ニ在リテハ望ニ依リ保險金ノ代リニ被保險者ノ終身間一定ノ年金ヲ交付スルコトヲ得ヘシ

第八條　年金證券ヲ受取リタル者ハ每年一回年金支拂ノ期日ニ於テ被保險者カ生存スルコトヲ證スル戶籍謄本ヲ年金證券ニ添ヘテ當會社ヘ提出シ年金額ノ請求ヲ爲スヘシ當會社ハ直チニ之ヲ拂渡シ年金證券ノ裏面ニ交付濟ノ認印ヲ爲シテ之ヲ保險金受取人ニ返戻スルモノトス

期日後二ケ年ヲ過クルモ尚請求ナキ年金額ニ對シテハ當會社ハ支拂ノ義務ヲ免ルヽモノトス

第十二條　被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタルトキハ第九條第三號ノ場合ヲ除キ錯誤年齡ノ實際年齡ニ對スル割合ヲ以テ保險金額ノ增減ヲ爲スヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ保險金額ノ十分ノ二ヲ削減シテ支拂フモノトス

一被保險者カ熱帶地方ニテ死亡シタルトキ

二被保險者カ戰死シタルトキ又ハ戰地ニ在リテ病死シタルトキ

三被保險者カ警察、航海、漁獵、溺水及ヒ消防ノ職務ニ因リテ死亡シタルトキ

第十五條　猶豫期間ニ保險料ノ拂込ヲ爲サス又契約解除ノ請求ヲモ爲サヽルトキハ當會社ハ第十九條ニ揭ケタル返還金アル場合ニ限リ之ヲ以テ保險料ニ充テ其殘額カ一回分ノ保險料ニ不足ヲ告クル迄契約ノ効力ヲ失ハサラシム

第十七條　猶豫期間ヲ經過シタル後ト雖トモ尚五ケ月以內ニシテ被保險者ノ健全ナリト認メラルヽ場合ニ限リ當會社ハ契約ノ復活ヲ承諾スヘシ

但シ之ニ對シテ保險金額ノ千分ノ五ニ當ル手數料ヲ請求スヘシ

第十八條　保險契約無効ノ場合ニ於テハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ返還ス

第十九條　保險契約ノ解除、失効又ハ當會社カ保險金支拂ノ責任セサル場合ニ於テハ滿三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ當會社ハ該契約ニ對スル責任準備金ノ十分ノ八ヲ返還スヘシ

但第二十一條第二號ノ場合ハ之ヲ除ク

第二十條　滿五ケ年繼續シタル保險契約ニ對シテハ當會社ハ第九條第一號及ヒ第二號ノ場合【無效ノ場合】ニ於ケル契約ノ無効ヲ主張セス

但契約復活ノ事實アリタルトキハ此期間ハ最後ノ復活ノ時ヨリ起算スルモノトス

(733)

普通保險約款（第二類利附）（抄）

第十四條　被保險者カ戰地ニ赴カントスルトキハ之カ職務ノ爲メナルト兵役義務ノ爲メナルトヲ問ハス其旨ヲ當會社ヘ通知スヘシ當會社ハ之ニ對シテ一ケ年保險金ノ百分ノ十ニ上ラサル特別保險料ヲ請求スルコトヲ得保險契約者カ前項ノ通知ヲ爲サヽルカ又ハ特別保險料ヲ拂込マサルトキハ當會社ハ被保險者ノ戰爭ニ因スル死亡ニ對シテ保險金支拂ノ責ニ任セサルモノトス

保險契約者カ前項特別保險料ヲ拂込ムカ又ハ平時ヨリ戰爭危險ニ對シテ每年保險金ノ千分ノ二ニ當ル特別保險料ヲ拂込ムトキハ當會社ハ保險金ノ全額ヲ支拂フモノトス

第二十一條　保險金受取人ハ被保險者カ契約滿期ニ至リ尙生存セル場合ニ保險金ト共ニ當會社ノ利益分配金ヲ受クル權利ヲ有ス其金額ハ契約滿期前ノ決算年度末ニ於ケル當會社ノ第二類養老保險契約ニ對スル總責任準備金額ヲ以テ每年利益金ノ十分ノ一以上ヲ積立テ設備セル所ノ利益分配準備金額ヲ除シ其得數ニ次年度中ニ契約滿期ニ達スヘキ第二類養老保險契約ニ對スル責任準備金額ヲ乘シタルモノトス

(734)

設立登記

〔八・二三、官報〕

設立登記

一商　號　萬歲生命保險株式會社
一本　店　東京市日本橋區室町一丁目十一番地
一目　的　保險種類ハ生命保險ニシテ養老保險竝ニ教育保險ヲ營ム營業ノ範圍ハ日本帝國內ニ限ル
一設立ノ年月日　明治三十九年八月三日
一資本總額　金五十万圓
一一株ノ金額　金百圓
一各株ニ付拂込ミタル株金額　金二十五圓
一公告ヲ爲ス方法　所管登記所カ公告スル新聞紙ヲ以テ公示ス
一取締役ノ氏名住所
東京市四谷區鹽町一丁目二十三番地　柳谷謙太郎
同　市芝區高輪南町五十二番地　渡邊享
同　市日本橋區濱町一丁目二番地　益田太郎
同　市本鄕區根津須賀町十番地　內田直三
神奈川縣足柄下郡小田原町十字二丁目百四十六番地　大田黑重五郎
大阪市南區天王寺南河堀町二千四百七番地　藤本清兵衞
東京市京橋區明石町六十一番地　藤村義苗
一監査役ノ氏名住所
東京市芝區高輪南町三十一番地　石原卯八
同　市神田區猿樂町二番地　上原鹿造
大阪市西區靱南通三丁目十三番屋敷　志方勢七
東京市京橋區南新堀二丁目四番地　阿部吾市
一設立費用償却ノ方法　營業初年度ニ於テ償却ス
右明治三十九年八月十七日登記

東京區裁判所

萬歲生命保險株式會社

○資本金五拾萬圓　○養老保險　○教育保險

大戰捷の後を承け國運發展の盛世に際會し時勢の必要に應して新たに生れ出たる萬歲生命保險株式會社は其計

明治三十九年　萬歲生命

晝の端を旅順方面砲聲殷々たるの秋に發らき凱歌萬歳聲裡に其機漸く熟し正に本日　皇太子殿下御誕辰の吉日を以て營業を開始するに至れり若し夫れ當社に生命保險を契約せらるゝの諸賢は增資蓄産大に安心立命の基礎を固めらるべきのみならず未曾有の大捷に對して長へに絶對好箇の一大記念とせらるゝことを得へし

八月三十一日

本　店（假營業所）　東京市日本橋區室町一丁目十番地　電話本局一、二三三番
大　阪（取扱店）　大阪市東區今橋二丁目浪花橋角　電話東　三、九一四番　青木道孝
名古屋（代理店）　名古屋市鐵砲町北濱銀行內　電話九九八、長九番
社　長　柳谷謙太郎　專務取締役　藤村義苗

創立事情（第一回明治三九・八・三事業報告書ヨリ）

同　一二・三一

○創立總會ノ事

一八月三日東京市日本橋區坂本町東京銀行集會所ニ於テ當會社創立總會ヲ開キ株式引受人六拾貳名此引受株數參千九百拾參株出席シタルニ付發起人馬越恭平氏ヲ會長トシ發起人總代藤村義苗氏諸般ノ報告及ヒ說明ヲ爲シ左ノ各號ヲ決議シタリ

第一號　會社創立ニ關スル事項ニ就キ發起人ノ報告

明治三十七年十月中藤村義苗、岩下清周、渡邊享等ノ諸氏ニ於テ株式會社ノ組織ヲ以テ生命保險會社ヲ設立セン事ヲ發意シ之ヲ西村勝三、大田黑重五郎、馬越恭平、大澤省三、八十島親德、小塚正一郎、岡松忠利、向坂均一、藤本清兵衞、志方勢七、柳谷謙太郎、小川貞一、石坂琢三郎、瀧澤吉三郎、益田太郎、鳩山和夫ノ諸氏ニ諮リタルニ皆贊成ヲ表シテ發起人タル可キコトニ同意シタルヲ以テ即チ以上拾九名ニ於テ萬歳生命保險株式會社ヲ發起スルコトヲ決シ明治三十八年二月二十四日定款、事業方法書、普通保險約款其他計算及ヒ計算ノ基礎ニ關スル書類等ノ立案調査ニ着手シ同年四月五日成案シタルヲ以テ更ニ之ヲ專門ノ諸氏ニ諮リテ充分ニ調査研究ヲ遂ケ同年八月二十五日ニ其事ヲ終了シ直チニ申請ニ要スル書類ノ調製ヲ爲シ發起人ノ調印ヲ得藤村義苗ヲ發起人總代ニ選定シ且ツ東京市京橋區明石町六拾壹番地所在藤村義苗ノ私宅ヲ以テ假創立事務所ト爲シタリ

明治三十九年二月下旬發起申請ニ係ル諸般豫備ノ手續ヲ完了シタルヲ以テ同月二十八日東京府知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ發起認可ノ申請ヲ爲シ其後當該官廳ト交涉シ同年三月九日、五月十日、六月十三日ノ三回ニ其書類ノ訂正追加變更ヲ爲シ明治三十九年六月八日付農商務省指令商第千九百九十三號ヲ以テ當會社ノ發起ヲ認可セラレ同月十三日東京府廳ヨリ其認可書ヲ傳達セラレタリ

爾來發起人ハ株式ノ募集ヲ爲シタル所應募者非常ニ多數ナリシ爲メ之カ整理處分ニ時日ヲ費シ七月十九日總株式ニ付各申込人ノ引受株數決定シタルヲ以テ即日其旨ヲ各申込人ニ通告シ且ツ豫テ申込ト同時ニ證據金トシテ申込株金額ノ四分ノ一ニ當ル金額ヲ拂込マシメタル分ヲ直チニ第一回株金拂込ニ充當スルコトヲ通知シタリ

同日發起人一同ニ對シ八月三日午後一時ヨリ東京市日本橋區坂本町東京銀行集會所ニ於テ發起人總會ヲ開ク旨ヲ通知シ又同日午後三時ヨリ前同所ニ於テ當會社創立總會ヲ開ク旨ヲ各株式引受人一同ニ通知シタリ

【第二號ヨリ第五號マデ省略】

○庶務ノ事

明治三十九年　萬歳生命

營業免許申請

一八月三日當會社本店（假營業所）ヲ東京市日本橋區室町壹丁目拾番地ニ設置シタリ
同日取締役ノ互選ヲ以テ柳谷謙太郎ヲ社長ニ藤村義苗ヲ專務取締役ニ選擧シタリ
同日法學士粟津清亮氏ニ當會社顧問ヲ法學博士鳩山和夫氏ニ法律顧問ヲ囑託シ共承諾ヲ得タリ同日法學士若林清ヲ當會社主事ニ醫學士西巻治一郎ヲ醫長ニ鴻田秀一ヲ主事補ニ採用シタリ
一八月四日東京府知事ヲ經テ農商務大臣ニ營業免許ヲ申請シ同月十六日其免許ヲ得タリ
一八月十七日當會社設立登記ヲ東京區裁判所ニ申請シ同日其手續ヲ了シタリ
一八月二十九日東京市京橋區銀座壹丁目十三番地所在煉化造瓦葺二階建壹棟貳拾五坪七合五勺附屬家木造瓦葺二階建壹棟八坪七合ヲ當會社ニ買入レタリ
一八月三十一日皇太子殿下御誕辰ノ吉日ヲ以テ廣ク當會社營業開始ノ發表ヲ爲シタリ
一十月一日片岡旗郎及商業士中越正彰ヲ當會社主事補ニ採用シタリ
一十月四日當會社責任準備金利用ノ方法中ノ一部訂正ノ儀ヲ東京府知事ヲ經テ農商務大臣ヘ申請シ同月十八日共認可ヲ得タリ
一十一月九日男爵澁澤榮一氏ヲ當社相談役ニ囑託シ其承諾ヲ得タリ

日清生命保險株式會社

生命保險株式會社發起認可申請書

今般私共日清生命保險株式會社發起仕度候ニ付御認可被下度保險業法施行規則第一條ニ據リ別冊定款、事業方法書、普通保險約款、保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法ニ關スル書類幷ニ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類相添ヘ此段申請仕候也

明治三十九年十月八日

東京市　前島　密　　東京市　白井遠平
横濱市　齋藤忠太郎　　東京市　增田義一
東京市　池田龍一　　東京府　三枝守富
山梨縣　佐竹作太郎　　東京市　森村關作
横濱市　安部幸兵衞　　横濱市　左右田金作
東京市　根津嘉一郎　　東京市　相馬永胤
東京市　高田早苗　　東京市　田中唯一郎

日清生命保險株式會社發起人

東京市　牟田口元學　　東京市　中野武營
東京市　山田英太郎　　京都市　藤原忠一郎
東京府　兒嶋惟謙　　東京市　淺田德則
横濱市　來栖壯兵衞　　横濱市　渡邊和太郎
横濱市　茂木保平　　横濱市　小野光景
東京市　土子金四郎　　東京市　田中穗積
東京市　坪谷善四郎　　東京市　澁澤榮一

明治三十九年　萬歲生命　日清生命

東京市　村井吉兵衛　大阪市　山口玄洞　大阪府　宅徳平　大阪市　杉村正太郎
神戸市　麥少彭　神戸市　吳錦堂　大阪市　浮田桂造　大阪市　金澤種次郎
名古屋市　上遠野富之助　横濱市　石川德右衛門　横濱市　大濱忠三郎　横濱市　樋口金久次郎
新潟市　齋藤喜十郎　東京市　天野爲之　東京市　鳩山和夫　東京市　鈴木寅彦
東京市　久米良作　横濱市　增田增藏　東京府　大隈重信

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治三十九年十二月六日附農商務省指令商第八四〇二號ヲ以テ認可

日清生命保險會社の設立趣意書

嚮古未曾有の大戰捷の後を承け、世界の大勢に照し時代の要求を稽へ、我等は日清兩國に亘る一大生命保險會社を設立するの急務なるを認め、茲に萬般の計畫完整して之を天下に發表する機運に到著せり、依て先づ之を我等の最も敬愛する吾早稻田大學の校賓並に校友諸君に謹告し併せて諸君の熱心なる贊同を請はんと欲す

今や我等早稻田大學に關係ある同人は全國を通して最大多數の學生、校友、校賓を有せり殊に其校友團體の如きは啻に其員數に於て全國の各學校中第一位を占むるのみならす其社會に於て占むる所の位地は政治、教育、實業を始めとして有らゆる方面に涉り而して更に之を聯結するに社會的兄弟たるへき同窓同學の深切なる根蒂を以てす、是豈他に於て決して見る能はさる强盛無比の團體的勢力にあらすや、此勢力を利用して間接には國家の進運に貢獻し、直接には相互の福利を增進するは我等の共有する一大責務なりと信ず、日清生命保險會社は則ち此團體的勢力を基礎として生れ出たるものなり

現時世界の實勢は國民の間に於ける生命保險金の多少を以て文明の進度を秤量する程にて生命保險の必要と利益とは改めて絮說するを須たず、今や生命保險會社の我國に設立せらるゝ者二十八の多きに達し、外國より來り運動する者亦四大會社を數ふるに至れりと雖も、人口と生命保險額との割合を見れば我は僅に獨逸の十分一、英の三十五分一、米の六十分一に當るに過ぎず、此際基礎鞏固なる一大生命保險會社の起るは正しく時代の要求なりと謂ふべし

殊に吾日清生命保險會社は其事業範圍が廣く淸國に及ぶに於て、唯一無類の廣大なる規模を有するものなり

從來既設の保險會社にして同一の志望を有する者なきにあらさりしも、其目的を達する能はさるは職として特別の便宜を有せさりしに由る、然るに日清生命保險會社の中心たる吾早稻田大學には支那留學生部ありて淸國の學生頗る多く、而して既に學成り業卒へて歸國せる學生は其成績頗る顯著多くは科擧に及第して進士に擧げられ著々國政の要路に向て昇進し又彼の實業界に入りて樞要の地位を占む、其他吾大學の校友中或は顧問として或は敎官として淸國に傭聘せらるゝ者も亦少なからず、且つ吾早稻田大學の創立者大隈伯爵の總裁する同仁會は支那、朝鮮に文明的醫術の普及を圖らんが爲め同會所屬の學校と病院とを早稻田に設け專ら支那學生に醫術を學ばしめんとする計畫あり、思ふに此慈惠的事業が間接に保險事業を支那大陸及韓半島に紹介するの好媒たるや疑を容れず、此の如き特別の關係は吾會社の獨り擅にする所にして、他に絕へて見る能はさる所なり、日淸生命保險會社が必ず世界に於ける一大生命保險會社として東洋の表に屹立するに至るべきは我等の堅く信じて疑はさる所なり

日淸生命保險會社設立の趣意は大要右に開陳したる所の如し、而して之か設立は一に吾早稻田大學の校賓並に校友諸君の協贊贊助に待たさるべからずと雖も、我等は必ずしも早稻田大學の有緣者のみを以て此事業を經營

せんとするの意に非ず、普く世間有力者の協力によりて共に斯業の完成を企圖するや勿論なり、要は此會社の設立によりて吾大學と社會との關係を一層密接ならしめ彼是相利用して事業の發達を計り社會の公益に寄與せんとするの微意に外ならず、若夫計畫の細目に至りては載せて別紙に在り、諸君翼くは奮て此擧を翼贊せられんことを

明治三十九年十一月三日

發起人

橫濱生命保險株式會社

〔一一・二九、中外商業〕橫濱生命保險の發起　橫濱市に於ける生命保險料は非常の巨額に達し居れるが其大部分は外國保險會社に吸收せられ居るを慨して若尾幾造氏其他橫濱紳商連の發起にて大規模の生命保險會社創立の議熟し今明日頃其筋へ認可申請を出すべしと云ふ

國光生命保險相互會社

第三生命保險相互會社發起認可申請書

私共儀今般生命保險事業ヲ營マンカ爲メ第三生命保險相互會社ヲ發起致度候ニ付御認可被成下度左記ノ書類相添へ此段申請候也

一定　款
二普通保險約款
三事業方法書
四保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
五責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類
六重ナル基金醵出者ノ豫定氏名表

（參考書類）

千葉縣東葛飾郡松戸町千七百五拾六番地　岩村兼善
東京市本所區外手町貳番地　菊池永之助

明治三十九年　橫濱生命　國光生命

東京市麴町區富士見町五丁目三番地　山根正次
東京市麻布區麻布本村町七拾五番地　石井良平
東京市麻布區麻布本村町七拾五番地　石井久米吉
東京市麻布區麻布本村町八拾七番地　西本久兵衛
茨城縣北相馬郡稻戸井村　海老原喜右衛門
東京市下谷區仲徒町三丁目廿一番地　櫻井鐵三
埼玉縣入間郡福岡村大字福岡五番地　吉野彦太郎
東京市神田區西小川町貳丁目九番地　廣木三藏
東京市淺草區元鳥越町壹番地　田村平八郎
東京市芝區白金今里町八拾貳番地　畑實德

農商務大臣　松岡康毅殿

右申請書中追補

第三生命保險相互會社發起認可申請書中「參考書類」ノ次行ニ「明治三十九年四月四日」ノ十字ヲ追補ス

【備考】明治三十九年五月二十二日附農商務省指令商第三九〇八號ヲ以テ認可

發起人追加屆 (741)

發起人追加御屆

一左記ノ七名明治三十九年四月四日附提出シアル第三生命保險相互會社發起人ニ相成候ニ付此段御屆申上候也

明治三十九年八月廿一日　總代人　廣木三藏

宮崎縣宮崎郡廣瀬村　伯爵　嶋津忠亮
埼玉縣大里郡吉見村大字胄山百五十二番地　根岸伴七
東京市芝區愛宕下町四丁目壹番地　中鉢美明
宮城縣遠田郡元涌谷村參番地　笠松千代治
神奈川縣三浦郡浦賀町紺屋二十六番地　臼井儀兵衛
東京市日本橋區本町四丁目十一番地　星野男三郎
東京市麴町區內山下町一丁目一番地　横山彌一郎

千家知事宛

創立委員 (742)

〔一一・二九、報知〕第三生命相互の發起會　過日農商務省より設立の認可を得たる同保險會社發起人は廿七日午後五時神田錦町三河屋に集合す

創立委員として島津伯、岩村兼善、畑實德、星野男三郎、廣木三藏の五氏を選擧したる由

普通保險約款 (743)

第一類普通保險約欵（抄）（明治三十九年四月四日制定　明治四十年十月廿五日實施）

第六條　保險料ノ拂込ニ付キテハ期日後五十日ヲ猶豫期間トス但拂込期日ニ拂込ヲ怠リタルトキハ百圓ニ付一日金四錢ノ延滯利子ヲ徵收ス

前項ノ猶豫期間ヲ經過シテ尙ホ拂込ヲ爲サヽル場合ト雖モ其拂込ムヘキ保險料及ヒ其利子カ第十七條ノ返還金ヲ超エサルトキハ該返還金ニ相當スル金額ヲ貸付金ニ振替ヘ其保險料ニ充ツ

第七條　被保險者カ著シク危險ナル旅行職業其他ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ其旨ヲ當會社ニ

通知スヘシ此場合ニ於テハ當會社ハ保險契約ノ解除ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額支拂ノ責ニ任セス

一被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ此等ノ地ニ於テ蒙リタル負傷又ハ疾病ニ因リテ死亡シタルトキ但軍籍ニ在ル者ニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ以テ保險金額ノ全部又ハ一部ヲ支拂フコトアルヘシ【二、三、五ハ省略】

四第七條ニ規定シタル通知ヲ爲サスシテ其行爲カ原因トナリテ死亡シタルトキ

第十七條　保險契約ノ解除失効又ハ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テモ三年度以上保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ其保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ全額ヲ返戻スヘシ

第十九條　保險契約者ハ當會社ノ社員トシテ定款ノ定ムルトコロニ依リ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ヲ有スルモ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

第二十條　保險契約者ハ三年度以上ニ亘リ保險料ノ拂込ヲ爲シタルトキハ當會社ノ保險證券ヲ擔保トシテ年六分ヲ超エサル利子ヲ以テ第十七條ニ定メタル返還金額以内ノ貸付ヲ求ムルコトヲ得但保險金額ヲ受取ルヘキ者カ保險金ノ支拂ヲ受クル場合ニ尚ホ貸付金ノ返還ヲ爲ササリシトキハ貸付金ノ元利金ト相殺シテ其殘額ヲ交付ス

〔五・一九、報知〕

太平生命保險株式會社

新式の太平生命保險會社　前の農商務省保險事務官楠秀太郎氏か今回發表せる太平生命

保險會社の計畫を聞くに資本金を壹百万圓と定め之を壹千株に分ち從來保險業者の通弊たる大株主重役等の獨占的に私利私福を恣にすることなからしめるため株主は汎く各地方の財力德望共に高き人にして利益を第二とし、第一に趣旨を贊成する篤志家百名内外に限り一名の引受株を五株以上二十株以下と定め、尚ほ會社の承諾なくして賣買讓與及擔保に供することを禁し、株主全體を發起人として信用確實なる模範的生命保險會社たらしめむとするものなりと

〔一二・二八、大阪朝日〕

太平生命保險會社の創立準備

楠秀太郎氏の發起に係る同保險會社は資本金百萬圓にして其の株式は各地の資産家より募集する方針にて過般楠氏は關西地方に遊說し當地にては右近權右衞門岡橋恒藏磯野良吉氏等大株主となり東京及び岡山地方の應募者を合せ既に七十万圓を募入し殘餘は明年早々滿株の見込の由にて目下夫々創立準備中なりと云ふ

明治三十九年　國光生命　太平生命

明治四十年

日本生命保險株式會社

(746) 東京支店移轉

〔一二・六、中外商業〕日本生命保險株式會社
一明治四十年十一月二十五日東京支店ヲ東京市日本橋區瀨戸物町十一番地ニ移轉ス
右明治四十年十一月三十日登記

(747) 其他ノ事項

其他ノ事項——保險金最高額引上・大連ニ代理店新設・臺北ニ代理店新設（第十九回事業報告書ヨリ）（明治四〇・一一・一二・三一同）
一壹月十五日本社ニ於テ引受クル保險契約金額ノ最高限ヲ貳萬圓トナシタリ
一五月四日初メテ清國大連市ニ代理店ヲ設ケタリ
一十二月十五日臺灣臺北ニ初メテ代理店ヲ設ケタリ

名古屋生命保險株式會社

〔六・八、中外商業〕商業登記廣告

【備考】明治二十六年設立登記事項・第二卷第二編（97）ト同樣ノ事項ハ省略セリ

株式會社登記簿第一一冊第五〇二號

一商　號　名古屋生命保險株式會社

一本　店　名古屋市傳馬町二丁目六番地ノ第一

一支　店　東京市日本橋區室町三丁目十番地

一公告ヲ爲ス方法　本店又ハ支店ノ所在地ノ管轄裁判所ノ公示ヲ爲ス新聞紙ニ揭載ス

一取締役ノ氏名住所　小栗富次郎、長阪重孝、白石半助、井口半兵衞、端山忠左衞門、穗積寅九郎

一監査役ノ氏名住所　蜂須賀武輔、小栗福藏

右明治四十年六月六日登記

〔一二・二一、名古屋新聞〕名古屋生命組織改革　名古屋生命保險會社は既報の如く今回其組織を一變する事

となりたるが尙ほ聞く處に依れば同社の大株主は東京に移りたるより從つて之れが經營者も其內に求めざるを得ず遂に松平男を社長に又兒玉文太郎氏を取締役に推薦する事に內定し明二十二日午前十時より同社內に臨時總會を開き正式に選任の手續を爲す筈なるが彼の本社を東京に移すべしとの風說は多少根據あるものゝ如く結局之れと同時に內部に一大改革を加へ全然新基礎の上に置かるべしと云ふ

其他ノ事項——定款變更・主務省ノ檢査・小栗氏辭任・責任準備金算出方式變更・新任役員（第十五回明治四〇・一・二二・三一事業報告ヨリ）

明治四十年二月二十二日定款變更認可申請書ヲ主務大臣ニ提出セリ

同年三月九日定款認可申請書補遺追申書ヲ主務大臣ニ提出セリ

同年三月二十七日定款變更認可申請書及同補遺追申書訂正屆ヲ主務大臣ニ提出セリ

同年五月九日定款變更ノ件主務大臣ヨリ認可セラル

同年同月二十日前記登記濟報告ヲ主務大臣ニ提出セリ

同年六月二日農商務省保險課長村上隆吉保險事務官宮本幸五郎ノ兩氏來社簿書ノ檢査ヲ受ク

同年同月三日取締役小栗富治郎辭任ス

同年七月十日責任準備金算出方式變更ノ件主務大臣ヨリ認可ニ接ス

同年十二月八日取締役井口半兵衞白石半助穗積寅九郎辭任ス

同年同月十五日監査役蜂須賀武輔辭任ス

同年同月二十三日前記取締役及監査役辭任並ニ取締役補缺男爵松平正直兒玉文太郎就任ノ登記ヲ名古屋區裁判

所ニ申請シ卽日完了セリ

役員中變更 (751)

國民生命保險株式會社

〔三・一一、官報〕國民生命保險株式會社登記事項中左ノ通變更セリ

一監査役松阪昭二ハ辭任セリ

一取締役補缺及增員ニ依リ左ノ者當選就任セリ

奈川貢　松阪昭二　小島範一郎　【住所略】

右明治四十年三月六日登記

廣島區裁判所

五條警察署長ノ報告書

佛教生命保險株式會社

部內河原町通四條上ル處ニ存立セル佛教生命保險株式會社ハ數年前ヨリ多額ノ缺損ヲ生シ（廿万圓ノ株式會社ニシテ一株五十圓株既拂込金ハ二十二圓五十錢缺損約七萬圓也）其當時ノ重役能川登、藤原忠兵衞、同忠之助等ニ於テ寄附行爲其他ノ方法ヲ以テ整理中ノ處去ル三十八年下半期株主總會開催前ニ當リ大阪市潛リ的ノ人物戶上久吉ハ種々ノ方策ヲ旋ラシ同社株券六百餘株ヲ買收シ同社ニ對シ檢査役設置方ノ申請權ヲ獲得セシヲ利用シ重役等ニ對シ威嚇的ノ行動ヲ示スニ依リ重役ハ憂惧ヲ感シツヽ居ルノ狀態ニ有之候處昨三十九年三月現重役ノ責任ハ後重役ニ於テ全部引受ケ其代償トシテ前記重役三名ノ持株貳千五百十四株ヲ無償ニテ後重役ヘ讓渡シ且ツ此レ迄二、三名ヨリ寄附行爲トシテ會社ヘ出資セシ貳万圓外ニ繰リ換金五千圓ハ會社整理濟ノ上返還ヲ受クトノ條件ノ下ニ前記戶上久吉、富永藤兵衞、岩坪政則ノ三名何レモ大阪市在住ノ者ヘ讓渡シ株主總會重役選擧ノ結果前記三名當選シ戶上久吉專務取締役トシテ整理中昨三十九年五月　日其筋ヨリ新契約ノ停止ヲ命セラレタルモノニシテ會社ハ其後整理ヲ名トシ全國ニ散在セル各代理店及出張店ヘ社員ヲ派シ各店ニ於ケル會社ニ屬スル財産ノ全部ヲ取立テタリトノ聞ヘアリ又既契約者ヨリハ保險金ノ拂込ヲ受ケツヽ居リナカラ契約死亡者

及解約申出者ニ對シテハ調査又ハ會社整理中ニ付整理濟ノ上直チニ送金スト言ヲ左右ニ托シテ其場ヲ糊塗遷延シ甚シキハ被保人ヨリ死亡及解約ノ通知ヲ受クルモ返信スラナサス等閑ニ附シ居ル樣ノ狀態ニシテ爲メニ契約者ヨリハ書面ヲ以テ同社說諭方ヲ當署ヘ出願スルモノ屢々有之ニ付當署ハ其都度諭示ヲ加ヘ相當ノ手續ヲ了セシメツヽ居ルモ探聞スル處ニ依レハ目下契約死亡者ニ對スル保險金未拂口數ハ約壹百五六十口此金額凡ソ壹万八九千圓解約申出數貳百餘口此金額約壹万圓餘計參万圓內外ノ未支拂額有之趣ニテ要スルニ同會社ノ現今ノ狀況ヲ知ラサル被保人ハ每月若クハ每期ニ掛金ヲ爲シツヽアルモ一朝解約又ハ死亡等ニテ保險金支拂ノ請求ヲ爲ストキハ整理中又ハ調査中ナリト稱シ支拂ヲナサス畢竟目下受取リツヽアル被保人ノ掛金ハ事務員ノ俸給其他ニ使用セラレ會社整理又ハ被保金支拂ニ充當セス日一日ヲ苟且ノ間ニ經過セントシツヽ居ルモノニ無之ヤト疑ハルヽ點有之又前專務取締役戶上久吉ハ或ル事情ヲ口實トシ辭任セシニ付去ル六月廿七日株主臨時總會ヲ開キ選擧ノ結果取締役ニ岩坪政則、濱野十郎、佐々木仁造監査役ニ白井勘造、芝野幸造五名當選、岩坪政則ヲ專務取締役ニ推選セシモ何レモ大阪市住人ニシテ專務取締役岩坪政則スラ社務ヲ視ルコト漸ク月數回ニ止マリ社務ハ事務員四名ニ打任セ居ルモノニシテ急速整理ヲ遂行セントノ念慮ナキモノヽ如ク重役等ハ其間ニ於テ私利ヲ謀ラントシツヽ居ルモノニハアラサルヤト疑ハルヽ點有之候條御參考迄右狀況此段及報告候也

明治四十年七月十六日

五條警察署長　警視　篠田末五郎

〔七・二五、京都日出〕佛教生命重役喚問と整理案　佛教生命保險會社重役は二十三日本府へ喚問せられ佐々木仁造、岩坪政則の二氏出廳したるとは既報の如くなるが府當局者の整理方法に關する訊問に對しては何分數字的詳細の事に涉れは卽答なし難く且重役も其後更迭し卽ち二十三日を以て登記手續を了したる次第なれは何れ書面にて回答すべき旨を述べ退出したるが同會社にては昨日午前重役會を開き種々協議の上一昨秋主務省より下されたる整理命令の件に付き具體的の整理案を一兩日中に作製し來る三十日開會の筈なる株主總會に附議し右確定の上は更に重役一名該案を携へ東上主務省へ具申する由、因に同社前重役戶上氏等は辭任し今回新に就任したる重役の顏觸れは社長佐々木仁造、專務取締役岩坪正則、取締役濱野十郎、監査役柴野峯藏、白井勘藏の諸氏なりと

有隣生命保險株式會社

申請書

明治四十年八月六日付申請仕候當會社貸付金處分ニ關シ今般更ニ處分標準ヲ定メ再應申請スヘキ旨御示達ニ就テハ左記程度ニ依リ處理致度候間御認可被成下度別紙處理方法調書相添ヘ此段申請仕候也

一明治四十年七月九日付御命令第十號ノ整理期間參箇月內ニ貸金全額回收シ難キモノハ內金回收ヲナシ猶其殘額ニ對シ向壹箇年以內ニ於テ繼續延期ヲ爲ス事

明治四十年　佛教生命　有隣生命

一時宜ニ依リテハ向五ケ年以内ノ月賦若クハ年賦返濟法ヲ採ル事
一延期又ハ年賦方法ニ據ルトキハ可成確實ナル擔保品ヲ提供セシムルカ或ハ相當保證人ヲ立テシムル事
一到底貸金回收ノ見込ナキモノハ擔保品ヲ處分シ又ハ執行處分ノ手續ヲ爲ス事　以上

明治四十年九月十四日　　東京市日本橋區南茅場町四十四番地　有隣生命保險株式會社
　　專務取締役　蟹江次郎

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十年九月二十七日附農商務省指令商第七五三五號ヲ以テ認可

農商務省商工局長ヨリ東京府知事ヘ通牒　明治四十年九月二十七日

商第七五三五號　本月十九日付未農甲第七五六號ノ二ヲ以テ御送付ニ係ル有隣生命保險株式會社貸付金處分ニ關スル認可申請ノ件別紙ノ通リ指令相成候處、處分方法中時宜ニ依リ五箇年以内ノ月賦又ハ年賦返濟法ヲ採ル場合アル如ク記載有之候得共長期ノ期間ヲ契約シテ年賦辨濟ノ方法ヲ採ルカ如キハ貸金整理ノ上ニ於テ不便勘カラサルモノト被認候ニ付可及的短期ノ期間ヲ以テ辨濟期ト爲シ且ツ月賦又ハ年賦償還ノ方法等ハ可成之ヲ避ケ事情已ムナキモノアルニ於テハ一部内入金ノ方法ニ依ラシメ隨時回收手段ヲ採リ得ヘキ餘地ヲ存セシムル方針ヲ以テ處理スヘキ樣御垂示置相成度此段及御通牒候也

右ニ關シ月賦年賦償還ヲ可及的避クル事

北陸生命保險株式會社

〔四・九、官報〕北陸生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役ニ左記ノ者明治四十年三月三十一日就任セリ
東京府南多摩郡忠生村下小山田七十五番地　朝倉要之助

一監査役島村定一ハ前同日退任シ同副島延一ハ重任シ左記ノ者同日監査役ニ就任セリ
石川縣金澤市茨木町五十八番地　宮崎直道

右明治四十年四月四日登記
東京區裁判所

明治四十年　有隣生命　北陸生命

業務整理ニ付協定 (757)

相互生命保險合資會社
日本共立生命保險合資會社（四十年十月改稱）

協定書

明治三十九年十月廿二日付ヲ以テ前業務擔當社員梅小路定行同吉倉佳三郎ヨリ主務大臣ニ提出シタル整理意見書ニ基キ左ノ條項ヲ協定シ入社ノ日ヨリ壹週間內ニ之ヲ實行スルコヲ協定ス

一未拂保險金及解約返戻金ノ全部ヲ卽時支拂フ事
一借入金ノ全部ヲ返金スル事
一缺損金ニ付テハ出資拂込額全部ヲ切捨テ尙其不足額ハ現金寄附ヲ以テ補塡スル事
一營業ヲ確實ニセンガ爲メ總資本金ノ五分ノ二ヲ拂込ム事

右

明治四十年三月十二日

森田長治郎
藤川秀三郎
下村忠三郎
相原信太郎

社業整理新契約停止解除ニ付申請 (758)

社業整理之義ニ付申請

本社々業ノ義ニ付テハ屢々檢查官ヲ派セラレ親シク御調查ノ上懇篤御命達ノ次第モ有之候ノミナラス監督官廳ヲ經テ御諭達ノ次第モ有之候處今回社員總會ニ於テ別紙寫ノ通決議致候ニ就テハ斷シテ之レカ實行ヲ期シ社運ノ挽回ヲ圖リ度候間何卒速ニ御解停相成度此段申請候也

明治四十年三月十四日

相互生命保險合資會社
業務擔當社員　吉倉佳三郎

農商務大臣　松岡康毅殿

社業整理ニ關スル決議案提出ノ理由 (759)

第一號乃至第三號議案提出理由書

本社カ曩ニ主務大臣ヨリ新契約ノ停止ヲ命セラレ同時ニ整理條項ヲ示サレタル以來銳意之カ整理ニ着手シタルモ簿書錯雜既往ニ遡リ調查ヲ要スルモノ多ク爲メニ意外ノ日子ヲ費シ漸ク客年十月ニ至リ略ホ整理ノ見込立チタルヲ以テ整理始末書ヲ携ヘ梅小路、吉倉兩業務擔當社員東上親シク當局有司ニ面接陳スル處アリシモ未タ整理始末書ノ實行ヲ斷スル能ハサルニヨリ解停ノ恩命ニ接スル能ハサルハ誠ニ遺憾トスル處ナリ仍テ今回一大英斷ヲ以テ別紙第一號乃至第三號議案ヲ提出シ決議實行ヲ期シ社運ノ挽回ヲ圖ラントス

【備考】別紙第一號（明治四十年一月一日財產目錄）第二號（缺損金ノ補塡）第三號（出資持分額ノ拂込）ノ各議案ハ省略セリ

〔五・一五、京都日出〕 **相互生命保險會社買收談成立**　絹絲紡績會社重役藤川秀三郎氏等が同保險會社買收

明治四十年　相互生命（日本共立生命）

買收談成立

に付き過般來双方交渉中なりしことは既に記載する所ありしが右は其後同保險會社現在缺損金約一万五千圓を同重役に於て補填することゝなり藤川氏等は右補填後更に資本金十萬圓の四分の一即ち四萬圓を一時に拂込み業務の全體を繼承すると同時に其筋に對し新規保險契約停止解除の申請を爲し全く組織を變更し大に營業上の擴張を計らん筈なりと而して前記缺損金の三分の一即ち五千圓は兩三日中同氏の手許に到着する由にて殘額一万圓は漸次送金を受くることに確約し社名は從前の儘存置するの方針なるが、右繼承者は藤川氏の外下村忠三郎、森田長次郎の二三氏のみにして先般農商務省保險課員伊藤萬太郎氏の同社現況を取調へたる際前記一万五千圓の缺損金を補填し今後違算なく營業を繼續するに於ては別に危險の恐れなしと言明したる由

缺損補填ニ付新舊出資者ノ協定 (761)

協定書

一明治四十年三月五日附假契約書ニヨリ相互生命保險合資會社出資金額ヲ藤川秀三郎、下村忠三郎及其指定人ニ於テ讓受ケ權利義務ヲ繼承スルニ當リ會社ノ資産及負債ニ相違ノ廉アルヲ發見シタルニヨリ双方協議ノ上缺損金ヲ金壹萬五千圓ト定メ新出資者總代藤川秀三郎ヨリ金七千五百圓ヲ出金シ寄付行爲ニヨリ該缺損金ヲ補填スルコト

一前記缺損補填金壹萬五千圓ハ來ル六月十五日限リ双方ヨリ現金ヲ以テ提供スル事

新出資者總代　藤川秀三郎
舊出資者總代　谷川達海

明治四十年五月廿三日

契約書面變更新契約停止解除ヲ再申請 (762)

申請書

去ル三月十四日付ヲ以テ解停ノ御認可申請仕置候通爾後着々御命令事項ヲ整理シタル結果本月拾八日付ヲ以テ提出仕候通リ別紙貸借對照表ト相成候ニ付テハ今回更ニ其内容ヲ詳細ニ具申シ併セテ御參考トシテ新出資者ノ協定書提出仕候間契約書面變更ノ御認可幷ニ新契約停止解除ノ御恩命ニ接シ度此段重テ申請仕候也

明治四拾年七月一日

相互生命保險合資會社
業務擔當社員　吉倉佳三郎
新出資者總代　森田長治郎

農商務大臣　松岡康毅殿

社名改稱定款認可申請 (763)

申請書

今般會社ノ商號ヲ日本相互生命保險合資會社ト改稱シ尚ホ社員契約證ヲ定款ト改メ全部別冊之通リ變更仕度候間御認可被成下度別紙社員總會決議書相添へ此段申請仕候也

明治四十年八月十六日

商法施行前設立
相互生命保險合資會社
業務擔當社員　森田長治郎

農商務大臣　松岡康毅殿

解停ノ再申請 (764)

申請書

去ル七月一日付ヲ以テ整理始末ヲ具申シ新契約解停ノ申請仕置候處今般更ニ事業ノ前途ニ鑑ミル處アリ去ル八

明治四十年　相互生命（日本共立生命）

月十日臨時總會ヲ開キ別紙決議書中第四項ニ據リ資本金總額拾萬圓ノ拂込ヲ決議シ八月二十三日金五萬圓第一回拂込ヲ終了シ（第四十九銀行ヘ金貳萬圓、京都銀行ヘ金參萬圓）其他業務萬端ノ整理ヲ遂行仕候間解停ノ御恩命相仰キ度別紙參考書類相添此段重而申請候也

追申　詳細ノ義ハ七月一日付提出申請書御參照被成下度奉願候也

明治四十年九月十六日

相互生命保險合資會社　業務擔當社員　森田長治郎

農商務大臣　松岡康毅　殿

訂正願　(765)　定款中訂正願

本日臨時總會ヲ開キ別紙之通リ決議仕候間八月十二日付申請定款御訂正ノ上御認可被成下度此段奉願候也

明治四十年九月十六日

相互生命保險合資會社　業務擔當社員　森田長治郎

農商務大臣　松岡康毅　殿

臨時總會決議錄　(766)　右訂正事項（日本共立生命ト改稱其他）

明治四十年九月十六日本社ニ於テ臨時總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議ス

一本年八月十日臨時總會ニ於テ決議シタル商號ノ變更ハ主務省不認可ニ付更ニ日本共立生命保險合資會社ト改稱ス

【以下省略】

御届　(767)　社名改稱營業新移轉ノ登記濟届

左記事項登記濟ニ付此段御届申上候也

明治四十年十月二日

一商號變更　相互生命保險合資會社ヲ日本共立生命保險合資會社ト變更ス

一營業所移轉　明治四十年九月廿八日京都市下京區五條通高倉東入鹽竈町五拾六番戸ヨリ京都市上京區二條通新町東入ル大恩寺町六番地ヘ移轉ス

右明治四十年十月一日登記

農商務省指令商第九一九二號

京都府京都市上京區二條通新町東入ル大恩寺町六番地　日本共立生命保險合資會社

其社新契約締結ノ停止ヲ解除ス

明治四十年十月十八日

農商務大臣　松岡康毅

(768)　新契約停止解除ノ指令

京都生命保險株式會社

業務近況 (769)

〔六・二八、京都日出〕京都生命保險會社の近況　同會社にては從來重役間の意思疏通を缺き其間柄兎角圓滿ならざりし結果として多年同社經營の任に當りし常務取締役中堀幾太郎、支配人高島直介氏等は相前後して退任し、爾來中川取締役支配人を兼任專ら業務の擴張を計ることゝなりたるも、同氏は保險業に關する經驗に乏しき爲め今後果して充分の成績を擧げ得るや否や疑問と謂ふへく、又曩に主務省に對し認可を申請したる十万圓の資本金を十五万圓に增加するの件は未だ認可せられず、從つて利益配當附生命保險契約の新案も認可を請ふの運ひに至らざるを以て旁々從前の計畫に係る營業擴張案も實行し難く目下頻りに前記增資の認可を待ち居れりといふ

社長更迭 (770)

〔一一・一六、京都日出〕京都生命保險社長の交迭　同會社にては十三日午後臨時總會を開き取締役久世通章（社長）同中堀幾太郎兩氏の補缺選擧を行ひたるに、竹下康之（社長）朝倉要之助の兩氏當選承諾したるを以て直ちに重役會に移り、業務擴張其他保險約款（利益配當附）改正の件に協調を凝らしたりと云ふが、右約款の改正は充分愼重に調査を遂げたる上追つて主務省へ認可の申請を爲すことに決し、又業務の擴張は先々月鳥

解散認可申請 (771)

取市に出張所を新設したる外當分別に之を置かず、成るべく代理店制度に依り全國各地に右代理店を增設し以て新契約を募集する方針なりと云へり、尙ほ同社現在の總保險金額は約百五六十万圓にして解約申込は近來著しく其數を減少したりと

東亞生命保險株式會社

解散認可申請書

當會社今般任意解散候ニ付別紙ノ通リ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及保險契約ノ整理ニ關スル案相添ヘ申請仕候間御認可相成度候也

明治四十年一月廿六日　大阪市東區島町二丁目十一番地　東亞生命保險株式會社

取締役　佐々木善右衞門
取締役　水谷長太郎
取締役　吉岡卯一郎

農商務大臣　松岡康毅殿

明治四十年　京都生命　東亞生命

【備考】明治四十年三月六日附農商務省指令商第一〇三九號ヲ以テ認可

解散理由

解散理由書

本社カ曩キニ山陰生命ノ後ヲ享ケテ業務ノ擴張社勢ノ發展ヲ企圖シ爾來當務者ノ畫策ハ着々トシテ功ヲ奏シ會社ノ狀態稍見ルヘキノ域ニ達セントセルニ際シ不幸ニシテ無能無爲斯業ニ何等經驗ヲ有セサル輩ノ爲メニ本社重役ノ椅子ヲ占メラレテヨリ以來倒行逆施事ハ常ニ計畫ニ齟齬シ施設ハ常ニ差ヒ社務陵夷振ハス財政ハ素レ本社ノ安固ハ當ニ破壞シ去ラレントスルノ悲運ニ會シタリ

不肖等ノ本社ニ對スル關係ハ一朝一夕ノ事ニアラス其悲運轗軻ノ狀態ヲ屢々聞睹スルニ及ヒ袖手傍觀スルニ忍ヒス遂ニ意ヲ決シテ自ラ整理ノ任ニ當リ以テ數千ノ被保險者ヲ安堵セシメントシ昨年二月以來夙夜之レニ從事シ內ニ對シテハ社員交迭ノ斷行、諸帳簿ノ整頓、會社財產ノ整理、株金ノ拂込時ニ對シテ、出張所代理店ノ改廢、解約ノ防止ニ務メ新募集ニ對シテハ總テ消極主義ヲ持シテ漫リニ之レカ契約ヲ結ハスシテ以テ可成本社責任ノ加重ヲ防ク等苦心慘憺拮据經營以テ一意社勢ノ回復ニ務メテ玆ニ來レリ

然ルニ整理ノ大目的タル財產ニ於テ前重役カ不法不理ニ消費シタル巨額ノ金員ニ對シテハ種々ノ方法ヲ以テ之レカ辨償ヲ迫ルト雖モ言ヲ左右ニ托シテ之レニ應セサルノミナラス不埒ニモ本社カ好意的交涉ニ酬ユルニ反テ本社ノ弱點ヲ摘發虛構シテ世間ニ流布セルカ如キ言語同斷ノ行爲ヲ敢テシ遂ニ本社ヲシテ事ヲ法廷ニ爭フノ止ムナキニ至ラシメタルノミナラス不幸ニシテ此動機ハ反テ社會及被保險者ヲシテ本社ニ對シ危惧ノ念ヲ生スルニ至ラシメタリ

不肖等カ全力ヲ注キテ盡シタル整理ハ玆ニ一頓挫ヲ來シ再ヒ之ヲ繼續セントスルモ一タヒ懷キタル被保險者ノ疑惑ハ容易ニ之ヲ解ク可カラス一タヒ腦裡ニ印シタル世人ノ憂惧ハ再ヒ之ヲ除クニ困難ニシテ社勢ノ發展俄ニ望ム可カラサルヲ思ヒ將又本社カ整理ニヨリテ得タル資產ハ被保險者ニ對スル責務ヲ償ツテ餘リアルヲ以テ寧ロ玆ニ斷然幾多ノ情弊ヲ排シテ任意解散スルハ被保險者及株主ヲ保護スル爲メニ其當ヲ得タルモノト信スルモノナリ

明治四拾年壹月廿六日

東亞生命保險株式會社　右代表者取締役　佐々木善右衛門

會社移轉ニ付御屆

本社重役會議ノ決議ニヨリ明治四拾年貳月貳拾八日ヲ以テ大阪市東區島町貳丁目拾壹番地ヨリ大阪市北區西野田玉川町三丁目千三百五十四番地へ移轉仕リ同三月五日大阪區裁判所同三月八日京都區裁判所ニ於テ何レモ登記濟ニ有之候ニ付此段及御屆候也

明治四十年三月九日

大阪市北區西野田玉川町三丁目千三百五十四番地　東亞生命保險株式會社

農商務大臣　松岡康毅殿　　取締役　佐々木善右衛門

清算人選任屆

大阪市北區下福島貳丁目貳百六十七番地　佐々木善右衛門

大阪市東區北濱五丁目八拾六番屋敷　柿島欽吾

大阪市東區豐後町九拾貳番屋敷　若林治

右明治四十年一月十日開催ノ臨時株主總會ニ於テ當會社清算人ニ選任明治四十年六月五日大阪區裁判所ニ於テ登記濟

右及御屆候也

明治四十年八月一日

大阪市北區西野田玉川町三丁目千三百五十四番地　東亞生命保險株式會社

農商務大臣　松岡康毅殿　　清算人　佐々本善右衛門

明治四十年　東亞生命

眞宗信徒生命保險株式會社

契約書

小田尊順（以下單ニ甲ト稱ス）並ニ眞宗信徒生命保險株式會社（以下單ニ乙ト稱ス）其他ノ當事者ト九州生命保險株式會社（以下單ニ丙ト稱ス）並ニ北陸生命保險株式會社（以下單ニ丁ト稱ス）間ニ繫屬スル紛爭ニ關シ甲乙丙丁間ニ明治參拾九年拾貳月拾六日附ヲ以テ締結シタル和解假契約ニ基キ左ノ本契約ヲ締結ス

第壹條　丙丁ハ甲乙其他ノ者ニ對シ提起シ居ル株券取戻名義書換請求事件（京都地方裁判所明治參拾八年(ワ)第貳七七號事件）ノ訴ヲ甲乙ハ勿論其他一切ノ被告ニ對シテ全部取下ケ且將來本件紛爭ニ關シ何等ノ請求ヲモ爲サヽル事

第貳條　丙丁ハ前條ノ事件ニ關聯シタル假處分事件ヲ速カニ取下ケ假處分ノ解除ヲ爲スヘキ事

第參條　丙丁ハ乙會社ノ株式壹千六百參拾株ヲ甲ニ賣渡シ甲又ハ甲ノ指名者ノ名義ニ書換フヘキ手續ヲ盡スヘキ事

第四條　甲ハ丙丁カ前參條ノ各手續ヲ爲スト同時ニ丙丁ニ對シ示談金及株式代金トシテ金拾壹萬八千八百五拾圓ヲ交付スヘキ事

第五條　甲ハ第參條ニ記載シタル外丙丁ヨリ乙會社ノ株式六拾株ヲ金貳千四百圓ヲ以テ買受クル事ヲ承諾シタル事

第六條　乙ハ丙丁トノ計算上乙ノ預リトナリ居ル金參萬四千四百九拾壹圓四拾貳錢ニ金壹千五百圓ノ利息ヲ付シ速カニ丙丁ニ返還スヘキ事

第七條　本契約ハ本月參拾日迄ニ必ス履行スヘキ事

右契約ノ正確ナル事ヲ證スル爲メ本契約證貳通ヲ製シ甲乙丙丁ノ代理人各記名捺印シ甲乙ニ於テ其壹通ヲ丙丁ニ於テ其壹通ヲ各自保有スルモノ也

明治四拾年壹月貳拾日

小田尊順竝ニ眞宗信徒生命保險株式會社
取締役木村省吾代理人　岸　清一
九州生命保險株式會社
北陸生命保險株式會社
代理人　横田千之助

保險業法第十一條ニヨル御命令解除ノ義ニ付申請

（業法十一條ニ依ル命令ノ解除ヲ申請）

眞宗信徒生命保險株式會社

抑モ當會社ノ創立ハ明治廿八年一月十七日ニシテ營業ヲ開始セシハ同年四月一日ニ有之候其之ヲ計畫スルニ至リタル理由ハ當時既ニ宗教ヲ標榜シタル同業會社勘ナカラス明教ト云ヒ佛教ト云ヒ有隣ト云ヒ甚シキハ名古屋ニ於テ眞宗ト名ツクルモノアリテ何レモ本願寺ト密接ノ關係アルカノ如ク吹聽シ被保人募集ニ從事シタルヨリ

明治四十年　東亜生命　眞宗信徒生命

本派本願寺ノ如キ其末寺檀信徒ヨリ事ノ實否ヲ照會シ來ルモノ頻繁當時本山ノ當路者ハ謂ヘラク頃日保險事業熱ノ熾ナル間々似而非ナル泡沫會社モ少ナカラス如上宗教ヲ標榜シツヽアル既設會社ニシテ果シテ確實ナレバ我檀信徒ノ之ニ加入スルモ憂慮スルニ足ラサルノミカ寧ロ國家ノ爲メ宗門ノ爲メ慶賀スヘキ事ナリ然レトモ一朝中途挫折瓦解スルカ如キモノアラン乎個々檀信徒ノ不幸ハ直チニ以テ宗門ノ衰頽トナリ延ヒテ邦家ノ隆盛ヲ妨クルモノナレバ本派ハ宜シク本派ノ檀信徒中有力ナル人々ニ依リテ一ノ生命保險會社ヲ組織シ同朋相依リ同行相扶ケ以テ個々ノ幸福ヲ增進スルト共ニ宗門ノ隆昌ヲ圖ルノ目的ヲ以テ進行セハ或ハ護國扶宗ノ本分ヲ盡スニ庶幾カラン乎ト一席ノ茶話之レカ動機トナリテ本派ノ信徒中，殊ニ有力ナル小西新右衞門外十七名發起人トナリ四千二百株ヲ引受ケ殘餘ハ全國ニ涉リ有力ナル本派信徒二百三十四名ニ分割シ茲ニ資本金五十萬圓ニシテ壹萬株ノ株式會社ヲ成立セシメタリ創立總會ニ於テ小西新右衞門外七名ノ取締役阿部市郎兵衞外三名ノ監査役ヲ撰擧シ尙ホ取締役互選ノ結果、社長トシテ小西新右衞門，專務取締役トシテ高井幸三當撰就任シ事業ヲ開始スルト共ニ本派本願寺ハ門末一般ニ對シ會社ノ確實ナル所以並ニ被保人募集上相當ノ便宜ヲ與フヘキ旨ノ諭告ヲ發シ內外一致事業ノ擴張ニ勉メタル結果旭日中天ノ勢ヲ以テ進ミ同業者ヲシテ後ヘニ瞠若タラシメタリシカ三十三、四年頃ニ於ケル經濟界ノ恐慌ハ端ナクモ當會社ト姉妹的ノ關係アリト稱セラレシ株式會社起業銀行ノ失態トナリ卅三年拾壹月ニ於ケル芝原取締役ノ退任、杉本監査役ノ退任超ヘテ卅五年三月阿部監査役ノ死亡等當會社株式動搖ノ素因トナリ遂ニ野心家ノ侵蝕ヲ容易ナラシメ七八月ノ頃ニ及ヒ株主中、革新同盟會ナル名ヲ以テ檄文ヲ配布シ頻リニ時ノ當路者ヲ攻擊否ナ寧ロ讒謗中傷スルニ至ラシメタリ此際幸ニ或ル有力家ノ仲介斡旋ニヨリ彼我相携ヘテ會社ノ前途ヲ經營スヘク協定セシモ其後取締役ノ退任株式ノ變動等事端錯綜危機益々進ミ當路者ハ日夜寢食ヲ忘レ之レカ防遏ニ勉メタルモ大勢已ニ彼ノ掌理ニ歸シ又奈何ヒスル能ハス遂ニ卅七年六月四日ノ臨時株主總會ニ於テ三田勝俊、駒林廣運二名入リテ重役ノ位置ヲ占メ續イテ京都生命保險株式會社ノ本店、大阪生命保險株式會社ノ京都出張所ヲ當會社內ニ移轉スル等ノ變態ヲ敢テシ一層世上ノ不信用ヲ深カラシメタリ斯カル折柄突然村上保險課長ノ來社業務財產狀態ニ付嚴重ナル御檢查ヲ蒙リシ結果同年拾壹月御省商發第二四四號ノ御命令ヲ受クルニ至リタル次第ニ有之候以來該御命令ヲ遵奉シ其第一項ニヨリ回收ヲ要スル當時現在預金竝寄托有價證券額及之レガ回收ヲ實行セシ月日ハ如左ニ候

【中略】

前陳之通リ明治卅七年十一月十七日付商發第二四四號御命令ハ當時ノ危急ニ際シ實ニ救濟ノ福音トモ可申決シテ存置ヲ嫌忌スル譯ニハ無之候得共現今ニテハ當會社株式壹万株ノ內八千數百株ハ本派本願寺ニ於テ所有セラレ居候事ナレバ前年ノ如キ失態ヲ再演スルガ如キ憂ハ更ニ無之且ツ會社ノ信用モ舊ニ復シ財產狀態モ亦確實ト相成リタル今日ニ於テハ反テ他同業者ガ巧ニ讒謗中傷ノ材料ニ利用シ當會社營業上不利益ノ慮不尠候間何卒此際該御命令御解除被成下度此段申請仕候也

明治四十年十一月　日

京都市下京區油小路御前通下ル玉本町廿五番戶　眞宗信徒生命保險株式會社

專務取締役　木村省吾

農商務大臣　松岡康毅　殿

右詮議相(776)

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十年十二月二十五日

商第九九八三號　客月十二日商第三二九四號ヲ以テ眞宗生命保險株式會社命令解除ニ關スル申請書御進達相成

明治四十年　眞宗信徒生命

成難トノ通牒

候處該會社現時ノ狀態ニ徴スルニ未タ以テ命令各項ヲ充分ニ遂行シタルモノト難認今日ニ於テ命令解除ノ義ハ到底詮議難相成候條其旨御達示別紙申請書ハ返戻方可然御取計相成度書類相添ヘ此段依命及御通牒候也

(777) 九州生命保險株式會社

四十年ノ主要事項

明治四十年ノ主要事項――定款中變更・眞生株取戻事件解決（第十三回明治四〇・一一・一二・三一報告ヨリ同）

一明治四十年三月三十一日午前九時本會社東京出張所ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ取締役一名補缺選擧ヲ行ヒ古莊嘉門氏取締役ニ當選就任ス次ニ定款第二條第十五條第十九條第二十八條改訂ノ件ヲ議シ第十五條取締役六名（改正案）トアルヲ五名ト修正シ取締役監査役ノ報酬變更其他何レモ原案通リ可決ス

一明治四十年四月廿七日臨時株主總會ノ決議ニ係ル本社定款改訂ノ認可申請ヲナス

一眞生株取戻事件ハ前回報告書中ニ在ルガ如ク訴訟ハ双方ノ不利少ナカラサルヲ以テ損失ヲ蒙ラサル程度ニ於テ圓滿ナル解決ヲ見ルヲ得タリ

任意解散ノ諭示ヲ通牒

(778) 六條生命保險株式會社

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十年二月一日

商發第一一號　貴管下六條生命保險株式會社ハ去ル三十四年十月新契約停止ヲ命セラレ爾來整理中ニ係ルモノニ有之候處過般局員出張實地調査ノ上復命シタル處ニ依レハ毫モ整理ノ實ナキノミナラス財産狀態頗ル薄弱ニ陷リ且大谷派本願寺ニ對スル債權關係ハ依然トシテ解決スルコトナク到底整理ヲ遂クルコト能ハサルモノト被存候ニ付テハ此際相當手續ヲ了シ任意解散ヲ決行スヘキ旨篤ト御諭示相煩シ度依命此段及御通牒候也

任意解散認可申請(779)

任意解散認可申請書

京都市下京區下珠數屋町通東洞院東入西玉水町拾六番戶　六條生命保險株式會社

右ハ本月貳拾參日臨時株主總會ニ於テ任意解散可致事ニ決定致候間御認可相成度依而別紙理由書及總會決議錄相添ヘ此段及申請候也

明治四十年三月二十五日

六條生命保險株式會社　常務取締役　横井善三郎

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十年四月二十六日附農商務省指令商第三〇五一號ヲ以テ認可、尚總會決議錄等附屬書類ハ省略セリ

明治四十年　眞宗信徒生命　九州生命　六條生命

解散理由　理由書

本社新契約停止已來數年ノ星霜ヲ累ネ爾來缺損金塡補ノ方法及ヒ整理上ニ熱中孜々考慮ヲ盡スト雖トモ奈何セン種々ノ障碍續出ノ爲メ徒ラニ歲月ヲ費シ終ニ今日ニ其目的ヲ達スル能ハサルニ到リシナリ然ルニ今ヤ益々缺損ヲ多クシ隨テ整理ノ途ヲ杜絶スルノ場合ニ立至リ甚タ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ玆ニ於テ止ムヲ得ス任意解散ヲ爲スノ勝レルニ如カサル事ト一決シ其協定ニ因ミ本月廿三日臨時株主總會ヲ開設シ前顯事情ヲ表陳シタルニ參會ノ株主ニ於テモ亦タ爲スヘキ方法モナク之ヲ是認シ滿場一致ヲ以テ商法第貳百貳拾壹條第二項ニ依リ任意解散致スヘキ事ニ議決セリ

右理由開申候也

解散、清算人登記（780）

〔五・二二、官報〕會社解散

六條生命保險株式會社ハ明治四十年五月六日任意解散

清算人氏名住所

愛知縣西春日井郡西枇杷島町大字小田井　横井善三郎

京都市下京區室町通的場下ル堺町　吉田政治

京都市上京區二條通柳馬場西入觀音町　守屋孝藏

右明治四十年五月十六日登記　京都區裁判所

移轉屆（781）

移轉御屆

今般本社義京都市下京區東洞院通上珠數屋町上ル富田町拾七番戸ニ移轉致シ明治四十年七月十六日登記ヲ了シ候依テ別紙登記抄本相添此段御屆申上候也

明治四十年七月二十日

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】別紙登記抄本ハ省略

六條生命保險株式會社　清算人　横井善三郎

日宗生命保險株式會社

保險約款中改正事項

【備考】明治四十年八月九日變更認可申請、同年九月十三日附農商務省指令商第七五一五號ヲ以テ認可

第五條ノ次ヘ左ノ二條ヲ加フ

（新）第六條　被保險者ノ職業若クハ住所ニ異動ヲ生シ又ハ第七條ノ場合ニ該當スルトキハ豫メ之ヲ當會社ニ通知スヘキモノトス

（新）第七條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

一　被保險者カ著シク危險ナル職業ニ從事スルトキ

二　被保險者カ外國ニ旅行シ又ハ轉住スルトキ

明治四十年　六條生命　日宗生命

三被保險者カ從軍シ又ハ戰爭其他ノ變亂地ニ赴クトキ
但軍人軍屬ニシテ平時ニ在リテ特別保險料ヲ拂込ミタルトキハ此限ニアラス

第六條ヲ第八條ニ改メ且ツ第三號ヲ追加ス

第八條　左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其効力ヲ失フモノトス【一、二ハ省略】
（新）三第七條ノ異動ヲ通知セサリシトキ及ヒ特別保險料ヲ請求シタル場合ニ於テ相當ノ時日内ニ之ヲ拂込マサルトキ

第九條ヲ第十一條ニ改メ其第四號中第十四條トアルヲ第十六條ニ改メ且ツ第三號ノ但書ヲ左ノ通リ改ム

第十一條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス【一、二、四ハ省略】
三被保險者ノ死亡カ戰爭其他ノ變亂ニ基因セルトキ
（新）但シ豫メ特別保險料ヲ拂込ミタルトキハ此限ニアラス

第二十條トシテ左ノ一條ヲ加フ

（新）第二十條　當會社ノ締結スル契約ニ對シテハ保險契約者被保險者ノ國籍及ヒ行爲地（傍線ハ九月二十五日附ニテ訂正届）如何ヲ問ハス當然日本ノ法律及此保險約款ヲ適用スルモノトス

日本教育生命保險株式會社

（783）役員問題ニ付有志株主會

〔一一・九、大阪時事〕教育生命有志株主會　同生命保險會社紛擾の件に付、昨日午後堺卯樓に於て有志株主會を開き取締役宅德平、越野嘉助、豐田善右衞門の三氏より同社の株式を松谷元三郎氏一派の爲め買占められ爲に今日の如き紛擾を來せしは吾々重役の不明の致す所なれば、一同袂を連れて辭表を申出たる次第なりと述べ、夫より善後策に付協議せし結果、同社の創立者たる松本重太郎氏及び田中市太郎氏に一任する事に決し散會せしが來る十八日の總會迄に重役候補者の選定をなす筈なりと

（784）役員撰定

〔一一・一九、大阪時事〕教育生命の重役撰定　教育生命保險會社の紛議に關して此程松本重太郎、田中市太郎二氏に其善後問題を一任せし結果松本氏より三谷軌秀、織田桃三氏等に謀議の結果、昨日午前十時より堺卯樓に於て株主總會を開き重役改選を行ひたるに總權利個數六千に對し出席者十三名、此權利數二千八百四十五、委任狀二十名、此權利數千百二十五にして投票の結果瀧山常務取締の外左の諸氏當選せり
取締役三谷軌秀、宅萬次郎、豐田隆吉、監査役越野嘉助、肥塚源次郎

（785）社内革新

〔八・一、大阪朝日〕日本教育生命保險の改革　東京大澤幸次郎氏は同社株式の大部分を引受け業務の革新を期する由にて現在重役は遠からず殆ど全部の更迭を見るべく、目下大澤氏は新重役の選擇中なるが既に内定せる取締役として松平正直、酒井靜雄、大澤幸次郎氏等にして現任常務瀧山瑄氏は重任すべく監査役二名は會社が當市を本據とする關係上大阪有力者を推選するに至るべしと

（786）

〔一〇・六、大阪朝日〕日本教育生命保險株式會社
明治四十年　日宗生命　日本教育生命

新任役員

東京市赤阪區表町四丁目　松平正直
同　市同　區氷川町　酒井靜雄

取締役ニ

大阪市北區曾根崎上一丁目　平瀬三七雄
東京市牛込區横寺町　森田彦季

監査役ニ各就任

右明治四十年十月四日登記

大阪區裁判所

財産整理上ノ通牒 (787)

徵兵保險株式會社

農商務省商工局長ヨリ東京府知事ヘ通牒　明治四十年六月二十六日

商發第一〇一號　貴管下徵兵保險株式會社ニ對シ今般別紙ノ通リ命令相成候ニ付テハ御閲覽ノ上該會社ヘ交付受書ヲ徵シ御送付相成度尚該會社ニ對シテハ今回局員出張實地調査ノ上復命スル處ニ依レバ財産狀態頗ル不整理ヲ極メ甚タ不都合ノコトニ有之候ニ付テハ專ラ會計ノ職務ヲ執行セル取締役ハ責ヲ負ヒ退任致スベク更ニ適當ナル役員ヲ擧ケ命令ノ趣旨ニ從ヒ內部ノ整理ヲ完成致シ候樣篤ト御諭達相成度尚又左記ノ事項ニ付キ御示達相煩度依命此段及御通牒候也

一郵便振替貯金ニ付テハ銀行預金ニ準シテ取扱フ內意ニ有之候コト
一保險契約ニシテ拂込期日ヲ經過シ失効處分ヲ爲スベキモノ此際整理ヲナスコト
一命令ノ趣旨ニ從ヒテ爲シタル整理ノ狀況ハ每月提出スル報告書ニ添付シ詳細其報告ヲナスコト

業法第十一條ニヨリ命令 (788)

商發第一〇一號　東京府東京市日本橋區吳服町一番地　徵兵保險株式會社

保險業法第十一條ニ據リ左記ノ事項ヲ命令ス

一會社ニ備付クヘキ定款、株主名簿、商業帳簿其他會計ニ關スル書類ヲ整理スヘシ

【以下省略】

明治四十年六月廿六日

農商務大臣　松岡康毅

新任役員 (789)

〔七・九、中外商業〕徵兵保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役吉岡禮一、天埜伊左衞門ハ明治四十年六月三十日退任シ同和泉邦彥、小澤武雄、松元剛吉ハ同日重任シ監査役古莊韜ハ同日重任セリ

右明治四十年七月五日登記

東京區裁判所

銀行預金ニ付答申 (790)

答申書

八月二十八日付ヲ以テ本會社取引銀行預金制限高ノ義ニ付御示達ノ趣敬承

明治四十年　日本教育生命　徵兵保險

一株式會社土佐銀行幷ニ株式會社第十銀行ニ預金スルノ必要ハ曩ニ答申致置候通該地方ニ於ケル收入保險料ヲ預ケ入ルヽニ有之候然ルニ之ヲ一時的ニ預金シ順次本會社ニ回收スルトセバ御示達ノ通リ巨額ノ嫌有之候ヘドモ當初右兩銀行ト預金契約ヲ爲シタル時該地方ニ於ケル收入保險料ヲ預金シ不得止場合ノ外當分引出サザル事ヲ約シ之レト交換的ニ本會社保險事業擴張ニ援助ヲ與フルヲ條件トシタルモノニ候サレバ該地方ニ於ケル保險契約ノ大部分ハ此援助ノ下ニ成立シタルモノニ御座候從テ本會社事業發展上此口約ヲ實行シ或程度即チ申請制限高ノ範圍內ニ預金スルト同時ニ益多大ノ保險契約ヲ得ントスルハ必要ナル政策ト被存候間此邊御諒察被成下度奉願候

二株式會社東海銀行幷ニ株式會社丁酉銀行預金制限高ノ義ハ曩ニ五萬圓ト申請致置候處每月收入スル保險料ヨリ打算シ他方ニハ御命令ニ基キ從來ノ如キ貸付金ヲ爲サザルヲ以テ其制限高餘リニ狹小ナルヤノ懸念有之爲メニ前議ヲ翻シ更ニ拾萬圓ト申請候始末ニシテ必ズシモ兩銀行ニ資金ヲ集中運用スル義ニハ無之唯々兩銀行ハ其營業所本會社ト尤モ近距離ニアリ便宜上一時的預金ヲ爲ス場合不勘候ニ付預金制限高ヲ廣大シタキ希望ニヨリ申請候義ニ外ナラズ候乍去輕忽粗笨ニモ申請ヲ二三ニシ御手數相煩シ候段恐縮ノ至リニ御座候

右答申仕候　以上

明治四十年九月七日

農商務大臣　松岡康毅殿

東京市日本橋區吳服町壹番地　徵兵保險株式會社

取締役　和泉邦彥

日本生存保險株式會社

定款變更認可願

一商號　日本生存保險株式會社

一定款　第三條中

右今般臨時株主總會ノ決議ヲ經テ定款第三條中變更仕リ度ニ付御認可被成下度別紙總會決議錄寫相添ヘ及御願候也

變更理由　市區改正家屋移轉及輕費節減ノ爲メ

定款第三條　舊「當會社ハ本店ヲ東京府東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿番地ニ」ヲ

新「當會社ハ本店ヲ東京府東京市牛込區牛込山吹町二百七拾五番地ニ」ト變更

明治四十年十一月三十日　東京市牛込區牛込山吹町二百七拾五番地　日本生存保險株式會社

取締役　龜岡基彥

農商務大臣　松岡康毅殿

農商務省商工局長ヨリ東京府知事ヘ通牒　明治四十年十二月二十六日

商第一〇八九一號　本月十二日付未農甲一五六四號ヲ以テ日本生存保險株式會社定款變更認可申請書御進達相

明治四十年　徵兵保險　日本生存保險

成候處該會社ハ去ル三十八年六月新契約停止命令當時及御通牒置候通リノ次第ニシテ到底整理ノ見込ナキノミナラス爾後ノ經過ニ徴スルニ或ハ恣ニ本店ヲ移シ而カモ會社タルノ實在ヲモ備ヘサルカ如キ狀況ニシテ既往ノ實蹟ニ徴シ此ノ儘會社トシテ存立スルハ公益ヲ害スルコト不尠モノト被認候條叓キニ及御通牒置候通リ速カニ任意解散ノ手段ニ出ツヘキ樣御諭達ノ上別紙申請書ハ一應返付方御取計相成度依命此段及御通牒候也

東京生命保險株式會社

〔三・二八、官報〕東京生命保險株式會社登記事項中左ノ通變更ス

一取締役岡信之介、青山牧太郎、石島麟之助、竹內忠藏ハ明治四十年三月十三日退任シ左記ノ者同日就任セリ
　西五辻文仲、原鎗助、北篠針次郎、矢島浦太郎、島淺太郎【住所省略】
一監査役加藤健藏、米田實、佐川芳之助ハ明治四十年三月十三日退任シ左記ノ者同日就任セリ
　田中經一郎、三崎芳之助、川井光一【住所省略】
一明治四十年三月十三日本店ヲ左ノ所ニ移轉セリ
　一本店　東京市京橋區弓町二十四番地
右明治四十年三月二十五日登記

東京區裁判所

日東生命保險株式會社

〔一二・一三、中外商業〕**日東生命の買收**　函館の大火に少からぬ打擊を蒙りし內外火災保險は此程日東生命を買收せんと傳ふるものあり、右に就き聞く處によれば內外火災保險社長池谷氏は兼て火災保險救濟の一助として火災、生命兼營は法規の禁ずる處なるも新に生命保險會社を起して內外火災の地盤を固めんとの野心ありとかにて其の以前某生命保險の設立認可を申請せしも容易に許可を得ざるに際し、會々越後高田に本店を有せる日東生命（資本金十万圓にして以前上越生命と稱す）は近來其內部極めて不整理の形跡ありて當局者も之には憂慮せし程なりしかば池谷社長は奇貨措くべしと、之が買收を企圖し過般來同社重役と交涉を重ねつゝありしが無論函館損害に苦める內外火災に資力のある譯なく、結局第三者專ら之が出資に當る筈にして首尾能く成立の上は日東重役より一人と某第三者たる出資者及び內外火災重役との聯合組織とする豫定なりと云ふ、頃日內外火災增資說を傳ふるは恐らく之の買收に基く浮說にはあらずや

〔一二・一七、官報附錄〕日東生命保險株式會社登記事項中左ノ通變更ス

一明治四十年十一月二十八日取締役石黑昌治、古澤文太郎、石田政義、小田仁作、玉井久兵衞、菅原滋治ノ六

名辭任シ左記六名取締役ニ就任セリ
池谷徹、高畑運助、石井隨應、中山勘三、久保寺源内、黒川德藏【住所省略】
一明治四十年十一月二十八日監査役瀧本義雄、岩佐麟太、岩崎廣作、野口孝治、村松順藏ノ五名辭任シ同日左記ノ者監査役ニ就任セリ
岡村豐、高橋重藏、信澤皐三郎、山本米次郎、淺見竹太郎【住所省略】
右明治四十年十二月十日登記

事業方法書中變更認可申請（保險金額最高限ノ變更）

東洋生命保險株式會社

事業方法書中一部ノ變更御認可申請書
當會社ノ資本ヲ金五拾萬圓ニ增資致候ニ付テハ事業方法書中第弐號「但書當會社ノ保險金總契約額五百萬圓迄ハ最高額五千圓以下トス」ノ但書全部ヲ削除致度候間御認可被成下度此段申請仕候也
明治四十年四月二十七日　東京市京橋區南鞘町六番地　東洋生命保險株式會社
常務取締役　森村金造

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十年五月二十五日附農商務省指令商第四二六九號ヲ以テ認可

事業方法書中一部ノ變更ニ關スル理由書
當會社カ契約スヘキ保險金最高額ハ金壹萬圓ニシテ保險金總契約額五百萬圓ニ達スル迄ハ其最高額ヲ五千圓トスヘク御認可ヲ得居候處當今一般ニ生活程度ノ增進シタルニ依リ保險契約ヲ五千圓ニ限ルトキハ營業上大ナル不便ヲ感スルコト、相成候且當會社ハ今般資本金ヲ五拾萬圓ニ增加シテ事業ノ擴張ヲ計リツヽアル時期ニ有之旁々事業方法書中第二號ノ但書ノ削除セントスルモノニ御座候

〔五・一一、官報〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
一取締役森村金造、五十嵐愼一郎、木下謙二郎、澁谷嘉助ハ明治四十年四月二十四日退任シ左記ノ者同日取締役ニ任セリ
秋田毅　東京市麹町區下二番町十五番地
森村金造　同　市神田區三崎町三丁目一番地
尾高次郎　同　市下谷區中根岸九十八番地
西澤吉治　臺灣基隆
郡金三郎　韓國仁川
古城菅堂　韓國京城
本城清彦　東京市神田區駿河臺北甲賀町十番地
一監査役江島久米雄ハ明治四十年四月二十四日退任シ左記ノ者同日監査役ニ就任セリ
明治四十年　東洋生命

韓國京城
同國釜山
東京市麹町區飯田町六丁目五番地
同　市麻布區霞町三番地
右明治四十年五月六日登記

清韓國人契約申請書類引換願 (798)

本年四月二十二日付ヲ以テ出願仕候清韓國人ノ保險契約ニ關スル御認可申請書付屬書類不備ノ點有之候ニ付更ニ別紙ヲ以テ提出仕候間甲號ヨリ丁號迄ノ書類全部ヲ御引換ヘ被下度此段申請仕候也

明治四十年五月廿一日　　東京市京橋區南鞘町六番地　東洋生命保險株式會社
取締役社長　秋田毅

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十年八月七日附農商務省指令商第三九九四號ヲ以テ認可

(799)

(乙號) 東洋生命保險株式會社外國人ノ保險契約ニ關スル事業方法書 (抄)

清韓國人ノ保險契約ニ關スル事業方法左ノ如シ
一生命保險契約ノ種類ヲ左ノ二種トス
全壽保險　被保險者ノ終身間ヲ保險シ被保險者カ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フ
保險料拂込期間　毎年拂
被保險者ノ年齡　二十年以上六十年以下ノ男女
長壽保險　一定ノ期間內ニ於テ被保險者カ死亡シタルトキハ其時期ニ否ラサレハ一定ノ期間滿了ノ時保險金額ヲ支拂フ
保險契約滿期　被保險者ノ年齡四十年四十五年五十年五十五年六十年六十五年七十年
保險料拂込期間　毎年拂
保險料拂込期間　毎年拂
被保險者ノ年齡　全壽保險ニ同シ但保險契約滿期ノ年齡ニ依リ制限スルコト保險料表ニ揭クル處ノ如シ
二清韓國人ノ保險契約ニ付テハ總テ大日本帝國ノ法律ニ準據セシムルモノトス
三被保險者ノ住所ハ本國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハサルモノトス
五被保險者タルヘキ者ノ年齡ニ端月數アルトキハ總テ一年ニ繰上ク
七保險金額及ヒ保險料額トモ清國人ニ對シテハ清國貨幣「兩」ヲ以テ契約シ韓國人ニ對シテハ日本國貨幣「圓」ヲ以テ契約ス但場合ニ依リテハ清國人ノ契約ニ對シ日本國貨幣ヲ以テスルコトアルヘシ
八清國人壹名ニ付キ契約スヘキ保險金額ハ壹千兩以上貳萬兩以下韓國人壹名ニ付契約スヘキ保險金額ハ壹千圓以上貳萬圓以下トス但第七項但書ノ場合ハ壹千圓以上貳萬圓以下トス
九營業保險料表ニ揭クル保險料額ハ清國人ニ對シテハ壹千兩ニシテ四捨五入シテ分位ニ止メ韓國人ニ對シテハ一千圓ニシテ四捨五入シテ錢位ニ止ム
十保險料分合ノ場合ニ於テ生スル兩又ハ圓以下ノ端數ハ計算ノ最後ニ於テ四捨五入シテ分又ハ錢位ニ止ム
十一清國人ニ對シ「兩」ヲ以テ契約シタル場合ニ其保險金額又ハ保險料ヲ諸表面若クハ諸勘定中ニ組入レントスルトキハ之レヲ時價ニ見積リ邦貨ニ換算スルモノトス若シ清貨ヲ以テ保險料ヲ收入シタルトキハ可成速カニ邦貨ニ交換スルコトヲ勗ムルモノトス
十三保險契約者カ著シク危險ナル職業ニ從事スルカ又ハ熱帶地方、寒帶地方若クハ日本國、歐羅巴、北米合衆國、清國及韓國ヲ除ク其他ノ外國ニ旅行スルトキハ特別保險料ヲ徵收シ又ハ保險金額ヲ支拂フヘキ其割引ヲ爲スモノトス而シテ特別保險料ハ一時ニ徵收スルトキハ保險金額ノ十分ノ一以內每年徵收スルトキハ保險料年額ノ十分ノ三以內ノ範圍ニ於テシ保險金額ノ割引ヲナスヘキハ保險金額ノ十分ノ三ヲ超過セサル範圍內ニ於テスルモノトス
十五清韓國人ノ保險契約ニ在テハ解約價格ニ對スル貸金ヲナサス又ハ解約價格ヲ以テ拂濟保險料ニ換フルコトナシ
十六清韓國人ノ保險契約ニ對シテハ利益配當ヲナサヽルモノトス

事業方法書變更 (800)

外國人ノ保險契約ニ關スル事業方法書中變更事項 (抄)

第七項ヲ左ノ如ク改ム

明治四十年　東洋生命

（外國人ノ契約ニ關シ）

保險金額及ビ保險料トモ總テ日本國貨幣「圓」ヲ以テ契約ス

第八項ヲ左ノ如ク改ム

被保險者一名ニ付契約スヘキ保險金額ハ壹千圓以上貳萬圓以下トス

（801）

死亡表ト豫定利率

清韓國人ノ保險契約ニ關スル保險料竝ニ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法（抄）

第壹死亡生殘表　明治二十年ヨリ同二十九年迄十個年間ノ日本國人口男子ノ統計ニ依リ森村金造氏カ調製シタル表ヲ用フ（明治三十七年九月二日付出願書類中ノ基數表ニ同シ）

第貳豫定利率　壹ケ年百分ノ四トス

第參基數表（明治三十七年七月出願書類中ノ基數表ニ同シ）

（802）

事業方法書約款保險料算出基礎ノ方法變更認可申請

事業方法書保險約款及ヒ保險料算出ノ基礎方法變更御認可申請書

當會社ノ事業方法書保險約款及ヒ保險料算出ノ基礎方法別紙ノ通變更致度候間御認可被成下度此段申請仕候也

明治四十年六月一日

東京市京橋區南鞘町六番地　東洋生命保險株式會社

取締役社長　秋田毅

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十一年二月二十五日附農商務省指令商第五四〇九號ヲ以テ認可

理由書

第一新種類增設ノ理由　當會社ノ保險種類ハ從來終身ト名ケタル死亡保險、給資ト名ケタル混合保險及ヒ子女ノ生存保險ノ三種類ノミナリ然ルニ一般國民ノ保險思想發達スルニ隨ヒ從來ノ二種類ノミニテハ被保險者タラントスル者ノ希望ヲ充タスニ足ラザルニ依ル

（保險種類增設ニ關スル）

第二全壽保險ト名ケタル從來ノ終身保險及ヒ長壽保險ト名ケタル從來ノ保險料ヲ改正セントスルノ理由　新種類中ノ聯合全壽保險ト名ケタル聯合死亡保險其他被保險者二名ノ組合セヨリ成ル保險ノ保險料算出ニ要スル生命表ハ丙號書類中ニ記載シタル如ク「マキハム」式ヲ以テ調整シタルモノヲ用フルコトヽセリ然ルニ從來ノ是等ノ種類ニ在テハ他ノ調整方法ニ依ル生命表ヲ用ヒタル故ニ同一材料ヨリ成ル生命表ニシテ其調整方法ヲ異ニシタルカ爲メニ永遠ニ大同小異ノ二表ヲ用フルコトトナルノ煩ヲ避ケントスルニ依ル

第三初壽保險ト名ケタル從來ノ子女給資保險ノ保險料ヲ改正セントスル新種類ノ內年金保險ハ佛國經驗表ヲ用フルコトヽセリ然ルニ從來ノ子女給資保險ニ用ヒタル生命表ハ日本ノ人口統計ヨリ取リタルモノナルカ故ニ生存保險ハ總テRF表ノミヲ用ヒントスルニ依ル

（甲號）

東洋生命保險株式會社日本人ノ保險契約ニ關スル事業方法書（抄）

日本國人ノ保險契約ニ關スル事業方法左ノ如シ

一生命保險契約ノ種類ヲ左ノ十一種トス

全壽保險　被保險者ノ終身間ヲ保險シ被保險者カ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フ

保險料拂込期間　一時、五年、十年、十五年、二十年、每年

被保險者ノ年齡　十五年ヨリ六十年以下ノ男女

長壽保險　一定ノ期間內ニ於テ被保險者カ死亡シタルトキハ其時期ニ否ラザレハ一定ノ期間滿了ノ時保險金額ヲ支拂フ

保險契約滿期　被保險者ノ年齡四十年以上七十年以下ノ每年ニシテ滿期ノ年數十五年ヲ下ラザルモノトス

保險料拂込期間　全壽保險ト同一ナリ但保險契約滿期ニ依リ制限ス

被保險者ノ年齡　全壽保險ニ同シ但保險契約滿期ノ年數ニ依リ制限ス

（年齡及ヒ保險料拂込期間ノ制限ハ保險料表ニ揭グ）

長壽組合保險　保險契約締結後五個年ヲ据置期間トシ其以後一定ノ期間內ニ於テ被保險者カ死亡シタルトキハ其時期ニ否ラザレハ一定ノ期間滿了ノ時保險金額ヲ支拂フ且据置期間內ニ於テ被保險者カ死亡シタルトキハ既拂保險料ノ元價

明治四十年　東洋生命

（年額ヲ以テ計算ス）ヲ返還ス

保險契約滿期　年數十五年、二十年、二十五年、三十年

保險料拂込期間　毎年拂ノ一種ノミ

被保險者ノ年齡　長壽保險ニ同シ

福壽保險　被保險者カ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フベキ死亡保險ト一定ノ期間滿了ノ後被保險者カ生存シタルトキハ死亡保險金ノ半額ニ當ル保險金額ヲ支拂フベキ生存保險トヲ合シタルモノナリ且一定ノ期間滿了以前ニ於テ被保險者ガ死亡シタルトキハ死亡保險金額ノ外既拂保險料元價（毎年拂ハ年額ヲ以テ計算ス）ノ三分ノ一ヲ返還ス

生存保險金額ヲ支拂フヘキ時期　年數十五年、二十年、二十五年、三十年

保險料拂込期間　一時及ヒ生存保險金額ヲ支拂フヘキ時期ニ一個年前迄

被保險者ノ年齡　長壽保險ニ同シ

初壽保險　被保險者カ豫定ノ年齡ニ達シタルトキ保險金額ヲ支拂フベキ生存保險ニシテ被保險者ガ豫定ノ年齡ニ達セシテ死亡シタルトキハ既拂保險料ノ元價（毎年拂ハ年額ヲ以テ計算ス）ヲ返還ス

保險契約滿期　被保險者ノ年齡十二年以上二十一年以下ノ毎年ニシテ滿期ノ年度五年ヲ下ラザルモノトス

保險料拂込期間　一時及ヒ毎年

被保險者ノ年齡　一年ヨリ十六年以下ノ男女但保險契約滿期ニ依リ制限スルコト保險料表ニ揭クルガ如シ

保險金額ヲ受取ルベキ者ノ希望ニ依リ保險金額ヲ滿期後一年以上十年以内ノ年賦又ハ月賦支拂ヲナスコトアルベシ此場合ニ於テハ一個年百分ノ五ノ複利ヲ附ス

全壽年金保險　保險契約締結後被保險者ノ終身間毎半ケ年ニ年金額ノ二分ノ一宛ヲ支拂フ

被保險者ガ死亡シタルトキハ其保險契約年度ニ於ケル死亡迄ノ期間ニ對シテハ年金額ハ比例ヲ以テ支拂フ

年金額支拂始期　保險料ヲ支拂ヒタル時ヨリ六ケ月

保險料拂込期間　一時

被保險者ノ年齡　二十年以上七十年以下ノ男女

長壽年金保險　被保險者カ一定ノ年齡ニ達シタル時以後終身間毎半個年ニ年金額ノ二分ノ一宛ヲ支拂フ若シ被保險者カ一定ノ年齡ニ達セズシテ死亡シタルトキハ既拂保險料元價（毎年拂ハ年額ヲ以テ計算ス）ノ三分ノ二ヲ返還シ年金開始後ニ死亡シタルトキハ其保險契約年度ニ於ケル死亡迄ノ期間ニ對シテハ年金額ノ比例ヲ以テ支拂フ

年金額支拂始期　被保險者ノ年齡五十年、五十五年、六十年、六十五年、七十年

保險料拂込期間　一時及ヒ年金額支拂始期三個年前迄

被保險者ノ年齡　二十年以上五十五年以下ノ男女但据置年數ヲ十五年ヨリ短カラザルモノトス

聯合全壽保險　被保險者ヲ二名トシ二名ノ内何レカ先ニ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フ

保險料拂込期間　一時及ヒ被保險者二名トモ生存中

被保險者ノ年齡　聯合全壽保險ニ同ジ

二被保險者ノ住所ハ内國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハザルモノトス

三被保險者一名ニ付契約スベキ保險金額ハ壹百圓以上（福壽保險ハ生存保險金額壹百圓以上年金保險ハ年金額拾圓以上）貳萬圓（年金保險ハ年金額參千圓）以下トス

生存保險又ハ年金保險等被保險者ニ對シ醫的診査ヲ爲サヾル種類ノ保險ニ在テ既ニ被保險者タル者ニ對シ重テ保險契約ヲナストキハ保險金額壹百圓ニ充タザル契約ヲナスコトアルヘシ

十一被保險者ノ旅行又ハ職業ニ依リ保險料ヲ增加スルコトナシ

十二被保險者ガ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキト雖モ當會社ハ特別保險料ヲ徵收セズシテ保險金額ヲ支拂フ責ニ任ズ

十四每決算年度ノ剩餘金ハ左ノ方法ニ依リ配當ス但各種年金保險及ヒ初壽保險ノ保險契約者ニ對シテハ剩餘金ヲ配當セズ剩餘金配當標準ハ保險料一時拂ノ契約ニハ保險料額定期拂ノ契約ニハ保險料ヲ拂込ミタル年數（一箇年ニ充タザル端數及ヒ保險料拂込滿期後ノ年數ハ之ヲ算入セズ）ニ保險料年額ヲ乘ジタル數ニ比例ス配當金ハ之ヲ拂濟保險料ニ換ヘ配當スベキ契約ノ保險金額ヲ增加スベシ但保險契約者ノ望ニ依リ現金ヲ以テ支拂フコトアルベシ

配當金少額ナルトキハ次年度ニ繰越スコトアルベシ
十五此事業方法實施以前ノ舊契約ニ對スル剩餘金配當ハ前項ノ
範圍ニ入ルモノトス
十六長壽組合保險ハ附加保險料ノ內ヨリ純保險料ノ百分ノ十二

保險約款（抄）

（804）

第八條　被保險者ガ戰爭其他ノ變亂ニ依リテ死亡シタルトキト雖
モ當會社ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任ズ
第九條　第三條ニ依ル保險契約無効ノ場合ニ於テ保險契約者及ビ
被保險者ガ惡意又ハ重大ナル過失ナカリシトキハ既收保險料ノ
元價ヨリ其十分ノ二ト保險金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額トヲ
控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ返還スベシ但保險料年額ヲ分割シ
テ拂込タルトキハ分割ノ爲メニ增加シタル保險料ハ之ヲ算入セ
ズ
第十條　第五條ニ依ル保險契約失効ノ場合第六條第一號第三號ニ
依リ當會社ガ保險金額ヲ支拂フ責ニ任ゼザル場合及ビ保險契約
解除ノ場合ニ於テハ當會社ハ責任準備金ノ十分ノ八ヲ保險契約
者ニ返還スベシ前項返還金額ノ例別表ノ如シ

（805）

〔八・八、中外商業〕東洋生命保險株式會社

ト保險金額ノ千分ノ一ニ當ル金額ヲ控除シ殘額ニ前項ノ剩餘
金ヲ加ヘテ之ヲ積立置キ（利率百分ノ五）保險契約滿期ノト
キ生存スル被保險者ノミニ對シ之ヲ分配ス

第十一條　保險契約者ガ返還金請求權ノ發生後二箇年以內ニ其請
求ヲ爲サザルトキハ當會社ハ之ガ支拂ノ責ニ任ゼズ
第十四條　當會社每年度ノ剩餘金ハ其百分ノ五ヲ法定準備金トシ
百分ノ十ヲ役員賞與金トシ且資本金ニ對シ其拂込額ノ百分ノ十
以內ヲ支拂ヒ其殘額ヲ左ノ割合ニ依リ配當ス

株主	百分ノ十
保險契約締結後三箇年ヲ經過シタル保險契約者	百分ノ九十

第十五條　配當金ハ之ヲ拂濟保險料ニ換ヘ其契約ノ保險金額ヲ增
加スベシ
第十六條　保險契約者ガ配當金ヲ現金ニテ受取ラントスルトキハ
當會社ガ配當ノ通知ヲ爲シタル後一ケ月ノ內ニ其支拂ヲ請求ス
ルコトヲ要ス此期間經過後ノ請求ニ係ルトキハ增加保險金額ニ
對スル解約價格ノミヲ返還スベシ

一明治四十年七月二十日支店ヲ韓國京城長谷川町ニ設立セリ
右明治四十年八月五日登記

〔一〇・七、官報〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク追加變更ス
一明治四十年九月十九日左ノ如ク變更ス

一資本總額	金二十万圓
一一株ノ金額	金百圓
一各株ニ付拂込ミタル株金額	金二十五圓
一明治四十年九月十九日左ノ如ク變更ス	
一一株ノ金額	金五十圓
一各株ニ付拂込ミタル株金額	金十二圓五十錢
一增加資本ノ總額	金三十万圓
一增加資本決議ノ年月日	明治四十年二月二十日
一各新株ニ付拂込ミタル株金額	十二圓五十錢

右明治四十年九月二十八日登記

東京區裁判所

第一生命保險相互會社

責任準備金算出基礎書類變更認可申請（807）

責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類變更認可申請

當會社責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類中別紙ノ通リ變更致度候ニ付御認可被成下度保險業法施行規則第四條ニ依リ理由書相添此段申請仕候也

明治四十年八月十二日

東京市日本橋區通三丁目一番地　第一生命保險相互會社
社長　伯爵　柳澤保惠

農商務大臣　松岡康毅殿

追テ別紙ノ計算方法ハ本年度ヨリ實行致度候ニ付至急御認可被成下度奉願候也

【備考】變更事項――責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類中保險料積立金算出ノ末項ヲ削除ス
明治四十年八月三十日附農商務省指令商第七六三三號ヲ以テ認可

理由書

保險料積立金ノ計算ニ就テハ學說ノ承認スル所ニ從ヒ所謂純保險料式積立金ノ中ヨリ新契約費ヲ償却セシムル爲メ一定ノ金額ヲ控除シ來リシモ當會社收支ノ狀態ハ幸ニ毎年潤澤ナル保險資金ヲ構成シ得ルニ至リ新契約費ノ一部ヲ保險料積立金ヘ課スル

變更理由

如キハ徒ニ計算ヲ煩ナラシムルニ止マリ何等ノ實益ヲ認メサルカ故ニ本年度ヨリハ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ計算セントス是今回計算方法ノ一部ヲ改正スル所以ニ有之候

定款中左ノ通リ變更

明治四十年十二月十四日申請
同　四十一年三月十一日及同三十日訂正
同　年四月十七日認可

第四十二條第二項中

「各社員カ二年前ノ決算期マデニ各保險契約ニ付算期迄ニ」ト改ム

第四十二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

保險契約カ保險金額支拂ニ因リテ消滅シタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ尚二年間社員配當金ヲ交付ス

第四十三條ヲ左ノ如ク改ム

社員配當金ハ次年度ノ保險料ト相殺スルモノトス但シ二十年以上ノ期間ニ亙ル保險契約ニ在リテハ社員ハ之ヲ一時拂濟保險料ニ振替ヘ保險金額ヲ增加スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ振替ヲ爲サントスル者ハ保險契約締結ノ時ニ於テ之ヲ定ムベシ但當會社ノ定ムル手數料ヲ支拂フトキハ保險契約締結ノ後ト雖當會社ハ振替ヲ承諾スルコトアルヘシ

明治四十一年六月三十日迄ニ振替ヲ爲サントスル者ハ手數料ヲ支拂フコトヲ要セス

第四十三條ノ次ニ左ノ二條ヲ加ヘ第四十四條ヲ第四十六條トシ以下順次繰下ク

第四十四條　社員配當金ト保險料ト相殺スル場合ニ於テ社員カ既ニ次年度ノ保險料ヲ拂込ミタルトキ保險料拂込ノ義務ヲ有セサルトキ又ハ配當金カ次年度ノ保險料ヨリ大ナルトキハ現金ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ヲ

交付ス

第四十五條　第四十三條ノ規定ニ依リ社員配當金ヲ以テ振替ヘタル一時拂濟保險料ハ第四十二條第二項ニ定メタル配當ノ標準ト爲ルヘキ保險料ニ之ヲ算入セス

第四十六條　保險契約カ失効又ハ解除ニ因リテ消滅シタルトキハ社員ハ其保險契約ニ付社員配當金ヲ受クヘキ權利ヲ失フ

第五十六條乃至第六十一條ヲ削除ス

第六十二條ヲ第五十六條トシ同條中「第五十五條乃至第五十七條」ノ十二字ヲ削除ス

約欵中變更 (809)

普通保險約欵中左ノ通變更ス　明治四十年十二月十四日申請　同四十一年四月十七日認可

第二條ヲ左ノ如ク改ム

保險料ハ保險契約ヲ以テ定メタル保險料支拂期間中三ケ月分半年分又ハ一年分ヲ前拂スルモノトス

第三條中「次年度」ヲ「次期」ニ改ム

第十九條中「四十六條」ヲ四十八條ニ改メ「及ヒ第五十四條乃至第五十七條」ノ十四字ヲ削除ス

第二十三條ヲ削除シ以下順次繰上ク

第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十五條　定欵第四十三條ノ規定ニ依ル保險金額ノ增加ハ第三號計算方法ニ依リ之ヲ定ム

第二號計算方法ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三號計算方法

下表ニ就キ計算當時ノ年齡ノ列ニ在ルは行ノ數ヨリ保險契約ノ終期ニ當ル年齡ノ列ニ在ルは行ノ數ヲ減シ其差ニ保險契約ノ終期ニ當ル年齡ノ列ニアルい行ノ數ヲ加ヘ其和ヲ計算當時ノ年齡ノ列ニアルい行ノ數ヲ以テ除シ其商ニ其ノ十分ノ一ヲ附加シ其和ヲ以テ社員配當金ヲ除スルモノトス

變更理由

定欵及普通保險約欵變更理由書　明治四十一年三月十一日訂正

一從來我社ノ社員配當金ハ二年ノ後尙社員タル者ニノミ配當セルカ故ニ社員ハ第五年度ノ保險料ヲ支拂フ場合（入社後滿四年目）ニ至リテ始メテ第一回ノ配當ヲ受ケ其後引續キ年々保險料ト相殺シ最後ノ一回丈ハ現金ニテ之ヲ受クルトモ結局之ヲ保險契約經過ノ年數ニ對比スレハ配當ヲ受クル數ハ三箇ノ不足ヲ生シ、二十年ヲ經過セル契約ハ十七回、十年ヲ經過セル契約ハ七回ノ配當ヲ受クルコトヽナリ頗ル長期契約ニ厚クシテ短期契約ニ薄キノ嫌アリ特ニ近々十年及十五年滿期ノ契約ヲモ開始セント欲スルカ故ニ此不公平ハ益著明トナルノ傾向アリ故ニ保險金額ヲ支拂フタル契約ニ限リ向フ三年分ノ配當金ヲ交付セントス是定欵第四十二條變更ノ理由ナリ

一社員配當金ヲ以テ保險料ヲ低減スル外ニ社員ノ希望ニヨリテハ社員配當金ヲ以テ契約ノ保險金額ヲ增加スル方法ヲ開カント欲ス是定欵第四十三條ヲ改正シ定欵第四十四條及第四十五條約欵第二十五條及第三號計算法ヲ追加セル理由ナリ

一我社ノ社員配當ハ保險料ト相殺スルヲ原則トシ別ニ生殘團體ヲ設ケタリシモ今日迄一人モ生殘團體ニ加入セル社員ナキカ故ニ之ヲ廢セントス是定欵第五十六條乃至第六十一條削除ノ理由ナリ

一從來我邦ノ保險會社ハ保險料ノ單位ヲ一年分トシ三ケ月掛半年掛等ヲ許ス場合ト雖被保險者ノ死亡解約等ニ際シ其年度分ニ不足アルトキハ之ヲ引去ルコトヽナセルカ此ハ社員ニ甚不快ノ感念ヲ與フルカ故ニ歐米先進會社ノ例ニ倣ヒ之ヲ改正シテ延滯保險料ニ非サル限リ年度保險料ヲ追徵スルコトヲ廢セントス是ニ因テ會社ノ受クヘキ利害ヲ考フルニ保險料ノ單位ヲ半年又ハ三ケ月トスレハ其純保險料ニ於テ約左ノ如キ增加ヲ要スルモノナリ

（保險雜誌第百三十六號參看）

三ケ月單位　一年單位保險料一〇〇ニ付　一〇一、九乃至一〇三、七

半ケ年單位　同　上　一〇一、三乃至一〇二、五

(810)　保險金額制限變更

是ニ加フルニ保險料收入ニ於テ其半額カ半ケ年間ノ延滯トナルカ故ニ利子ニ於テ我社豫定利子三歩五厘ノ約四分ノ一即チ八厘七毛五ノ損失トナリ兩者ヲ合計スレハ一ケ年拂保險料ニ比シ半年拂保險料ハ二歩七八厘三ケ月拂保險料ニテハ三歩五六厘ノ手數料ヲ附加セサル可ラス然ルニ我社ハ從來半年拂ニ於テハ四歩三ケ月拂ニ於テハ七歩ノ手數料ヲ徵スルニ過キサルカ故ニ純然タル分割手數料ノ意味ニ於テ收入スル金額少シク過少トナルノ嫌ナキニ非スト雖モ我社ノ社員ハ總テ一年拂半年拂又ハ三ケ月拂等每回隨意ニ支拂フモノナレハ每年度剩餘金トナルヘキ金額ノ一部ヲ以テ之レニ充ツルコトヽナスモ特ニ分割拂ノ社員ニ厚クスルニモ非スシテ之カ爲メニ會社及社員ノ被ル利便大ナリト信ズルモノナリ是約款第二條第三條ヲ改メ第二十三條ヲ削除セル理由ナリ

一社員配當金ヲ以テ一時拂濟保險料ニ振替保險金額ヲ增加スルノ方法並ニ保險料ノ未拂部分ヲ認メサル方法ハ社員ノ利益ノ爲メ此改正以前ノ舊社員ニモ適用スルモノナリ

事業方法書中左ノ通變更ス（抄）　明治四十年十二月十四日申請
同　四十一年四月十七日認可

一第六節中「壹万圓」ヲ「貳万圓」ト改メ左ノ一項ヲ追加ス

社員配當金ノ振替ニ因リテ生スル保險金額ノ增加ニハ前項ノ制限ヲ適用セス

【備考】明治四十一年三月三十日訂正願『第六節中「五百圓」ヲ「一千圓」ニ改ム』

變更理由書

一第六節中保險契約金額ノ最高額ヲ貳萬圓ニ擴張セシハ近時國民經濟ノ膨脹ニ伴ヒ保險契約者ノ希望ヲ充タス上ニ於テ從來ノ最高額ニテハ少シク小ニ失スルノ嫌アルノミナラス會社ノ現狀ニ於テ貳萬圓ヲ契約スルハ創業當時壹萬圓ヲ契約セシニ比シ會社ノ負擔スル危險ノ程度モ亦タ遙カニ小ナルモノアレハナリ

千代田生命保險相互會社

定款其他ノ書類變更ニ關スル認可申請書

當會社ノ定款普通保險約款事業方法書保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類中別紙ノ通リ變更仕度候間御認可相成度理由書幷ニ評議委員會ノ決議錄謄本相添此段申請候也

明治四十年三月十六日　東京市日本橋區新右衞門町拾五番地　千代田生命保險相互會社
取締役社長　門野幾之進

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十年九月十八日附農商務省指令商第二八一九號ヲ以テ認可

定款ノ變更

【備考】本變更條項ハ明治四十年六月二十六日及八月十四日屆ノ訂正ヲ經タルモノナリ

第三條ヲ左ノ通リ變更ス

第三條　當會社ハ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

明治四十年　第一生命　千代田生命

第三十六條中左ノ通リ變更ス

第一項ノ「最後ノ殘額ヲ基金醵出者配當金及ヒ滿期社員配當準備金トス」ヲ「最後ノ殘額ヲ基金配當金及ヒ社員配當準備金トス」トス

第二項ノ一號乃至三號中「基金醵出者、滿期社員」ヲ「基金者、社員」トス

同項ノ四號ノ「基金醵出者配當金ト滿期社員配當準備金額」ヲ「基金配當金ト社員配當準備金」トス

第三十八條ヲ左ノ通リ訂正ス

第三十八條　第三十六條ニ規定シタル社員配當準備金ハ其年度末ニ於ケル責任準備金ニ比例シテ終身保險ト滿期保險トニ分割シ左ノ方法ニ從テ配當ス

但中途ニ拂濟保險ニ變更シタルトキハ其變更額ハ何等ノ配當ヲ爲サス

終身保險

終身保險ノ配當準備金ハ明治四十年度ヨリ毎五ケ年ヲ以テ配當期ト定ムト雖モ現金ヲ以テ配當セス之ヲ保險金額ニ換算シテ契約保險金額ヲ增加ス

前項ノ保險金額ニ換算スル方法ハ終身保險契約總額ノ現價ト其保險金總額トノ割合ヲ配當準備金總額ニ乘シタルモノヲ總契約ニ對スル保險金增加額トシ尙各契約ノ前配當期以後ニ於ケル繼續年數ト契約保險金額トヲ標準トシテ箇々ノ保險金額ヲ增加ス

各契約ニ對スル保險金增加額ハ配當期迄ニ三年以上ノ契約ヲ繼續シタル社員ニ通知シ置キ被保險者死亡ノ時之ヲ拂渡スモノトス

滿期保險

滿期保險ノ配當準備金ハ年利四朱ノ割合ヲ以テ重加シ契約滿期ノ際ニ至リ前年度末ニ於テ三年以上ノ契約ヲ繼續シタルモノニ屬スル責任準備金ニ比例シテ割當テ之ヲ滿期社員ニ配當ス

第三十九條及ヒ第四十二條ノ「滿期社員配當準備金」トアルヲ「社員配當準備金」トス

理由書

終身保險ノ事業ヲ新ニ營マントスルカ爲メ字句及ヒ條文訂正ノ必要アルニ依リ本文ノ如ク定款ヲ變更セント欲スル所以ナリ

普通保險約款ノ變更（抄）

【備考】本條項ハ明治四十年六月二十六日及八月十四日届ノ訂正ヲ經タルモノナリ

第十六條第一項ヲ左ノ通リ變更ス

第拾六條　保險契約ノ解除、失効又ハ會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ拾年滿期保險ニ在テハ滿二ケ年以上其他ノ保險ニ在テハ一時拂若クハ三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタル者ニ限リ滿期保險ハ其保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ全額、終身保險ハ同上ノ九割ヲ返還ス但第拾壹條第三號ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十七條中「滿期社員配當金」ヲ「社員配當金」ト變更ス

第二十一條ヲ左ノ通リ訂正ス

第二十一條　保險契約者ハ定款ノ規定ニ依リ社員トシテ殘餘金ノ分配ニ與カル權利ヲ有スルモ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

理由書
終身保險事業ヲ新ニ營ミ且約款中其他ノ點ヲ改メントスルカ爲メ本文ノ如ク變更セント欲スル所以ナリ

變更理由

事業方法書ノ變更（抄）　(814)

事業方法書變更

第五項ヲ左ノ通リ變更ス

第五　當會社ノ締結スル保險契約ハ尋常終身、二十年拂終身、一時拂終身及ヒ十年、十五年、二十年、二十五年、三十年滿期ノ八種類トス

第七項ノ「最低額ヲ參百圓トシ」トアルヲ「最低額ヲ終身保險ニ在テハ壹千圓、滿期保險ニ在テハ五百圓トシ」ト變更ス

理由書
終身保險ノ事業ヲ新ニ營マントスルカ爲メ且ツ剩餘金配當方法其他ヲ改メントスルカ爲メ本文ノ通リ事業方法書ヲ變更セント欲スル所以ナリ

變更理由

【備考】剩餘金配當方法其他ハ定款、約款ノ規定ニテ概略明瞭ナルヲ以テ省略セリ

死亡表ト豫定利率　(815)

保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類中左ノ通リ追加ス（抄）

死亡生殘表ハ英國十七會社經驗表ヲ用ユ別表ノ如シ

豫定利率ハ年四朱トス

萬歲生命保險株式會社

定款中變更（抄）　(816)

定款中變更條項　營業地域ヲ國外ニ擴大（在外邦人ノ契約）

【備考】明治四十年三月十五日申請、增資ノ件ハ同年四月五日附農商務省指令商第二八一六號ヲ以テ認可、第四條ハ五月七日附ヲ以テ認可

定款第四條中「日本國」ノ下「內ニ於テ」ノ四字ヲ削リ「ノ內外ヲ問ハス」ノ七字ヲ加フ

（參照）現行定款第四條當會社營業ノ範圍ハ日本國內ニ於テ一般公衆ニ對シ左ノ保險契約ヲ締結スルニ在リ

【左記省略】

理由　當會社ノ現行定款ニ於テハ營業ノ範圍ヲ日本國內ニ限リアルモ今後ハ大ニ其發展ヲ期シ外國殊ニ清韓諸國ニ擴張スルノ必要ヲ認ム但清韓諸國民ノ戶籍及衞生狀態幷ニ統計等ニ就テハ大ニ研究調査ヲ要ス可キモノアルヲ以テ當分ハ海外諸國ニ在住スル本邦人ニ限リ之レヲ施行スルノ必要ヲ認メ本條ノ改正ヲ要ス

定款第五條中「五拾」トアルヲ「壹百」ト改メ「五千」トアルヲ「壹萬」ト改ム

（參照）現行定款第五條當會社ノ資本ハ金五拾萬圓ニシテ之ヲ株式五千個ニ分チ壹株ノ金額ヲ百圓トス

理由　民度ノ上進ト經濟界ノ膨脹ト保險思想ノ發達等諸般ノ狀況ニ徵シ當會社現在ノ資本額ハ少額ニ失スル

明治四十年　千代田生命　萬歲生命

ヲ以テ之ヲ倍加シ益々保險契約者ノ安固ヲ期シ社會ノ信用ヲ厚フスルハ業務發展上大ニ便益ナルベキヲ信シ當會社ノ定款ヲ本條ノ如ク改正スルヲ要ス

在外邦人ノ契約ニ付テ通牒（817）

農商務省商工局長ヨリ東京府知事ヘ通牒　明治四十年五月七日

商第二八一七號　三月十八日付未三甲八七四號二及ヒ同日付未三甲八七五號二ヲ以テ御進達相成候萬歲生命保險株式會社定款及ヒ事業方法書變更認可申請ノ件別紙ノ通リ指令相成候處事業方法書追加事項ニヨレハ營業地域ヲ擴張スルモ本邦人ニ限リ保險契約ヲ取結ハントスルニアルヲ以テ認可相成候義ニ付若シ將來外國人ト契約ヲ取結ハントスル場合ニ於テハ曩ニ通牒相成候趣旨ニ從ヒ事業方法書、約款、其他必要書類ヲ備ヘテ認可ヲ受クルコトヲ要シ候條其旨御垂示指令書交付方御取計相成度此段及御通牒候也

本店移轉（818）

本店移轉（第二回同　明治四〇・一二・三一事業報告書ヨリ）

五月六日本店營業所ヲ東京市日本橋區西河岸十三號地ニ移轉シ同月八日東京區裁判所ニ於テ其變更登記ヲ了シタリ

營業免許申請（819）

日清生命保險株式會社

日清生命保險株式會社營業免許申請書

明治三十九年十二月六日附農商務省指令商第八四〇二號ヲ以テ發起認可相成候當會社ハ明治四十年一月二十六日ヲ以テ成立致シ候ニ付キ生命保險事業開始致シ度候間別紙定款、事業方法書、普通保險約款、保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類、責任準備金利用方法書、株主名簿、株式申込證、商法第百三十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類創立總會ノ決議錄相添ヘ此段申請仕候也

明治四十年一月卅一日　東京市京橋區物十郎町五番地　日清生命保險株式會社

取締役　前島密
取締役　牟田口元學
取締役　來栖壯兵衞
取締役　山田英太郎
取締役　田中唯一郎
取締役　金澤種次郎
取締役　池田龍一

東京市小石川區關口町貳百七番地
東京市芝區芝公園五號地貳番
橫濱市本町六丁目八拾貳番地
東京市麹町區中六番町五拾壹番地
東京市牛込區牛込矢來町四番地
大阪市西區靱上通貳丁目貳拾四番地
東京市牛込區牛込天神町拾五番地

明治四十年　萬歲生險　日清生命

東京府荏原郡大井村武千九百五拾五番地
大阪市安道寺橋通四丁目貳百四拾五番屋敷
名古屋市南武平町壹丁目參拾貳番地
農商務大臣　松　岡　康　毅　殿

(820)

日清生命保險株式會社定款（抄）

【備考】本條項ハ明治四十年一月二十六日創立總會ニ於ケル變更ヲ經タルモノナリ

第一章　總　則

第一條　本會社ハ株式組織トシ資本金壹百萬圓トス

第二條　本會社ハ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トシ日本帝國及ヒ外國ニ於テ內外國人ノ年齡六十五年六箇月以下ノ者ヲ被保險者トシテ死亡保險竝ニ死亡生存混合ノ保險ヲ爲スモノトス

第三條　本會社ハ日清生命保險株式會社ト稱ス

第四條　本會社ハ本店ヲ東京市ニ置ク

第五條　本會社ノ財產ハ保險業法施行規則第九條ニ規定セラレタル範圍內ニ於テ取締役會ノ決議ヲ以テ左ノ方法ニ據リ之ヲ利用ス

一本會社ノ事業上必要ナル不動產ヲ取得スル事
二國債證券、地方債證券又ハ確實ナル會社ノ債券、株券ヲ取得スル事
三前號ニ揭ケタル有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲ス事
四確實ナル銀行ニ預金ヲ爲ス事
五保險契約者ニ限リ保險證券ニ對シ貸付ヲ爲ス事

第二章　株　式

第七條　本會社ノ株式ハ總數ヲ貳萬株トシ壹株ノ金額ヲ五拾圓トス

第十條　本會社株金第壹回拂込ハ一株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ株式總數ノ引受アリタル時ニ之ヲ爲サシメ其餘ハ取締役會ニ於テ拂込期日及ヒ金額ヲ定メ拂込期日一箇月前ニ株主ニ通知スヘシ

第三章　總　會

第十七條　定時總會ハ每年二月中ニ之ヲ招集スルモノトス

第四章　役　員

第二十五條　本會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役　七名
監査役　三名

第二十六條　取締役及ヒ監査役ハ本會社ノ株式壹百以上ヲ所有スル株主中ヨリ選任ス

第二十七條　取締役ノ任期ハ三箇年監査役ノ任期ハ一箇年トス

第三十一條　事業方法書、保險約款、保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三十二條　取締役ノ互選ヲ以テ社長及ヒ專務取締役各一名ヲ定ム

第五章　計　算

第三十六條　本會社ノ事業年度ハ每年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十七條　本會社ハ每年度ノ收入保險料、諸利息其他ノ雜收入ニ前年末ニ於ケル責任準備金、支拂備金及ヒ繰越金ヲ加ヘタルモノヨリ支拂保險金、解約拂戻金、責任準備金、支拂備金及ヒ營業費其他諸缺損ヲ控除シタルモノヲ利益金トス

第三十八條　本會社ハ前條利益金ノ內ヨリ左ノ割合ニ依リ法定準備金及ヒ保險契約者ニ對スル利益分配準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ株主ニ其配當ヲ爲サス

法定準備金　利益金ノ百分ノ五以上
保險契約者ニ對スル利益分配準備金　同　百分ノ十以上

附　則

第四十二條　本會社ノ設立費用ハ金參千五百圓以內トシ初年度ニ於テ之ヲ償却スルモノトス

第四十三條　保險契約者ニ對スル利益分配準備金ハ本會社設立後第四回ノ決算ヨリ之ヲ積立ツルモノトス

第一章　保險ノ種類

第一條　本會社ニ於テ營ム保險ハ普通終身保險、累加終身保險、普通養老保險、倍額養老保險、高年養老保險及ヒ教育資金保險ノ六種トス

第三條　累加終身保險ハ普通終身保險ト同シク被保險者カ何時死亡スルモ保險金ヲ支拂フモノナレトモ其保險金額カ契約ノ時ヨリ十箇年ヲ經過シタル後年々原金額ノ十分ノ一宛累加スルモノトス

第五條　倍額養老保險ハ總テ普通養老保險ト同シキモ只異ナル所ハ被保險者カ生存ノ場合ニ支拂ヲ受クヘキ保險金額カ死亡ノ場合ニ於ケル保險金額ノ二倍ナルニアリ

第六條　高年養老保險ハ被保險者カ契約ノ年齡ニ達シタルトキ又ハ其以前ニ死亡スルモ一定ノ保險金ヲ支拂フモノトス之ニ八十歲受取及八十五歲受取ノ二種アリ

第七條　教育資金保險ハ子女ノ爲メニ教育ノ資金ヲ供給スル目的ヲ以テ設ケタルモノニシテ被保險者カ契約ノ年齡ニ達シタル場

合ニハ一定ノ保險金ヲ支拂ヒ其以前ニ死亡シタル場合ニハ保險金ノ半額ヲ支拂フモノトス但滿七歲ニ達セスシテ死亡シタル者竝ニ契約後三箇年以內ニ死亡シタル者ニ對シテハ保險金ノ支拂ヲ爲サス之ニ十七歲受取二十歲受取及ヒ二十三歲受取ノ三種アリ

第二章　保險金額ノ制限

第八條　本會社ニ於テ契約スル保險金額ハ教育資金保險ヲ除キ被保險者一人ニ對シ金貳百圓ヲ最低トシ合計金貳萬圓ヲ最高トス教育資金保險ニ在テハ金壹百圓ヲ最低トシ金貳千圓ヲ最高トス前二項ノ制限內ニ於テモ一件金壹百圓未滿ノ端數アル契約ヲ爲ササル者トス

第三章　被保險者ノ年齡

第九條　被保險者ノ契約當時ニ於ケル年齡ハ教育資金保險ヲ除キ十歲以上六十五歲以下トス

普通養老保險及ヒ倍額養老保險ニ在リテハ六十一歲以上ノ被保險者ニ對シテハ十年滿期五十六歲以上ノ被保險者ニ對シテハ二十年滿期四十六歲以上ノ被保險者ニ對シテハ二十五年滿期ヨリ長キ期間ヲ契約セザルモノトス

教育資金保險ニ於ケル被保險者ノ契約年齡ハ左ノ如シ

一歲ヨリ十二歲マテ　十七歲受取
一歲ヨリ十五歲マテ　二十歲受取
一歲ヨリ十八歲マテ　二十三歲受取

第四章　保險契約ノ手續

第十一條　本會社ト保險契約ヲ締結セントスル者ニハ本會社所定ノ保險申込書ニ所要ノ事項ヲ記載シ署名捺印ノ上本會社本支店出張所又ハ代理店ヘ差出サシメ本會社ハ教育資金保險ヲ除クノ外醫師ヲシテ被保險者ノ身體ヲ診査セシム教育資金保險ニ在リテハ被保險者ノ身體診査ヲ行ハスト雖モ被保險者カ滿七歲ニ達セス若クハ契約後三箇年以內ニ死亡シタル場合ニハ本會社ハ保險金ノ支拂ヲ爲サス又保險料ノ拂戻ヲモ爲ササルカ故ニ危險ノ處ナキモノトス

第六章　利益分配

第十六條　保險金額五百圓以上ニシテ滿三箇年ヲ經過シタル保險契約ニ對シテハ保險契約者ヘ本會社利益金ノ一部ヲ分配スルモノトス

利益分配金ハ本會社每事業年度決算ニ於テ積立テ且該年度末ニ於ケル有權者ニ對シ其年拂保險料ノ比例ヲ以テ分配ノ計算ヲ爲シ置クモノトス

前項ノ分配金ハ五箇年每ニ取纏メ支拂フモノトス但保險契約者ニ於テ受取ルヘキ場合ニハ其望ニ依リ次回保險料ニ振替ヘ又ハ本會社カ被保險者ノ身體ニ異狀ナキコトヲ認メタル場合ニハ之ヲ保險料トシテ相當保險金ノ增額ヲ爲スヘシ

前項五箇年ノ滿了前ニ被保險者死亡シ又ハ契約終了シタル場合ト雖モ本會社ハ既ニ積立テタル利益金ヲ有權者ニ交付スヘシ

五箇年滿了前ニ解約シタル者アルトキハ解約者カ受クヘキ利益金ハ其年度ノ利益分配準備金ニ組入ルヽモノトス

第七章　保險證券擔保貸金

第十七條　本會社ハ保險契約及ヒ保險金受取人ノ連帶ノ請求ニ依リ解約價格カ五拾圓以上ナル場合ニ限リ保險證券ヲ擔保トシテ其以內ノ金額ヲ貸付クヘシ

第八章　拂濟證券

第十八條　本會社ハ保險契約者ノ望ニ依リ解約價格ニ二割ヲ增加シタル金額ヲ一時拂保險料ニ振替ヘ原契約ト同一種類ノ拂濟證券ヲ發行スヘシ

附　則

本會社ハ營業ノ範圍ヲ單ニ日本人ノミナラズ廣ク外國人殊ニ淸韓人ニ及ボサント欲スルモ淸韓人等ノ死亡率死亡ノ證明方法其他保險營業ニ必要事項ノ取調不充分ニ付キ他日ヲ期シテ之ヲ爲サント欲ス隨テ外國人ニ對スル保險料保險約款等ハ其期ニ到リ別ニ之ヲ制定スヘシ

普通保險約款（抄）

第四條　第二回以後ノ保險料ノ拂込ニ就テハ拂込期日ヨリ起算シ六十日ヲ猶豫期間トス其期間內ハ當會社ニ於テ保險契約ニ對スル責任ヲ負フモノトス但此場合ニ於テハ三十日迄ハ百分ノ一、三十日ヲ超ヘタルトキハ百分ノ二ノ延滯利子ヲ領收スルモノトス

第十一條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

【一、二ハ省略】

三被保險者カ戰爭若クハ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ戰地若クハ變亂地ニ於テ受ケタル傷痍發シタル疾病ニ因リテ死亡シタルトキ但戰地又ハ變亂地ニ赴キ又ハ在ル間一ケ年保險金百分ノ十ヲ超ヘサル範圍內ニ於テ當會社ノ定メタル特別保險料ヲ支拂フカ又ハ平時ニ在リテ每年保險料ノ千分ノ一ニ當ル特別保險料ヲ拂込ミタル場合ハ此限ニ在ラス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ保險金ヨリ其百分ノ十ヲ控除シタル額ヲ支拂フモノトス但重複シタル原因ニ就テハ各別ニ控除ヲ爲ササルモノトス

一被保險者カ熱帶又ハ寒帶地方及ヒ無條約國ニ於テ死亡シタルトキ

二被保險者カ左ノ業務ニ從事シ之カ原因トナリテ死亡シタルトキ

イ警察監獄ノ職務

ロ航海、鐵道、漁獵、鑛山、潛水ノ業務

ハ機械汽罐ヲ用ユル業務

ニ火藥ヲ取扱フ業務

明治四十年　日淸生命

第十五條　保險契約ノ解除失効又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ滿三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタル者ニ限リ當會社ハ該契約ニ對スル責任準備金ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スモノトス但

第十一條第二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十六條　保險契約無効ノ場合ニ於テハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スモノトス但第九條第一號及ヒ第二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十七條　第十條第一號ニ依リ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル後三ケ月以内ニ契約復活ノ請求アリタルトキハ當會社ハ被保險者ノ身體ニ異狀ナキコトヲ認メタルトキニ限リ延滯シタル保險料ニ延滯日數三十日若クハ其未滿毎ニ百分ノ一ノ延滯利子ヲ加算シタルモノヲ領收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十八條　第四條ノ猶豫期間ノ終ニ於テ尚拂込アラサルトキハ當會社ハ請求ヲ俟タス第十五條ノ拂戻金ヲ限度トシ保險契約者ニ貸付ヲ爲シ之ヲ延滯シタル保險料及ヒ延滯利子ノ拂込ニ充當スヘシ

第十九條　第四條ノ猶豫期間内ニ保險契約ノ解除ヲ請求シ其拂戻金ヲ以テ新ニ同一種類ノ保險契約ヲ結ハントスル者ニ對シテハ當會社ハ該拂戻金ニ其十分ノ二ヲ加ヘタル金額ヲ保險料トシテ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟保險證券ヲ交付スヘシ

第二十條　當會社ハ保險契約者及ヒ保險金受取人ノ連帶ノ請求アリタルトキハ第十五條ノ拂戻金五拾圓以上ナル場合ニ限リ當會社ノ定メタル手續ヲ履行セシメ其以内ノ金額ヲ貸付クヘシ

第二十一條　保險契約者ハ其保險契約カ金額五百圓以上ニシテ滿三ケ年ヲ經過シタル後當會社ノ利益分配ニ與ル權利ヲ有ス但保險契約者ハ當會社ノ承諾ヲ得テ此利益分配ニ與ル權利ヲ被保險者又ハ保險金受取人ニ讓與スルコトヲ得

利益分配金ハ當會社ノ毎事業年度決算ニ於テ利益金ノ百分ノ十以上ヲ積立テ且該年度末ニ於ケル有權者ニ對シ其年拂保險料ノ比例ヲ以テ分配ノ計算ヲ爲シ置クモノトス

第一項ノ分配金ハ五ケ年毎ニ取纏メ支拂フモノトス但保險契約者ニ於テ受取ルヘキ場合ニハ其望ニ依リ次回ノ保險料ニ振替ヘ又當會社カ被保險者ノ身體ニ異狀ナキコトヲ認メタル場合ニハ之ヲ保險料トシテ相當保險金ノ增額ヲ爲スヘシ

前項五ケ年ノ滿了前ニ被保險者死亡シ又ハ保險契約カ滿期ニ達シタル場合ト雖モ當會社ハ既ニ積立テタル利益金ヲ有權者ニ支拂フモノトス

五ケ年ノ滿了前ニ保險契約者カ契約ヲ解除シ又ハ保險契約カ効力ヲ失ヒタル場合並ニ第十一條第二號ノ場合ニ在リテハ當會社ハ積立テタル利益金ヲ支拂ハス

保險契約無効ノ場合ニ在リテハ當會社ハ積立テタル利益金ヲ支拂ハス且既ニ支拂タル利益金ヲ返還セシムヘシ

教育資金普通保險約款（抄）

【備考】明治四十年三月二十八日申請、同年四月十九日訂正、同年五月一日農商務省指令商第三一九五號ヲ以テ認可

第四條　保險料拂込期日迄ニ保險料ヲ拂込マスシテ六十日ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第五條　保險料拂込期日ヲ過キテ保險料ヲ拂込ムトキハ延滯保險料ト共ニ毎一ケ月其百分ノ一ノ割合ヲ以テ利子ヲ領收スヘシ但シ一ケ月未滿モ一ケ月ト計算ス

第七條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリテ前條ニ該當セサル場合ニハ左ノ方法ニヨリテ處分ス

一錯誤ノ年齡カ實際年齡ヨリ多カリシトキハ既拂込保險料超過分ノ十分ノ九ヲ返還スヘシ

一錯誤ノ年齡ガ實際年齡ヨリ少カリシトキハ保險料ノ不足額ニ一ケ年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收スヘシ

第八條　保險期間滿了シ被保險者カ生存シタルトキハ保險金受取人ハ自己幷ニ被保險者ノ戸籍謄本ヲ提出シテ保險金ヲ請求スヘシ保險金受取人ハ保險金請求ニ際シテ左ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

一保險金ヲ現金ニテ受取ルコト

一保險金ヲ一定年間、年賦金、半ケ年賦金又ハ月賦金ニテ受ルコト

第十條　保險期間滿了ニ達セラシテ被保險者死亡シタルトキハ保險契約者ハ其死亡ヲ證スヘキ戸籍謄本ヲ添ヘテ保險料ノ拂戻ヲ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當會社ハ毎年拂ノ計算ニ於テ既拂込保險料ノ全部ヲ拂戻スヘシ

第十二條　保險契約ノ無効、失効又ハ解除ノ場合ニ於テハ當會社ハ毎年拂ノ計算ニ於テ既拂込保險料ノ總額ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金ノ百分ノ二〇ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額ヲ拂戻スヘシ

保險契約解除ノ場合ニ於テハ保險契約者ハ前項ノ拂戻金ヲ以テ拂濟保險證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　總テ拂戻金ハ保險契約者カ其拂戻ノ事由發生後二ケ年以内ニ請求セサルトキハ當會社ハ之カ支拂ヒノ責ニ任セス

第十五條　當會社ハ保險契約者及ヒ保險金受取人ノ連帶ノ請求アルトキハ第十二條ノ拂戻金ニ該當スル金額ヲ貸付クルコトアルヘシ

設立登記

〔三・二、官報〕　株式會社登記簿第一〇冊第四四六號

一商　號　　日清生命保險株式會社

明治四十年　日清生命

一本　店　東京市京橋區物十郎町五番地
一目　的　保險ノ種類及營業ノ範圍
　保險ノ種類ハ生命保險ニシテ營業ノ範圍ハ日本帝國及外國ニ於テ內外國人ノ年齡六十五年六ケ月以下ノ者ヲ被保險者トス
一設立ノ年月日　明治四十年一月二十六日
一資本總額　金一百萬圓
一一株ノ金額　金五十圓
一各株ニ拂込ミタル株金額　金十二圓五十錢
一公告ヲ爲ス方法　所轄區裁判所カ登記事項ヲ公告スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス
　但シ外國ニ於テ爲ス公告ノ方法ハ其地ノ慣例ニ據ル
一取締役ノ氏名住所【住所省略】　前島密　牟田口元學　來栖壯兵衞　山田英太郎　田中唯一郎
　金澤種次郎　池田龍一
一監査役ノ氏名住所【住所省略】　兒島惟謙　浮田桂造　上遠野富之助
一設立費用償却ノ方法　初年度ニ於テ之ヲ償却ス
右明治四十年二月二十七日登記
【備考】明治四十年三月一日開業——第一回報告ヨリ

橫濱生命保險株式會社

〔一・一〇、橫濱貿易新報〕橫濱生命保險發起認可　大谷嘉兵衞、渡邊福三郎、大濱忠三郎、其他市內豪商紳士の企畫に成る橫濱生命保險株式會社は資本金を一百万圓とし發起認可の申請中なりしが愈々舊臘中主務省より認可ありたるを以て追て營業認可を申請する筈なり

〔三・一五、橫濱貿易新報〕橫濱生命保險の開業　今回新設の橫濱生命保險株式會社は橫濱市に設立されし始めての生命保險會社なり、此迄は橫濱市に本據を置く生命保險會社なかりし爲めに保險料を各地及び外國の會社へ支拂へるのみならず、その會社の預金は他地の銀行に入り他地の金融を助けたるの觀あるも橫濱生命保險會社ある以上また此等の憾みなきのみか此會社の預金は市の金融界に入るとなるべし、此點よりしても同社の成功を希ふとなるが、同社は愈々今日より開業すると云ふ、此會社の特色は最新式の養老保險にして、保險料の一部より若干の金額を必らず年々積立ておき、それを生存分配金として分配するとにあり、その分配の時期は五回分配ゝ滿期分配との二種あり、五回分配とは契約期間を五ツに割り各年末に分配する方法にて例せば十五年滿期の契約をなせば三年目毎に三十年滿期の契約を爲せば六年毎に分配する方法なり、又滿期分配とは保險

期限滿了の時一度に分配する法なり、分配金の割合は五回毎に遞加し最終期の一回丈にても少くも保險金額の約四分五厘より多きは二割四分に上り五回分を合すれば一割以上三割八分に當り、之を滿期に一度に取れば一割以上七割九分の分配金を得るとなりと言へは被保險人にとり最も有利なる養老保險なりと云ふ

普通保險約款（抄）

第五條　保險料ノ支拂ハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス

第七條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他ノ變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ之ヲ會社ニ通知スヘキモノトス

會社ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ其戰爭又ハ變亂ノ事由ノ繼續スル期間ニ對スル保險料トシテ保險金額ノ百分ノ十五ヲ超ヘサル限度ニ於テ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金支拂ノ責任ナキモノトス【二、三ハ省略】

一被保險者カ第一回保險料ノ支拂以前ニ死亡シタルトキ

四被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ但特別保險料ヲ豫メ會社ニ支拂ヒタル者ハ此限ニアラス

五被保險者カ失踪ノ宣告ニ因リテ死亡者ト看做サレタルトキ但會社カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ事實ニ於テ認定シ得ヘキ場合ハ此限ニアラス

第十六條　保險契約ノ解除失效又ハ會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ會社ハ別表ノ金額ヲ保險契約者ニ返還スルモノトス但前條第三號ノ場合ハ此限リニアラス

第十七條　保險契約無效ノ場合ニ於テハ會社ハ既ニ受取リタル保險料ノ總額ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ返還スルモノトス

第十八條　保險期間カ滿三年以上繼續シタルトキハ會社ハ保險契約者ノ請求ニ因リ第十六條ノ返還金ニ超ヘサル金額ヲ貸付スヘシ

第十九條　保險期間カ滿五年以上繼續シタルトキハ保險契約者ハ會社ノ承諾ヲ得テ保險金額ヲ變更シ將來ノ保險料ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得但此場合ニ於テハ配當金ノ配當ニ與カル權利ヲ失フモノトス

第二十條　保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ生存分配金及利益配當金ノ配當ニ與カル權利ヲ有スルモ保險契約者及被保險者ハ其權利ナキモノトス

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ配當ヲ受クヘキ時期ハ保險期間ヲ五等分シタル每期末ト保險期間滿了ノ時トノ二種トシ契約ノ定ムルトコロニ從ヒ保險契約カ有效ニシテ被保險者ノ生存シタルトキニ限ルモノトス

第二十一條　保險金額ヲ受取ルヘキ者カ利益ノ配當ニ與カルヘキ權利ノ範圍ハ會社カ定款第四十八條ヲ以テ定メタル利益ノ一部トス

保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ利益ヲ配當スルニハ每決算期ニ於テ生存分配準備金總額ヲ以テ其年度ノ保險契約ニ對スル利益ノ總額ヲ除シテ配當率ヲ求メ之ニ生存分配準備金ヲ乘シ各保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益配當準備金ヲ定ム

前項ノ利益配當準備金ハ之ヲ會社ニ積立テ配當時期ノ達スル每ニ生存分配準備金ヲ以テ利益配當準備金ヲ除シ之ニ配當時期ニ於ケル生存分配金ヲ乘シタルモノヲ其時ノ利益配當金トシテ配當シ殘額ハ其契約ニ對スル利益配當準備金トシテ積立テ置クモノトス

（參照）定款第四十八條　當會社ハ利益金ノ內ヨリ其百分ノ五以上ノ法定準備金、百分ノ十以內ノ別途積立金、百分ノ十以內ノ役員賞與金ヲ控除シ殘額ヨリ拂込ミタル株金ニ對シ年五朱ニ相當スル金額ヲ限度トシテ株主普通配當金ニ充テ尙殘額アルトキハ之ヲ左ノ割合ニ依リテ配當スヘシ但配當計算上ノ都合ニ依リ利益金ノ全部又ハ一部ヲ次回ノ營業年度ニ繰越スルコトアルヘシ

一株主特別配當金　十分ノ七

一保險契約ニ對スル配當金　十分ノ三

〔三・一八、官報〕**設立登記**

一商　號　横濱生命保險株式會社

一本　店　横濱市太田町三丁目五十番地

一支　店　東京市日本橋區通四丁目六番地、大阪市東區高麗橋通五丁目庚十番地、京都市下京區三條通柳馬場西入榊屋町十八番戶、神戶市榮町二丁目百十番屋敷、名古屋市宮町一丁目九番地、仙臺市大町四丁目八番地、金澤市上堤町三十番地、福岡市博多下新川端町四十四番地

一目　的　生命保險業

一設立ノ年月日　明治四十年一月二十一日

明治四十年　横濱生命

一資本ノ總額　金一百万圓
一一株ノ金額　金五十圓
一各株ニ拂込ミタル株金額　金十二圓五十錢
一廣告ヲ爲スノ方法　所轄裁判所ノ公示スル新聞紙ニ廣告
一取締役ノ氏名住所　横濱市南仲通一丁目四番地　小野光景
東京市本郷區弓町一丁目二十六番地　土子金四郎
横濱市南仲通三丁目四十二番地　大濱忠三郎
同　市辨天通二丁目三十番地　茂木保平
同　市元町二丁目八番地　石川德右衞門
同　市辨天通二丁目三十八番地　渡邊文七
同　市老松町二丁目二十八番地　中村房次郎
一監査役ノ氏名住所　横濱市本町四丁目六十三番地　若尾幾造
同　市辨天通三丁目四十九番地　原富太郎
同　市本町三丁目五十一番地　澁谷作太郎
右明治四十年三月十二日株式會社登記簿第百六十五號ヘ登記ス　横濱區裁判所

【備考】明治四十年三月十五日開業――第一回事業報告書ヨリ

其他ノ事項――事業免許・定款改正・基礎書類中變更（第一回明治四〇・一一・一二・三一事業報告書ヨリ）

一明治四十年一月二十五日事業免許ヲ申請セシニ三月七日免許ノ指令ヲ得タリ
一明治四十年一月二十五日定款改正ノ認可ヲ申請シ同二月九日主務省ノ指示ニ依リ訂正届ヲ提出シタル處二月十三日定款變更ノ認可ヲ得タリ
一明治四十年三月一日普通保險約款及責任準備金利用方法ヲ記載シタル書類變更ノ件認可申請シタル處同月八日認可ヲ得タリ
一明治四十年十二月十六日發起認可申請書付屬書類中保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類變更ノ件認可申請シタル處同月十八日認可ヲ得タリ

日之出生命保險株式會社

申請書

今般私共儀相謀リ生命保險事業ヲ營ム目的ヲ以テ日之出生命保險株式會社ヲ設立致度候ニ付テハ發起ノ義御認可相成度左ノ通書類相添此段奉願候也

一定款　一事業方法書　一普通保險約款　一保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類　一責任準備金利用方法

明治四十年　横濱生命　日之出生命

明治四拾年貳月七日

發起人　北海道　大倉喜三郎　東京市　岡本敏行　東京市　中濱東一郎
東京市　村井貞之助　東京市　梅浦精一　東京市　福島行信
神戸市　岡崎藤光　東京市　園田實德　東京市　石丸龍太郎
東京市　川上忠介　大阪市　田中市太郎　東京市　高根義人
東京市　武智直道　福岡市　太田清藏　新潟縣　山田又七
新潟縣　渡邊藤吉　東京市　清水釘吉　東京市　白石元治郎
東京市　久米民之助　横濱市　エヌ・ダブリュ・マカイヴア
東京市　佐久間鋼三郎　東京市　金子元三郎

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十年四月四日附農商務省指令商第一七九五號ヲ以テ認可

申請書

明治四十年四月四日付ヲ以テ發起認可セラレタル日之出生命保險株式會社ハ同年五月十一日創立總會ニ於テ成立致候ニ付生命保險事業開始致度候間營業免許相成度左記ノ書類相添ヘ此段申請致候也

一定款　二事業方法書　三普通保險約款　四保險料及責任準備金利用ノ方法　六株式名簿　七株式申込證　八檢査役カ商法第百三十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル調査報告書及附屬書類　九創立總會決議錄　以上

明治四十年五月十八日　東京市京橋區三十間堀三丁目五番地　日之出生命保險株式會社

取締役　大倉喜三郎
同　岡本敏行
同　白石元治郎
同　久米民之助
同　福島行信
監査役　高木豐三
同　山田又七

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十年五月二十九日附農商務省指令商第四九三六號ヲ以テ免許

日之出生命保險株式會社定款（抄）

【備考】本定款ハ發起認可申請ノ際ノ分ナルモ便宜上茲ニ收錄ス

第壹條　當會社ハ日之出生命保險株式會社ト稱ス

第貳條　當會社ハ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トシ日本帝國內ニ於テ保險契約締結ノ時年齡六十年六ケ月以下ノモノヲ被保險者トシテ死亡生存混合ノ保險ヲ爲スモノトス

第參條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置ク

第六條　當會社ハ株式組織ニシテ其資本金ハ四拾萬圓トシ之ヲ四千株ニ分チ壹株ノ金額ヲ壹百圓トス

第八條　當會社株金第壹回拂込ハ壹株ニ付金貳拾五圓トス其未拂込株金ニ對シテハ必要ニ應シ取締役會ニ於テ拂込期日及ヒ金額ヲ定メ拂込期日壹ケ月前ニ株主ニ通知スヘシ

第十五條　定時總會ハ每年二月中ニ之ヲ招集スルモノトス

第二十二條　當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役　五名乃至七名　監査役　一名乃至三名

第二十三條　取締役ノ互選ヲ以テ社長及ヒ專務取締役各一名ヲ定ム

社長ハ當會社ノ業務ヲ總理シ取締役會ノ議長トナリ且當會社ヲ代表スルモノトス

專務取締役ハ社長ヲ輔佐シ一切ノ業務ヲ執行シ社長事故アルトキハ其代理ヲ爲スモノトス

第二十四條　取締役及ヒ監査役ハ當會社ノ株式五拾株以上ヲ有ス

ル株主中ヨリ選任ス

第二十六條　取締役ノ任期ハ三ケ年監査役ノ任期ハ一ケ年トス但シ再選ヲ妨ケス

第二十九條　事業方法、保險約款、保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三十二條　當會社ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十三條　當會社ハ毎年度ノ收入保險料、諸利息其他ノ雜收入ニ前年末ニ於ケル責任準備金、支拂備金及ヒ繰越金ヲ加ヘタルモノヨリ支拂保險金、解約拂戻金、責任準備金、支拂備金及ヒ營業費其他諸缺損ヲ控除シタルモノヲ利益金トス

(833)　日之出生命保險株式會社事業方法書（抄）

第一章　保險ノ種類

第一條　當會社ニ於テ營ム保險ハ養老保險ニシテ之ニ十年滿期、十五年滿期、二十年滿期、二十五年滿期ノ四種アリ

第二章　保險金額ノ制限

第三條　當會社ニ於テ契約スル保險金額ハ被保險者一人ニ對シ金五百圓ヲ最低トシ合計金壹萬圓ヲ最高トス

第三章　被保險者ノ年齡

第四條　被保險者ノ契約當時ニ於ケル年齡ハ十九年七ケ月以上六十年六ケ月以下トス

但シ十五年七ケ月以上十九年六ケ月以下ノ者ニシテ契約ヲ欲スル時ハ年齡二十年ノ者ニ對スル保險料ヲ徵收シテ契約スルコトアルヘシ

第六章　利益分配

第十一條　保險契約カ滿期ニ達シタル時ハ當會社ハ保險金受取人ニ當會社利益金ノ一部ヲ分配スルモノトス其分配額ハ其前事業年度ノ終ニ於テ決定シ其時ニ於ケル保險契約ニ對スル總責任準備金額ヲ以テ總利益分配準備金額ヲ除シ其得數ニ次年中ニ契約滿期ニ達スヘキ保險契約ニ對スル責任準備金ヲ乘シタルモノト

第三十四條　當會社ハ前條利益金ノ內ヨリ左ノ割合ニ依リ法定準備金、特別積立金及ヒ保險契約者ニ對スル利益分配準備金ヲ控除シタル後ニアラサレハ株主ニ其配當ヲ爲サス

法定準備金　利益金ノ百分ノ五以上

特別積立金　同百分ノ二十五以上

利益分配準備金　同百分ノ十以上

第三十五條　當會社カ株主ニ對シテ配當スル利益ハ年一割ヲ超過セサルモノトス

附　則

第三十八條　當會社ノ設立費用ハ金參千圓以內トシ初年度ニ之ヲ償却スルモノトス

第七章　保險證券擔保貸金

第十二條　當會社ハ保險契約者及ヒ保險金受取人ノ連帶ノ請求ニ依リ其證券ヲ擔保トシテ解約價格ヲ超過セサル金額ヲ貸付クルコトアルヘシ

第八章　解約返戻金額並ニ拂込濟保險金額ノ計算方法

第十三條　責任準備金額ノ三分ノ二ヲ解約返戻金額トス其方式左ノ如シ【下略】

第十四條　解約返戻金額ニ相當スル金額ヲ其年齡ニ對スル一時拂保險料ニ充テ殘餘ノ保險期間ニ對スル保險金額ヲ定メテ拂込濟保險金額トス其方式ハ左ノ如シ【下略】

(834)　日之出生命保險株式會社普通保險約款（抄）

【備考】本約款ハ發起認可申請ノ際ノ分ナルモ便宜上茲ニ收錄ス

第六條　保險料不拂ニ依リ効力ヲ失ヒタル保險契約ノ復活ヲ三ケ年以內ニ請求スルトキハ被保險者ノ身體診査ノ上健全ナリト認メラルヽ場合ニ限リ當會社ハ契約ノ復活ヲ承認スヘシ

但シ延滯保險料ニ對スル一日壹萬分ノ四ノ利息ト其診査費用ヲ請求スヘシ又既ニ當會社ニ於テ證券擔保貸金ヲ有スルトキハ其金額並ニ利子ヲ收受スルモノトス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

【一ハ省略】

二被保險者カ戰爭ニ從事シ又戰地ニ於テ死亡シタルトキ

但シ戰時保險料（保險金額ノ一割）一回拂込ミタルモノハ此限ニ非ス

明治四十年　日之出生命

二ニ相當スル金額ヲ返還スヘシ
但シ該證券擔保貸付金ヲ有スル者ニハ該金額ヲ控除シテ其殘額ヲ仕拂フモノトス

第十八條　保險契約無効ノ場合ニ於テハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ返還ス

第十九條　保險契約ノ失効又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テ滿三ヶ年以上保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ解約返戻金ニ相當スル金額ヲ返還ス
但シ第十三條第一項及ヒ第十六條ノ場合ハ之ヲ除ク

第二十條　滿一ヶ年繼續シタル保險契約ニ對シテハ善意ノ契約ニ限リ第三條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於ケル契約ノ無効ヲ主張セス

第二十一條　當會社ハ被保險者カ契約滿期ニ至リ尚生存スル場合ニハ保險金受取人ニ保險金額ト共ニ利益分配金ヲ支拂フモノトス其金額ハ契約滿期前ノ決算年度末ニ於ケル當會社ノ保險契約ニ對スル總責任準備金額ヲ以テ每年利益金ノ十分ノ一以上ヲ積立テ設備セル所ノ利益分配準備金額ヲ除シ其得數ニ次年度中ニ契約滿期ニ達スル可キ保險契約ニ對スル責任準備金額ヲ乘シタルモノトス

第二十二條　保險契約者被保險者及ヒ保險金受取人ハ前條ニ記載セル場合ノ外當會社ノ利益分配ニ與カル權利ナキモノトス

保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及方法（抄）　(835)

死亡表ト豫定利率

養老保險

一保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎
甲　死亡生殘表　英國拾七會社表
乙　豫定利率　年四朱

設立登記　(836)

〔六・四、官報〕株式會社登記簿第一一冊第五〇〇號

一商號　日之出生命保險株式會社

一本店　東京市京橋區三十間堀三丁目五番地

一目的　保險ノ種類及營業ノ範圍
保險ノ種類ハ生命保險ニシテ保險契約締結ノ時年齡六十年六箇月以下ノ者ヲ被保險者トスル死亡及生存

一設立ノ年月日　營業ノ範圍ハ日本帝國內ニ限ル
明治四十年五月十一日

一資本ノ總額　金四十万圓

一一株ノ金額　金百圓

一各株ニ付拂込ミタル株金額　金二十五圓

一公告ヲ爲ス方法　所轄裁判所カ商業登記事項ヲ公告スル新聞紙ヲ以テス

一取締役ノ氏名住所

北海道札幌區外苗穗二十番地	大倉喜三郎	
東京市小石川區丸山町十四番地	岡本敏行	
同　市麻布區廣尾町三十三番地	白石元治郎	
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木千七百番地	久米民之助	
東京市麻布區六本木町六十七番地	福島行信	
東京市麹町區內幸町一丁目三番地	高木豐三	
新潟縣長岡市長町六十二番地	山田又七	

一監査役ノ氏名住所

一設立費用償却ノ方法　開業初年度ニ於テ償却ス
明治四十年　日之出生命

右明治四十年五月三十日登記

【備考】明治四十年六月七日開業

本店移轉 (837)

〔六・一〇、官報〕日之出生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十年六月四日本店ヲ東京市神田區淡路町一丁目一番地ヘ移轉セリ

右明治四十年六月五日登記

東京區裁判所

定款中追加 (838)

定款中追加（第一回明治四〇・六・二〇同一二・三一事業報告書ヨリ）

株主臨時總會ノ事

明治四十年十二月二十七日午前八時當會社本店ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ左記事項ヲ定款ニ追加スルコトヲ議定シ主務省ニ申請認可ヲ得タリ

定款追加事項

當會社ハ初年度並ニ第二年度ノ營業費ニ限リ十年ヲ超エザル期間内ニ於テ毎年其拾分ノ壹以上ヲ償却スルモノトス

東京區裁判所

國光生命保險相互會社

〔四・一九、官報〕相互保險會社登記

一名　稱　第三生命保險相互會社

一事務所　東京市日本橋區本町一丁目十三番地

一保險ノ種類　生命保險

一事業ノ範圍　日本帝國ニ住スル一般公衆ニ對シ生命保險業ヲ營ムモノニシテ其被保險者ハ保險契約ノ當時ニ於テ十五年七箇月以上六十年六箇月以下ノ者ナルヲ要ス

一基金ノ總額　金二十万圓

一基金ノ釀出者カ有スヘキ權利　基金拂込額ノ全部カ償却セラレサル間左ノ權利ヲ有ス

一剩餘金ノ二十分ノ一ニ當ル法定準備金、同上二十分ノ一ニ當ル償却積立金ヲ控除セシ殘額中基金拂込額ノ百分ノ六ヲ未償却基金ニ對スル利息トシテ支拂ヲ受ク（殘額カ百分ノ六ニ不足スルトキハ其殘額全部）

二第一號ノ殘額ナルトキハ拂込額ニ比例シテ其殘額ノ十分ノ一ノ配當ヲ受ク

明治四十年　日之出生命　國光生命

一基金償却ノ方法　定欵第三十一條ニ規定シタル基金償却積立金カ二万五千圓ニ達スル毎ニ抽籤ヲ以テ百二十五口ヲ償却ス

一設立費用償却ノ方法　初年度ノ經費ヲ以テ償却ス

一剩餘金分配ノ方法　決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ二十分ノ一ヲ法定準備金トシ基金拂込額ノ全部ヲ償却セサル間ハ二十分ノ一ヲ基金償却積立金トシ其殘額ヲ以テ未償却基金ニ對シ利息トシテ其拂込額ノ百分ノ六ヲ支拂ヒ殘額カ百分ノ六ヲ支拂フニ足ラサルトキハ殘額全部ヲ以テ限度トス

尙其殘額アルトキハ其十分ノ二ヲ役員賞與金トシ十分ノ一ヲ各自ノ拂込額ニ比例シテ基金醵出者又ハ其承繼者ニ支拂ヒ十分ノ七ヲ社員ニ配當ス但シ法定準備金カ基金ト同額ニ達シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ積立ヲ廢シ又ハ其積立率ヲ減スルコトヲ得

一社員ノ責任ノ種類　保險契約ニヨリ定メタル保險料ヲ限度トス

一公告ヲ爲ス方法　本店所在地ノ所轄登記所カ商業登記事項ヲ公告スル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス

一設立ノ年月日　明治四十年三月三十一日

一取締役ノ氏名住所　東京市麻布區永坂町一番地　島津忠亮
千葉縣東葛飾郡松戸村千七百五十六番地　岩村兼善
東京市麴町區富士見町五丁目三番地　山根正次
同　市牛込區新小川町二丁目十七番地　山田經次郎
同　市下谷區茅町二丁目二十四番地　大木宗保
同　市淺草區瓦町二十八番地　廣木三藏
東京市麴町區內山下町一丁目一番地　横山孫一郎
宮城縣桃生郡赤井村百七十六番地　齋藤仁太郎
東京市下谷區仲御徒町三丁目二十一番地　櫻井鐵三

一監査役ノ氏名住所　東京區裁判所

右明治四十年四月十日登記

第三生命保險相互會社普通保險約欵（抄）

第六條　保險料ノ拂込ニ付テハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス但拂込期日ニ拂込ヲ怠リタルトキハ百圓ニ付キ一日金四錢ノ延滯利子ヲ徵收ス

前項ノ猶豫期間ヲ經過シテ尙ホ拂込ヲ爲ササル場合ト雖モ其拂込ムヘキ保險料及ヒ其利子カ第十七條ノ返還金ヲ越エサルトキハ該返還金ニ相當スル金額ヲ貸付金ニ振替ヘ其保險料ニ充ツ

第七條　被保險者カ著シク危險ナル旅行職業其他ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ其旨ヲ當會社ニ通知スヘシ此場合ニ於テハ當會社ハ保險契約ノ解除ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額支拂ノ責ニ任セス【二、三、五ハ省略】

一被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ此等ノ地ニ於テ蒙リタル負傷又ハ疾病ニ因リテ死亡シタルトキ但軍籍ニ在ル者ニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ以テ保險金額ノ全部又ハ一部ヲ支拂フコトアルヘシ

四第七條ニ規定シタル通知ヲ爲サスシテ其行爲カ原因トナリテ死亡シタルトキ

第十七條　保險契約ノ解除失効又ハ保險金仕拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テモ三年度以上保險料ヲ拂込ミタルモ

ノニ限リ其保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ全額ヲ返還スヘシ

第十九條　保險契約者ハ當會社ノ社員トシテ定款ノ定ムルトコロニ依リ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ヲ有スルモ被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ其分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

第廿條　保險契約者ハ三年度以上ニ亘リ保險料ノ拂込ヲ爲シタルトキハ當會社ノ保險證券ヲ擔保トシテ年六分ヲ超エサル利子ヲ以テ第十七條ニ定メタル返還金額以内ノ貸付ヲ求ムルコトヲ得但保險金ヲ受取ルヘキ者カ保險金ノ仕拂ヲ受クル場合ニ尚ホ貸附金ノ返還ヲ爲ササリシトキハ貸付金ノ元利金ト相殺シテ其殘額ヲ交付ス

〔七・二一、中外商業〕第三生命保險相互會社支配人廣木三藏ヲ明治四十年七月八日解任セリ　(841)　廣木氏解任

〔七・二九、官報〕第三生命保險相互會社登記事項中左ノ如ク變更ス　(842)　第三生命設立登記ハ抹消

一明治四十年四月十日爲シタル設立登記ハ主務官廳ノ免許證ヲ添付セサル錯誤アリタル旨ヲ以テ抹消登記ノ申請アリタルニ付抹消ス

右明治四十年七月二十二日登記

東京區裁判所

〔九・二七、保險銀行時報〕第三相互の改稱と移轉　(843)　國光ト改

第三生命保險相互會社は開業認可の申請と共に社名を國光生命保險相互會社とすへき手續に及ひ且つ從來の家屋は開業後狹隘を感すへきにつき前號の本紙に報道しをける京橋區鎗屋町十番地に移轉したるか愈々認可の上は開業披露として內閣總理大臣及各省大臣は勿論其他朝野の貴顯紳士を招待して盛大なる祝宴を張る計畫なりと云ふ

〔一〇・二九、官報〕相互保險會社登記（抄）　(844)　國光生命設立登記

【備考】〔四・一九、官報〕登記事項ト同樣ノ事項ハ之ヲ省略セリ

一名　稱　國光生命保險相互會社

一事務所　東京市京橋區鎗屋町十番地

一取締役ノ氏名住所

千葉縣東葛飾郡松戸町千七百五十六番地　岩村兼善

東京市麻布區永坂町一番地　島津忠亮

同　市麹町區富士見町五丁目三番地　山根正次

同　市下谷區仲御徒町三丁目二十一番地　櫻井鐵三

同　市同區茅町二丁目二十四番地　大木宗保

同　市牛込區新小川町二丁目十七番地　山田經次郎

同　市芝區二本榎西町三番地　岩間六郎

東京市麹町區內山下町一丁目一番地　橫山孫一郎

同　市淺草區並木町十番地　田原太兵衞

宮城縣桃生郡赤井村百七十六番地　齋藤仁太郎

一監査役ノ氏名住所

一存立ノ時期　ナシ
一解散ノ事由　ナシ
一設立ノ年月日　明治四十年八月二十五日
右明治四十年十月二十四日登記
【備考】明治四十年九月十七日事業免許申請、同年十月二十二日免許、同月同日國光ト改稱、同年十月二十五日事業開始ー第一回事業報告書ヨリ

神國生命保險株式會社

神國生命保險株式會社發起認可申請書

今般拙者共相謀リ神國生命保險株式會社發起仕度候ニ付御認可被下度保險業法施行規則第一條ニ據リ別冊定款事業方法書普通保險約款保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法ニ關スル書類並ニ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類相添ヱ此段申請仕候也

明治四十年四月四日

神國生命保險株式會社發起人
千葉縣市原郡海上村今富六百廿三番地　千葉禎太郎
靜岡縣濱名郡和田村字安間壹番地　金原明德
靜岡縣周智郡森町字森九十番地　成瀨眞一
山梨縣甲府市境町九番地　相澤鶴吉
靜岡縣志太郡高洲村兵太夫九十五番地　外村虎吉
愛知縣名古屋市小市場町百七十三番戸　長谷川武七
東京府下南多摩郡八王子町八百八拾番地　木島安五郎
福島縣石城郡平町字弐丁目三十九番地　谷口仁太郎
茨城縣多賀郡華川村字中妻二十六番地　滑川英太郎

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十年十二月二十七日附農商務省指令商第三四五九號ヲ以テ認可

明治四十年　國光生命　神國生命

明治四十一年

帝國生命保險株式會社

契約高五千萬圓達成（第二十三回明治四一・一・一―同四二・三・三一事業報告書ヨリ）

三月十五日保險契約金高滿五千萬圓ノ內祝トシテ紀念銀盃ヲ社員代理店主管及特別贊助員へ贈與シタリ

日本生命保險株式會社

〔一・二七、保險銀行時報〕日本生命五千萬圓祝典　日本生命保險會社にては二月より三月にかけ本支店出張所々在に於いて共れ〳〵五千萬圓祝典を擧行すべしとのことなるか云々

明治四十一年　帝國生命　日本生命

定款中變更（848）

明治四十一年二月十二日申請
同　年二月二十一日認可

定款中變更

第三條ヲ左ノ通リニ改ム

當會社ハ本店ヲ大阪市ニ支店ヲ東京市、京都市、名古屋市、福岡市、金澤市、仙臺市、廣島市ニ設置シ樞要ノ地ニ出張所又ハ代理店ヲ置ク

第二十二條但書ヲ削除ス

第二十五條第二項「取締役」ノ下ニ「又ハ監査役」ノ五字ヲ加フ

第四十六條ヲ削除ス

役員變更（849）

〔三・五、官報〕日本生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役弘世助三郎ハ明治四十一年二月十七日退任ス

一取締役左者同月十八日重任ス

片岡直溫　泉清助　土居通夫

一同日左者取締役ニ就任ス

橋本重幸〔ママ〕　弘世助太郎

一同月二十五日左者監査役ニ重任ス

竹田忠作　芦田安三郎　田中市兵衞

右明治四十一年二月二十一日登記

東京區裁判所

臺灣渡航特別保險料廢止（850）

申請書

當會社普通約款中左記ノ通リ改正致度候間御認可相成度申請仕候也

明治四十一年七月三十日　大阪市東區今橋四丁目七番地　日本生命保險株式會社

社長　片岡直溫

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

【備考】明治四十一年八月二十日認可——第二十回報告書ニ依ル

第七條第二號「臺灣」ノ二字ヲ削除ス

理由　臺灣渡航特別保險料ヲ廢止シタルニ因ル

役員更迭（851）

內國生命保險株式會社

役員更迭（第十六回明治四一・一一・三一營業報告書ヨリ同）

一一月二十七日ノ臨時總會ニ於テ取締役ニ大野清敬、野村勝馬、下村房次郎、山本忠秀、坂元藏之允ノ五氏監査役ニ中村德重郎、竹內壽貞ノ二氏當選シ更ニ取締役會ノ互選ヲ以テ大野清敬ヲ社長ニ坂元藏之允ヲ仙臺支

明治四十一年　日本生命

社長ニ擧ク

一二月二十日取締役大野清敬辭任シタルニ依リ取締役會ノ互選ヲ以テ下村房次郎ヲ社長トス次テ七月十八日取締役坂元藏之允辭任ス然レトモ法定ノ人員ヲ缺カス且事務ニ差支ナキヲ以テ補缺選擧ヲ行ハサリキ

名古屋生命保險株式會社
太陽生命保險株式會社（四十一年七月改稱）

〔二・一五、官報〕名古屋生命保險株式會社登記事項中左ノ通變更ス

明治四十一年一月二十八日株主總會ニ於テ取締役及監査役任期滿了ニ付左ノ通改選ス

一取締役ノ氏名住所　【住所省略】　松平正直　兒玉文太郎　長坂長孝　端山忠左衞門　野田豁通

一監査役ノ氏名住所　【住所省略】　熊谷重俊　西浦猪三郎

明治四十一年二月三日登記

右公告ス　明治四十一年一月三日

名古屋區裁判所

〔四・一七、中外商業〕名古屋生命保險株式會社

一明治四十一年四月一日本店ヲ左ノ如ク變更ス

名古屋市西區傳馬町二丁目六番地ノ第一

右明治四十一年四月十三日登記

社名改稱、本社移轉等ノ株主總會ノ概要（第十六回明治四一・一・一同　一二・三一營業報告書ヨリ）

明治四十一年一月二十八日定時株主總會ヲ名古屋市傳馬町當會社本店ニ於テ開キ前年度事業ノ顚末ヲ報告シ諸計算ノ承認ヲ受ケ續テ臨時株主總會ヲ開キ社名ヲ日韓ト改稱シ本店ヲ東京ニ移シ東京支店ヲ廢シ更ニ名古屋支店ヲ設置スルノ議ヲ決シ次ニ定款ノ變更ヲ決議シ取締役並ニ監査役ノ滿期改選ヲ行ヒ取締役ニ野田豁通、松平正直、兒玉文太郎、長坂重孝、端山忠左衞門、監査役ニ熊谷重俊、西浦猪三郎當選セリ

同年五月十四日前同所ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ豫テ決議ヲ經シ改稱社名ノ不適當ナルヲ以テ更ニ太陽生命ト改稱スルノ議ヲ決シ定款ノ變更ヲ決議セリ

同年七月二十七日東京市京橋區三十間堀當社本店ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ取締役松平正直辭任セシニ付是レノ補缺選擧ヲ行ヒ牧野誠當選セリ續テ小栗銀行整理案承認ヲ決議セリ

同年十二月二十日前同所ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ取締役ノ補缺選擧ヲナセシガ定時總會モ切迫セシヲ以テ該選擧ヲ延引スルコトニ決議セリ

太陽生命保險株式會社定款（抄）　明治四十一年五月二十六日申請　同　年六月十三日認可

第壹章　總則

明治四十一年　內國生命　名古屋生命（太陽生命）

第壹條　當會社ハ太陽生命保險株式會社ト稱ス

第貳條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置キ支店ヲ名古屋市ニ置ク

第參條　當會社ハ生命保險ヲ以テ營業ノ目的トス

第貳章　資本金及積立金

第六條　當會社ノ資本金ハ金五拾萬圓トス

第七條　當會社ノ財產ハ取締役會ノ決議ニ由リ左ノ方法ノ範圍內ニ於テ利用ス

壹　國債證券地方債證券又ハ確實ナル會社ノ債券株券ニ換ユルコト

貳　確實ナル銀行ヘ預金トナスコト

參　第壹號ニ揭ゲタル有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲナスコト

四　當會社ノ業務上必要ナル不動產ヲ買入ルヽコト

第參章　株式

第八條　當會社ノ株式ハ壹萬株ニシテ壹株ノ金額ヲ五拾圓トス

但シ株券ハ五株券及拾株券ノ貳種トス

第四章　株主總會

第拾九條　定時總會ハ每年壹月之レヲ開キ臨時總會ハ必要アル每ニ之ヲ開ク

第五章　取締役監査役

第貳拾七條　當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役　七名以內　　監査役　參名以內

第貳拾八條　取締役ハ六拾株以上監査役ハ參拾株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

但シ得票同數ナルトキハ年長者ヲ擧ケ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第貳拾九條　取締役ノ任期ハ參ケ年トシ監査役ノ任期ハ壹ケ年トス

第參拾壹條　取締役ハ互選ヲ以テ社長壹名常務取締役壹名ヲ定ム

第六章　計算

第參拾五條　當會社ノ計算ハ壹月壹日ヨリ拾貳月參拾壹日迄滿壹ケ年ヲ壹期トス

第參拾六條　當會社ノ損益計算ハ每期收入金ヘ前年度繰越金ヲ合算シタルモノヽ內ヨリ左ノ四項ヲ控除シタル殘額ヲ利益金トス

一　仕拂保險金　一　責任準備金　一　仕拂備金　一　營業費及損失金

第參拾七條　當會社ハ左ノ範圍內ニ於テ利益金ヲ分配ス

一　法定積立金　　貳拾分ノ壹以上

一　別段積立金　　若干

一　株主配當準備積立金　若干

但本項及ビ第貳項ノ積立金ハ計算ノ都合ニヨリ積立サルコトアルベシ

一　前參項ノ積立金ヲ控除シタル殘額ノ內ヲ以テ株主配當金ニ充當ス

但計算ノ都合ニヨリ殘額ヲ生ジタルトキ其全部又ハ壹部ヲ被保險人ヘ分配又ハ次期ヘ繰越スコトアルベシ

第參拾八條　利益配當金ハ每期最終現在ノ株主ニ配當スルモノトス

〔七・二、名古屋新聞〕**社名（元名古屋生命保險株式會社）改稱及移轉廣告**

本店　東京市京橋區三十間堀二丁目一番地（電話新㊁四九九〇）
支店　名古屋市西區傳馬町二丁目六番地ノ一　電話㊁一〇六）

太陽生命保險株式會社
社長　男爵　野田豁通
常務取締役　長坂重孝
取締役　男爵　松平正直
同　兒玉文太郎
同　端山忠左衛門

當會社ノ創立ハ明治二十六年六月ナリ
當會社ノ保險契約高ハ九百四十六萬餘圓ナリ
當會社ノ責任準備金ハ充實セリ
當會社ノ資本金ハ拾萬圓ノ處更ニ五十萬圓ニ增資ノ許可ヲ得タリ
當會社ノ保險種類ハ終身養老及貯藏的累加養老ナリ
當會社ノ責任準備積立金ノ確實ヲ保持スル爲メ有價證券又日本銀行ニ寄托シ預金ヲ第一、三井、三菱、第百、
第十五、丁酉銀行ニ限リ又貸付金ノ抵當ハ公債證書、債券、日本銀行見返品及日本興業銀行ノ擔保品ニ限ル
當會社ノ保險證券擔保貸金ヲ爲ス
當會社ノ取扱ハ最モ懇切ニシテ保險金ノ支拂最モ迅速ナリ

明治四十一年七月一日

【備考】明治四十一年七月一日改稱移轉・同月四日松平取締役辭任同月九日登記―同七月十五日官報ニ依ル

小栗銀行預金年賦回收ノ義御認可申請

東京市京橋區三十間堀貳丁目壹番地　太陽生命保險株式會社

明治四十年六月七日商發第八七號ヲ以テ御命令相成候條項中鬼頭孫三郎ニ對スル貸金ノ義ハ本年四月十日附ヲ以テ處分方申請同月貳拾日商第三九八五號ヲ以テ御認可相成候處尚今日未決問題ニ屬スルモノハ小栗銀行ニ對スル預金回收ノ一點ニ有之然ルニ同行ニ對スル預金者ハ數萬人ノ多數ニ渉リ候故該銀行ニ於テモ爾來整理辨濟ノ方法ヲ講ジ其結果トシテ別紙ノ通年賦償還ノ承諾ヲ求メ來リ候ニ付取調候處預金者中大半ハ右整理案ニ同意ヲ表シ遂ニ銀行モ開業ノ運ニ立至候趣ニ有之就テハ本社ニ於テ不承諾ノ事ト爲スモ到底他ノ預金者ヨリ利益ナル回收ヲ爲スコトハ不可能ノ義ト存候條本月貳拾七日ノ株主總會ニ附議候處承諾ヲ與フルノ止ムヲ得サル旨決議相成候

右ノ次第ニ付小栗銀行ノ整理案ニ承諾ヲ與ヘ本社預金參萬五千六百七拾參圓貳拾八錢ハ八ヶ年賦ヲ以テ回收ノ義御認可相成度此段申請候也

明治四十一年八月一日

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

右社長　男爵　野田豁通

【備考】明治四十一年八月十一日附農商務省指令商第八一一七號ヲ以テ認可

海國生命保險株式會社

清算結了登記 (858)

〔一一・二七、官報〕海國生命保險株式會社
明治四十一年十一月十四日清算結了
右明治四十一年十一月十六日登記

佛教生命保險株式會社

新任役員 (859)

大阪區裁判所

内申書

一昨年拾二月拾六日付ヲ以テ御届出ヲ爲シタル如ク自分等弊社重役ニ當撰シ本月五日新舊重役立會シ一應ノ事務捻閧ヲ爲シタルニ豫テ聞知セシヨリモ一層亂雜ナル有樣ニシテ(一)經費ノ過多ナル事(二)債權ノ取立ヲ怠遲セル事(三)退任重役ニ對シ責任ヲ問フベキモノアル事(四)支拂備金ノ支拂ヲ遲緩セルモノアル等ヲ發見セシニ付即日未拂込株金全部（壹株ニ付金貳拾七圓五拾錢）ノ拂込ヲ爲サシムヘク決議シ翌六日ヲ以テ本月二十一日限ノ拂込催告書ヲ各株主ニ發送シタリ蓋シ現下ノ財界ニ於テ同日迄ニ多額ノ拂込アルベク豫期セラレ得ズト雖之ヲ怠ルモノニ對シテハ法律ノ規定ニ則リテ其手續ヲ遂行シ復タ債權ニ付テモ取立手續ヲ進行シ其退任重役ノ責任ニ對シテハ着々調査ニ着手中ニシテ右手續中ト雖保險契約者ノ事狀ニ依リ急速支拂ヲ要スル向キニハ自分等ニ於テ一時會社ニ立替貸ヲ爲シテ其支拂ニ充ツベク決意シ其經費ノ縮少ニ就テハ既ニ三名ノ冗員ヲ陶汰シ且出張所ノ改廢ヲ行フベク目下着手中ニアリ而シテ會社ノ狀體上稍慶スベキモノトシテハ(一)株式讓渡人中有力者ノ各責任期間内ニ任ル事(二)支拂備金及責任準備金ノ杜撰ナル計算ヨリシテ過多ニ計上セラレアル事(三)現在保險契約中當期ニ入リテ以來死亡者ハ僅々金額三百圓ニ過キズシテ月次提出スル日計表ニ現ハレタル支拂保險金及解約價格ハ假令少額ナリトスルモ各支拂備金ノ一部ヲ減殺サレタル事ナリトス以上ノ始末ニシテ多年亂雜セル弊社モ今數月ヲ以テ整理ノ解決ヲ告ゲ度而シテ其實蹟ハ明月若クハ三月末ノ日計表ヨリ漸次相顯ハレ可申期圖致居候間幸ニ御監視相成度新任重役ヲ代表シ右及内申候也

明治四十一年一月十七日

京都市河原町通四條上ル米屋町三百八拾五番地　佛教生命保險株式會社
取締役　孝橋龜次郎

京都府商工課長　事務官補　香川靜一殿

臨時檢査 (860)

〔四・一一、京都日出〕**佛教生命保險の臨時撿査**　一昨年來新規保險契約の停止命令を受け爾來整理中は佛教生命保險會社は今回商農務省保險課技師伊藤萬太郎氏の臨時撿査を受くることゝなり本日を以て結了する筈なるか右撿査方法は頗る峻嚴を極め同社の運命も該撿査の結果何れかに決せらるべしと噂せり

役員更迭 (861)

役員更迭（第十七回明治四〇・七・一事業報告書ヨリ同四一・六・三〇）

一明治四十一年五月十日本會社内ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ

(一)取締役下村辰右衞門ハ明治四十一年二月十二日同濱野十郎ハ同月十三日ヲ以テ株主權ヲ喪失セシニ付各其資格消滅シ取締役岩坪正則ハ同月十四日ヲ以テ辭任シタルト河野廣中ガ取締役就任不承諾ニ基ク取締役四名ノ補缺撰擧

(二)監査役柴野峯藏ハ明治四十一年二月十日ヲ以テ株主權ヲ喪失シ其資格消滅セシニ付其補缺撰擧ノ件ヲ附議セシモ出席者少數ノ爲メ之ヲ延會シ更ニ同月十七日同所ニ於テ其續會ヲ開キタルニ取締役ニ福井萬・廣塚卯兵衞、貫名龍藏、丘本誠次ノ四名監査役ニ田中床太郎當撰シタルモ丘本誠次、田中床太郎ノ兩名ハ就任ヲ拒絶シタリ

有隣生命保險株式會社

銀行預金移轉認可申請（町債引受） (862)

銀行預金移轉ノ件ニ付申請

當會社預ケ入レ第一銀行預金ノ中金貳千圓ハ今般福島縣田村郡小野新町町債（利子及償還方法左記ノ通）引受度候ニ付同銀行預金移轉ノ義御認可相成度申請候也

小野新町々債引受額　金貳千圓也

利　率　年壹割

償還ノ方法　明治四十一年十二月ヨリ四十三年十二月中ニ於テ元利返還ノ事　以上

明治四十一年六月十九日　東京日本橋區南茅場町四十四番地　有隣生命保險株式會社

專務取締役　蟹江次郎

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十一年六月二十五日附農商務省指令商第六六三九號ヲ以テ認可

公債買入認可申請 (863)

申請書

當會社銀行預金漸次增加シタルヲ以テ資産ノ確實ヲ計ル爲メ第一銀行預金ノ中ヨリ金貳万圓ヲ限リ左記價格ヲ以テ公債證書ヲ買入申度候ニ付銀行預金移轉ノ義御認可被成下度此段申請候也

軍事公債證書	額面百圓ニ付	金八十五圓以內
整理公債證書	同	金八十六圓以內
海軍公債證書	同	金八十四圓以內
第三回國庫債券	同	金九十六圓以內

明治四十一年　佛教生命　有隣生命

五分利付公債證書　同　　金八十四圓以內　以上

明治四十一年九月三十日　東京市日本橋區南茅場町四十四番地　有隣生命保險株式會社

農商務大臣　男爵　大　浦　兼　武　殿

専務取締役　蟹　江　次　郎

【備考】明治四十一年十月十九日附農商務省指令商第九八三三號ヲ以テ認可

北陸生命保險株式會社

(865)

(864) 新契約停止命令

〔七・二、官報〕農商務省告示第百六十九號

保險業法第十二條ニ依リ富山縣富山市殿町二十一番地北陸生命保險株式會社ニ對シ新ニ保險契約ヲ締結スルコトヲ停止シタリ

明治四十一年七月二日

農商務大臣　松　岡　康　毅

〔九・四、新潟東北日報〕**北陸生命解散**　曩に營業停止を命ぜられたる北陸生命保險株式會社に對し其後檢事より再三の申請あり富山地方裁判所にて審理の末主務大臣の命令に違犯せる廉により去月二十九日附にて解散を命せらる同社の現在保險契約高は二百萬圓なり

(866) 解散命令ニ抗告

〔九・五、大阪毎日〕**北陸保險解散の抗告**（金澤）　北陸生命保險會社は今回解散命令を受けたるに付當地被保人は非常に激昂し居れるが該會社は該命令に對して抗告をなせり（地方電報四日）

(867) 解散登記

〔一一・一四、官報附錄〕北陸生命保險株式會社解散登記

解散ノ事由及其年月日　明治四十一年十月二十七日

株主總數七人未滿ニ減シタルニ因ル

右明治四十一年十月三十日登記

富山區裁判所

(868) 清算ニ付債權申出催告

〔一二・一四、官報〕**公示催告**

北陸生命保險株式會社ハ明治四十一年十月二十七日ヲ以テ商法第二百二十一條第三條ニ該當シ解散セシニ付キテハ同會社ニ對スル總テノ債權ハ明治四十二年六月十一日限當清算人ニ申出テラルヘシ此段催告ス但シ右期間內ニ申出ヲ爲サヽル債權ハ清算ヨリ除外セラルヘシ

明治四十一年十二月七日

北陸生命保險株式會社

清算人　中村新之介

同　牧野平五郎

同　朝倉要之助

明教生命保險株式會社

清算結了 (869)

〔一一・二七、官報〕明教生命保險株式會社
明治四十一年十一月十四日清算結了
右明治四十一年十一月十六日登記

共濟生命保險株式會社

事業方法書中變更 (870)

書類變更認可申請

當會社事業方法書中保險證券樣式表面左記ノ通リ變更致度候間御認可被成下度理由書相添ヘ此段申請候也

大阪區裁判所

六九八

一甲種保險及ヒ乙種保險ノ保險證券樣式表面中保險契約人、被保險人、保險金受取人トアルヲ保險契約者・被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者ト變更スルコト
一同上保險料三箇月掛ト一箇年拂トノ位置ヲ轉換スルコト
一乙種保險證券樣式表面保險契約滿期日ノ次ニ生存分配金豫算額ヲ記入スルコト

以上

明治四十一年六月十日　東京市日本橋區小舟町三丁目九番地　共濟生命保險株式會社
取締役社長　安田善助

農商務大臣　松岡康毅　殿

【備考】明治四十一年七月三十一日附農商務省指令商第六二八九號ヲ以テ認可

定款中變 (871)

日本共立生命保險合資會社

申請書

弊社定款別紙之通リ變更仕度候間御認可被成下度決議書相添ヘ此段申請仕候也

明治四十一年　明教生命　共濟生命　日本共立生命

六九九

更認可申請

明治四拾壹年拾壹月九日

農商務大臣　大浦兼武殿

日本共立生命保險合資會社

業務擔當社員專務理事　森田長次郎

(872)

變更事項（出資者ノ變更）

變更事項

定款第六條中「一金貳萬圓森田長次郎」以下ヲ左之通リ變更

一金壹萬圓	京都市下京區烏丸通六角南入七觀音町十三番戸	加納作之助
一金五千圓	京都市下京區烏丸通綾小路下ル二帖半敷町	古川辰之助
一金五千圓	京都市上京區室町通二條南入蛸藥師町三十四番戸	森田龜三郎

右

變更ノ理由

出資ノ讓渡及社員ノ死亡者アリタルニ依ル

京都生命保險株式會社
博愛生命保險株式會社（四十一年四月改稱）

(873)

普通保險約款

【備考】明治四十一年一月二十二日申請、同年十二月二十八日認可、尚茲ニハ明治三十四年六月改正約款（本編66）ニ比シ訂正セラレタル條項ヲ抄錄セリ

第九條　左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

一第三條ノ猶豫期間内ニ保險料ヲ拂込マサルトキ但第十四條ノ場合ハ此限ニアラス

二被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ但當會社カ死亡シタルモノト認メタルトキハ此限ニアラス

第十條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

一被保險者カ自殺、決鬪、其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

二被保險者カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ死亡シタルトキ

三保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

四被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ戰地若シクハ變亂地ニ於テ病死シタルトキ但豫メ當會社ノ定メル特別保險料ヲ拂込ミタル者ハ此限ニアラス

五第五條ニ定メタル書類ノ提出ヲ怠リタルトキ但已ムヲ得サル事由アルトキハ此限ニアラス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ保險金額ノ百分ノ十ヲ控除シテ支拂フモノトス但重複シタル原因ニ就テハ各別ニ控除ヲ爲サヽルモノトス

一被保險者カ熱帶地方ニ於テ死亡シタルトキ
二被保險者カ左ノ業務ニ從事シ之カ原因トナリテ死亡シタルトキ
イ警察、監獄又ハ檢疫ノ事務
ロ火藥ヲ取扱フ業務
ハ電氣、瓦斯又ハ蒸汽機關ヲ取扱フ業務
ニ航海、鐵道、漁業、潛水、採炭又ハ採鑛ノ業務

第十四條　猶豫期間內ニ保險料ノ拂込ヲ爲サヽル場合ニ於テ一回分ノ保險料及其利子カ第十八條ノ返還金ニ超過セサル限リ之ヲ貸付金ニ振替ヘ保險料ノ拂込ニ充テ保險契約ノ効力ヲ失ハサラシム

第十五條　保險契約解除ノ場合ニ於テ當會社ハ保險契約者ノ請求ニ依リ第十八條ノ返還金ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟證券ヲ交付スヘシ

第十六條　第九條第一號ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ保險契約失効後一ケ年以內ニ保險契約ノ復活ヲ請求スルトキハ當會社ハ被保險者ノ身體ニ異狀ナキヲ認メタルトキニ限リ保險契約ノ繼續セルモノトス

第十七條　保險契約者カ第十條ノ規定ニ違背シ延滯保險料ニ相當スル金額及之ニ對スル一日壹萬分ノ四ノ利子ヲ徵收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十八條　保險契約ノ解除、失効又ハ當會社カ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニ於テハ當會社ハ別表ノ金額ヲ保險契約者ニ返還スルモノトス但第十條第三號ノ場合ハ此限リニアラス

第二十條　當會社ハ每事業年度決算ニ於テ利益配當附保險ヨリ生スル利益金ノ百分ノ拾以上ヲ積立テ置キ五ケ年每ニ取纏メ之ヲ保險契約締結後滿參ケ年以上ヲ經過シタル利益配當附保險ノ該配當期ニ於ケル現在契約ニ對シ經過年數（端數及保險料拂込濟後ノ年數ヲ除ク）ニ年額保險料ヲ乘シタルモノニ比例シ配當スルモノトス前項ノ配當金ハ之ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金額ヲ計算シ契約ノ保險金額ヲ增加スヘシ

第二十一條　保險契約者、被保險者及保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ前條ニ記載シタル場合ノ外當會社ノ利益配當ニ與カル權利ナキモノトス

第二十二條　當會社ハ保險契約者ノ請求ニヨリ保險證券ヲ擔保トシテ第十八條ノ返還金ニ超ヘサル金額ヲ貸付スベシ

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十一年三月三十一日

商第三三二八號　貴管下京都生命保險會社ハ曩ニ其株主北村元吉、宇野富治及竹下康之ノ三名ヨリ現金四万圓ノ寄附ヲ受ケ缺損金塡補ニ充テントシ其方法ノ可否ニ付急速ヲ要スル旨ヲ以テ便宜直接內伺書提出致候ニ付取調候處右寄附行爲ハ會社寄附者間ニ於テハ絕體無條件ノモノニ候モ寄附者株主間ニ於テハ內伺添付契約書案ニヨルニ一種ノ條件附貸借關係ニ過キサルモノニシテ其償還方法モ株主各自ノ受クヘキ利益配當金ヲ以テ之レニ充當スルノ方針ニ此方法實行スルニ於テハ株主中北陸生命保險株式會社ノ如キハ多數ノ株式ヲ所有シ其株主被保險者等ノ利害ニ多大ノ影響ヲ及ホス者ニ候處內伺書說明追加書第一項ノ趣旨ニ從ヒ北陸生命保險株式會社ハ其所有ニ係ル本會社株式賣却ニ付目下認可申請中ニテ認可相成候上右賣却處分ヲ遂行致候ニ於テハ該塡補方法モ別段差支無之モノト認メ詮義相成候條其旨御示達相成度尤モ寄附行爲ニヨリテ得タル現金ハ內伺書說明追加書第二項記載ノ如ク直ニ指令銀行ヘ預ケ入ヲ爲スヘキ御令ノ趣旨ニ準據スヘキ樣爲致度候條是亦御諭達相煩シ度此段及御通牒候也

追而寄附者株主間ニ於ケル貸借關係ニ付テノ契約書謄本參考上必要ニ有之候條該契約締結ノ上ハ至急提出可致樣御垂示相成度此段申添候也

附——答申書要點——欠損金處理上ニ關シ御通達ノ次第モアリ寄附金ヲ以テ整理一日モ速ニ實行得度企圖致居ルモ財界不況、金融逼迫ノ爲メ本年八月後ニアラサレハ出金致兼候云々

〔四・二、京都日出〕京都生命の社名改稱其他　京都生命保險會社にては豫ねて定款改正の認可申請中なりしが右は客月末認可濟となりたるを以て昨一日より社名を博愛生命保險株式會社と改稱し尙右定款の改正認可と同時に申請したる同社保險約款の改正即ち從來の保險契約以外更らに利益配當附契約の實施認可を待ち大に社業の擴張を計らん筈にて現在の缺損金は全部重役の寄附行爲に依り其缺陷を補塡することに內定したりと、因に同社の定時株主總會は來る六月下旬開會の豫定なりと

明治四十一年　京都生命（博愛生命）

社名改稱登記 (876)

登記第三九號（抄本）

商　號　博愛生命保險株式會社

營業所　京都市上京區二條通東洞院東入松屋町三十三番戸

變更登記事項

商號ヲ博愛生命保險株式會社ト改稱ス

目的ヲ內國一般公衆ニ對シ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

右明治四十一年四月六日登記

以上

整理ノ爲寄附ノ報告 (877)

報　告

豫而御承認ヲ得候當會社寄附行爲ノ件今般實行ニ付寄附者ト株主トノ間ニ締結セル契約書別紙寫之通ニ有之候間此段爲念報告候也

明治四十一年九月十六日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町三十三番戸　博愛生命保險株式會社

取締役社長　竹下康之

農商務省商工局長　大久保利武殿

寄附ニ付契約書 (878)

契約書

博愛生命保險株式會社ノ總株主柳廣藏外六名（以下單ニ甲ト稱ス）ト同會社ノ財產整理業務發展ノ爲メ左ノ約款ヲ締結ス

第壹條　乙ハ前揭會社ノ目的ノ爲メ左記ノ割合ヲ以テ總株主ノ爲現金四萬圓ヲ同會社ニ寄附スルコト

一金貳萬圓也　竹下康之

一金貳萬圓也　北村元吉

第二條　同會社ガ將來業務ノ發展ニヨリ株主ニ對シテ利益ノ配當ヲ爲スヘキ時ニ限リ甲ハ乙ニ對シ其受クヘキ全配當金ヲ以テ寄附金ノ支拂ニ充當スルコト

但シ甲ハ本文寄附金ノ支拂ニ充當スヘキ配當金ノ中ヨリ先ヅ寄附金ノ年利八朱ニ相當スル金額ヲ謝儀トシテ乙ニ支拂フコト

第三條　乙ノ受クヘキ配當金モ亦前條ニ準シテ寄附金幷ニ年利ニ相當スル謝儀ノ中ニ加算スルコト

第四條　前二條ノ支拂ハ全ク利益ノ配當無キカ若クハ配當金ガ前二條ノ支拂ニ不足スル場合アルトキハ其次ノ利益配當金ヲ以テ順次ニ補充スル事

第五條　本契約ハ第二條第三條ニヨリ寄附金全額ノ支拂ヲ完了スル迄存續スルコト

第六條　甲ノ各自ガ自己ノ株式ヲ他人ニ讓渡スルニ當リテハ讓受人ヲシテ本契約ノ義務ヲ繼承負擔セシムルコトヲ保證トスルコト

第七條　將來万一會社ガ解散シタル場合ハ保險契約者及一般債權者ニ對シ清算ヲ完了シタル後株主ノ受クヘキ配當金ノ限度ニ於テ乙ニ對スル未完ノ支拂ニ充當スルモノトス

明治四十一年　京都生命（博愛生命）

第八條　本契約書ハ同文四通ヲ作成シ貳通ハ乙各自ニ於テ貳通ハ甲代表者柳廣藏、中井信次ニ於テ保有スル事

右契約候也

明治四十一年九月十四日

甲ニ屬スル當事者　柳廣藏　谷村一太郎　中井信次　吉井庄左衞門　中村忠兵衞　西村眞太郎　小林岡藏

乙ニ屬スル當事者　竹下康之　北村元吉

〔一〇・一六、大阪朝日〕博愛生命の整理　同會社にては竹下社長就職以來著しく整理を行ひ彼の三万四千餘圓の缺損金は此の程竹下康之、北村元吉兩取締役より各二万圓を寄附し補塡を爲し殘餘金は預金と爲したるを以て目下主務省へ申請中なる利益附保險の認可を得は直に實行し同時に社務の擴張を爲すべしと

大阪生命保險株式會社

登記濟御屆

一清算人砂川雄峻辭任ニ付明治四十一年十一月六日大阪區裁判所ニ於テ抹消登記致候間登記簿抄本相添此段御

屆申上候也【登記簿抄本ハ略】

明治四十一年十一月十日　大阪市東區本町二丁目六十一番屋敷　大阪生命保險株式會社

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿　清算人　東良三郎

仁壽生命保險合資會社

保險業法第百八條ニ依ル認可申請

當會社定款、普通保險約款幷ニ保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ヲ變更致度候ニ付御認可被下度此段申請致候也

附屬書類

一定款變更ノ件及ヒ社員總會決議錄ノ謄本【總會決議錄ハ省略】

二普通保險約款變更ノ件【本書類ハ省略】

三保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類變更ノ件

明治四十一年五月二十日

東京市麹町區內幸町一丁目三番地

明治四十一年　京都生命（博愛生命）　大阪生命　仁壽生命

明治二十七年九月設立　仁壽生命保險合資會社

業務擔當社員　社　長　辻　新　次
同　上　專務取締役　東　條　一　郎
同　上　當務取締役　長　鄉　泰　輔

農商務大臣　松　岡　康　毅　殿

【備考】明治四十一年十一月十七日附農商務省指令商第六九〇六號ヲ以テ認可

一定款變更ノ件　(882)

定款變更（終身保險廢止）

當會社定款第三條ヲ左ノ通リ變更ス

第三條　本會社ノ營業スル保險ノ種類ハ生死混合保險ノ一種トス

理由　今回終身保險ヲ廢シ生死混合保險ノ一種ノミヲ營業セントス是レ此變更ヲ必要トスル所以ナリ

二普通保險約款變更ノ件　(883)

約款變更

當會社普通保險約款ヲ別冊第一號ノ通リ變更ス

理由

變更理由

【備考】本理由書ハ明治四十一年六月二十九日、同十月二十日ノ訂正ヲ經タルモノナリ

當會社ノ現行普通保險約款ハ保險業法施行ノ際改定シタルモノニシテ爾來七箇年餘實行ノ結果不便不備ヲ感スル事項少ナカラス是今回ノ變更ヲ必要トスル所以ニシテ其主要ナル事項ヲ說明スルコト左ノ如シ

第一　從來ハ一箇年分ノ保險料ヲ不可分トシタル結果トシテ被保險者ノ死亡時期ニ依リ未收保險料ヲ保險金額ヨリ控除スル場合ト之ヲ控除セサル場合トアリテ死亡ノ時日僅カニ一日ノ差ニシテ其拂渡スヘキ金額ニ差異ヲ生シ奇異ノ感ヲ懷カシムルコトアリ解約ノ場合亦之ニ類ス依テ保險契約消滅ノ場合ニ於テ其年度分ノ未收保險料ヲ拂込マシムル規定ヲ廢シ此改正ヨリ生スル會社ノ損失ヲ賠ハンカ爲メ保險料ノ分割拂ニ對スル附加率ヲ增加シタリ（普通保險約款第二條第一項及ヒ保險料算出方法第一、丙）

第二　保險契約期間中途ニ於テ數年分ノ保險料ヲ割引ノ方法ニ依リ拂込又ハ保險料ノ全部ヲ拂濟ト爲サンコトヲ希望スルモノアリ依テ此ノ如キ場合ニハ其保險料ヲ生命年金ノ現價ヲ以テ割引シテ領收スル途ヲ開キタリ（普通保險約款第二條第二項及ヒ保險料算出方法第一、丁）

第三　保險契約ノ持續ヲ奬勵センカ爲メ一定ノ期間持續シタルトキハ保險契約ニ對シテハ保險料拂込猶豫期間ヲ延長シ契約ヲ無條件ト爲スノ條項ヲ設ケ及ヒ利益ノ分配ヲ爲スコトアルヘキコトニ定メタリ（普通保險約款第四條、第九條第二項、第十三條第二項、第十八條第二項、第二十二條）

第四　當會社ハ從來保險料ノ分割拂込ヲ保險契約者ノ自由ニ任セタル慣例アリ今回ノ改正約款亦此慣例ニ從ヒ且ツ（第一）ニ說明シタル通リ被保險者死亡年度ノ未收保險料ハ之ヲ徵收セサルコトニ定メタルヲ以テ保險料ヲ拂込マスシテ猶豫期間內ニ被保險者カ死亡シタル場合ニ其延滯シタル保險料ハ每一箇年拂ノ額ナリヤ將タ每三箇月拂ノ額ナリヤ不明トナルノ慮アリ依テ此場合ニハ每六箇月拂ノ保險料ヲ領收スルコトニ一定シ又保險料ノ延滯利子ハ多クハ僅少ノ額ニシテ實際之ヲ徵收スルニ困難ノ場合アルヲ以テ延滯利子ヲ徵收スル規定ハ寧ロ之ヲ全廢シ而シテ之ヨリ生スル會社ノ損失ヲ賠ハンカ爲メ保險料未拂中猶豫期間內ニ被保險者カ死亡シタルトキハ過怠金トシテ保險金額ノ百分ノ三ノ金額ヲ控除シテ保險金ヲ拂渡スコトニ定メタリ

但此過怠金ハ持續ノ永キ契約ニ對シテハ之ヲ免除シ保險料ノ猶豫期間ヲ全然恩惠期間ト爲スノ特例ヲ設ケタリ（普通保險約款第二條第一項、第九條）

第五　戰爭其他ノ特別危險ニ關スル保險金削減率ヲ變更スルノ必要ヲ認メ從來百分ノ二十ナリシモノヲ百分ノ五十ニ變更シタリ然レドモ從來ノ如ク契約後ノ年齡ニ拘ハラス同一ノ削減ヲ爲ストキハ被保險者ノ自己保險ニ當ル部分ニ對シテ削減ヲ行フコトトナルヲ以テ契約後ノ年數ニ從ヒ削減スヘキ金額ヲ遞減スルコトニ定メタリ（普通保險約款第十條）

第六　現行約款ニ於ケル解約償額ハ責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ保險金額ノ百分ノ三半ヲ超過セサル金額ヲ控除シタルモノトシ此控除金額ハ契約ノ經過年數ニ從ヒ遞減スルコトニ定メタレトモ解約ニ因リテ生スル死亡率ノ變動其他ノ結果ヲ考フルトキハ責任準備金ノ幾分ト保險金額ノ幾分トヲ控除スル必要アルモノト認ム依テ今回ハ責任準備金ヨリ其百分ノ十ト保險金ノ百分ノ三以內ノ金額トヲ控除スルコトニ定メタリ

普通保險約款（抄）

【備考】明治四十二年一月一日實施、本條項ハ明治四十一年六月二十七日、同年十月二十日ノ訂正ヲ經タルモノナリ

第二條　保險料ハ每一箇年、每六箇月又ハ每三箇月ニ第一回保險料ヲ拂込ミタル日ニ應當スル日マテニ此證券ノ表面ニ揭ケタル金額ヲ拂込ムヘキモノトス但被保險者ノ死亡シタル後ハ拂込ムコトヲ要セス

將來拂込ムヘキ保險料ノ若干年分ヲ繰上ケテ拂濟ト爲サントスルトキハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ領收スヘシ

第四條　保險料拂込期日後一箇月ヲ猶豫期間トス

第一回保險料ヲ拂込ミタル後二箇年以上持續シタル契約ニ付テハ前項ノ猶豫期間ヲ二箇月トス

第九條　保險料ヲ拂込マスシテ第四條ノ猶豫期間內ニ被保險者カ死亡シタルトキハ過怠金トシテ保險金額ノ百分ノ三ノ金額ト每六箇月ニ掛ノ保險料額トヲ保險金額ヨリ控除ス但保險料拂込期間ノ三分ノ一以上持續シタル契約ニ付テハ每六箇月拂ノ保險料額ノミヲ控除シ又保險料拂込期間ノ幾期間カ六箇月未滿ナルトキハ其幾期間ニ對スル保險料額ノミヲ控除ス

第十條　被保險者カ臺灣、澎湖列島、樺太及ヒ外國ニ勞働者トシテ出稼中死亡シ又ハ其出稼中ニ生シタル疾病若クハ負傷ニ因リテ死亡シタル場合及ヒ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ其地ニ於テ生シタル疾病若クハ負傷ニ因リテ死亡シタル場合ニハ保險金額ヲ左ノ通リ削減シテ拂渡スモノトス

保險金額ノ百分ノ五十ヲ此證券ノ表面ニ揭ケタル保險契約期間數ヲ以テ除シ之ニ未經過ニ屬スル期間數ヲ乘シタル金額ヲ削減ス（一箇年未滿ノ端數期間ハ一箇年トシテ計算ス）

第十三條　左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無效トス

一保險契約者又ハ被保險者カ保險契約ノ當時重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付不實ノ事ヲ告ケタルトキ

二第十七條ニ該當スヘキ場合ニ於テ當會社ノ承諾ヲ得スシテ第一回保險料ヲ拂込ミタルトキ

第一回保險料ヲ拂込ミタル後五箇年以上持續シタル契約ニ付テハ當會社ハ前項ニ定メタル條件ヲ拋棄ス但保險契約者又ハ被保險者ニ惡意アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十八條　第十四條第一號ニ該當スル場合ニ於テ其契約失效ノ後六箇月以內ニ當會社所定ノ書式ニ依ル復活請求書ヲ提出シ未拂保險料ニ拂込期日後一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムトキハ契約ヲ復活シ其契約カ效力ヲ失セサリシモノト看做スヘシ

前項ニ依リ契約ヲ復活シタルモノニシテ其保險料未拂中ニ於テ被保險者ノ身體ニ異常アリシトキハ其復活ヲ無效トス但復活ノ後五箇年以上ヲ經過シタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ニ惡意アリタル場合ノ外ハ當會社ノ此條件ヲ拋棄ス

第二十條　保險契約ノ解除、失效又ハ當會社カ保險金ヲ拂渡ス責ニ任セサル場合ニハ保險料拂込期間ノ十分ノ一以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ責任準備金ヨリ其百分ノ十ト保險金額ノ百分ノ三以內ノ金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ但第十五條第二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

拂戻金ノ例ハ別表ノ如シ

事業方法書（抄）　明治四十一年六月二十七日變更認可申請

第一　當會社ニ於テ引受クヘキ生命保險ハ生死混合保險ニシテ其保險期間ノ定メ方ニ依リ左ノ六種ト爲ス

一、十年滿期保險　二、十五年滿期保險　三、二十年滿期保險　四、二十五年滿期保險　五、六十歲受取保險

六、七十歲受取保險

六十歲受取保險及ヒ七十歲受取保險ハ保險料拂込期間ノ定メ方ニ依リ更ラニ全期間拂込及ヒ十箇年拂切ノ二種ト爲ス

明治四十一年　仁壽生命

保險年齡	保險金百圓ニ付拂戻金額
	円　錢
15—18	70
16—23	80
24—31	90
32—34	100
35—37	110
38—40	120
41—43	130
44—45	140
46—47	150
48	160
49	170
50	180
51	190
52	200
53	210
54	220
55	240
56	260
57	280
58	300
59	320
60	340

第二　事業ノ範圍當會社ハ帝國臣民ニシテ其年齡十四年六箇月以上六十年六箇月未滿ノ者ニ限リ生命保險契約ヲ爲ス

第三　當會社ニ於テ引受クヘキ保險金額ハ一契約ニ付最低ヲ三百圓トシ被保險者一人ニ付最高ヲ二萬圓トス

第五　當會社ハ當會社ノ保險證券ニ對シ貸付金ヲ爲スコトアルヘシ但其契約ニ對スル解約價格三十圓以上ノモノニ限リ貸付金高ハ其解約價格ヲ超エサルモノトス

第六　當會社ハ明治四十七年度ノ決算期（卽當會社創立二十年）ヨリ五年毎ニ損益ノ通算ヲ爲シ相當ノ餘裕アルトキハ本年改正ノ新約款ニ依ル契約ニシテ五年以上持續シ保險金額五百圓以上ノモノニ對シ利益ヲ分配スルコトアルベシ但其分配スヘキ金額ニ依リテ其分配方法ヲ定ムル豫定ナルヲ以テ利益ノ分配ヲ受クヘキ者其ノ分配ノ計算法等ハ未定ナリ

事業方法書追加事項（抄）　明治四十一年十月二十日

第六ノ次ニ左ノ通リ追加ス

第七　解約價格ハ普通保險約款第二十條ニ定メタル通リ責任準備金ヨリ其百分ノ十ト保險金額ノ百分ノ三以內ノ金額ヲ控除シタル殘額トス但解約價額ノ金額ヲ明了ニシ以テ被保險者ノ誤解ヲ省キ會社事務ノ錯雜ヲ避クル爲メ左ノ便法ヲ定ム

保險期間ヲ同フスル契約ニ在テハ其責任準備金ハ被保險者ノ契約時年齡ニ因リ多少ノ差アリト雖モ其差額極メテ些少ナルヲ以テ各年齡ヲ通シ其多キ額ヲ以テ契約時年齡ニ拘ハラス其種類ノ保險契約ニ通スル解約價額トシ保險期間ヲ毎十分ノ一ニ區分シ之ニ對スル解約價額ヲ揭ケタル表ヲ解約拂戻金額表トシテ保險證

券ノ裏面ニ揭載ス尤モ六十歲受取保險ト七十歲受取保險ト十箇年拂込契約ニ在テハ此例ニ依リ難キヲ以テ保險料拂込期間中ハ被保險者ノ契約時年齡五歲毎ニ契約ノ經過年數一年二年三年五年及ヒ七年ニ對スル解約價額ヲ揭載シ保險料拂濟ノ後ハ契約消滅時ニ於ケル被保險者ノ年齡每五歲ニ區分シテ其解約價額ヲ揭載ス

解約拂戻金額表ハ別表第三號ノ通リトス　【別表ハ省略】

眞宗信徒生命保險株式會社

御命令解除願

明治三十七年拾壹月拾七日付御省商發第二四四號ヲ以テ幣社ハ御命令相成候各條項ニ付テハ深ク御趣旨ノアル處ヲ服膺シ就中其第一項ニ御指令ノ件ハ可成迅速ニ處理可致日夜孜々相勉メ來リ候結果現狀左ノ如クニ御座候【以下回收細目ハ省略】

以上ノ內百三十銀行ニ對スル分ハ期限ニ先チ全部回收スル事ヲ得タルモ起業銀行ニ對スル分ハ不幸ニシテ豫期ノ如ク回收シ能ハス漸次以上ノ償還ヲ得タルモ尙大阪市築港公債額面金五萬貳千圓ノ殘額ヲ現存セルハ甚遺憾ナル而已ナラス御省ニ對シ恐懼措ク能ハサル處ニ御座候得共豫テ御尊承ノ如ク幣社ト同行トハ同行創立當時ヨリ深キ關係ニ有之且ツ御命令ノ際ハ同行ノ營業最モ不振ニシテ加フルニ曩古ノ大戰役中ナレハ一層苦境ニ陷リタル時ニテ一時ニ回收ヲ嚴促センカ徒ニ紛擾ヲ釀シ同行ノ破綻

ヲ促スノミニテ反テ債權ノ大部分ハ損失ニ歸シ其關係上幣社ノ基礎ヲ傷クルノ慮アルカ故ニ種々苦心焦慮或ハ直接ニ或ハ間接ニ債權擁護策ヲ講スルト共ニ或ハ嚴ニ或ハ寬ニ回收ノ督促ヲナシテ實績ヲ擧ケツヽアル折柄偶當路者ニ於テ幣社株式ノ半數以上ヲ本願寺ヘ賣買ノ媒介ヲナセシ爲九北兩生命ノ告訴ニ依ル當路者ノ拘置及株券取戻訴訟ノ奇禍ヲ買ヒ內外鼎沸物情恟々殆ント危態ニ瀕シタルモ未タ曾テ御命令ノ趣旨ヲ忽諸ニ附シタル事ナク所在手段ヲ施シテ回收ヲ計リ時ニ或ハ期限ニ遲レタル事アルモ又或部分ハ期限ニ先チテ回收シ昨年九月ヲ以テ債權全部ノ約六分ノ五ニ達スルマテ回收ヲ得タルモノニ御座候尤右殘額五萬貳千圓モ擲キニ定期預金拾萬圓ノ擔保トシテ提出セシメタル同行所有ノ福岡縣門司市ノ地所處分ヲ相當價格ニ恢復スルマテ假スニ時日ヲ以テセン乎獨リ此拾萬圓ノミナラス本債權ヲ辨濟セシメテ尙多額ノ剩餘ヲ生セントハ自他齊シク認ムル處ナリシモ嚴談ノ末猶豫ノ請ヲ容レス財界最モ不況ト唱ヘラレシ昨年八月ニ於テ實邦辨編ヲ餘義ナクセシメタルモノナレハ價格ノ如クナラス終ニ本債權ノ辨濟ニ及ハサリシハ寧ロ一掬同情ノ淚ヲ灑クニ吝ナラサルモノニ御座候然レ𪜈之カ爲ニ敢テ督促ヲ緩スヘキニ非レハ亦後引續キ交涉ヲ重ネ又萬一ヲ慮リ前掲ノ如ク更ニ同行本支店三ケ所ノ所在敷地及家屋其他充分ノ擔保ヲ提出セシメタル同行ノ執リ來リタル整理ノ方法ハ著々實行ヲ奏シ又經濟界モ漸次順調ニ向ヒタレハ之カ全部ノ回收モ遠カラサルヘシト確信致候

次ニ御命令第二項以下ノ各項ニ對シテモ只管違背セサラン事ニ苦心經營致來候事ハ毎月進達致居候例月表ニ依テ其一斑ハ御了承被下候事ト奉存候殊ニ比日御進達致候第十四回營業報告書其他諸統計表ノ御電覽ヲ辱フセハ御首肯被下候義ト奉存候要スルニ財產狀態ハ勿論契約ノ增加等御命令當時ニ比シ未タ以テ俄ニ其量ノ大ヲ誇ルニ足ラスト雖𪜈其質ニ於テハ年一年整理ノ實ヲ擧ケ大ニ安全鞏固ノ位置ニ進ミ居候事ト確信致候

今命令御解除ヲ請願スルニ當リ試ミニ幣社ノ沿革ヲ略叙スレハ明治二十七八年ノ頃明教、有隣、佛教、眞宗（本社ハ名古屋）等宗教ヲ標榜シテ起レル同業會社鮮ナカラス又何レモ本願寺ノ如キ末寺檀信徒ヨリ事ノ實否ヲ照會シ來ルモノ頗ル繁シ當時本山ノ當局者謂ヘラク叙上宗教ヲ標榜セル會社ニシテ果シテ確實ナラン乎吾檀信徒ノ之ニ加入スルハ憂フルニ足ラス寧ロ慶賀スヘキ事ナルモ一朝挫折瓦解スル事アラン乎檀信徒ノ不幸ハ直ニ以テ宗門ノ羞辱トナリ延テ邦家ノ隆昌ヲ妨クルモノナレハ本派ハ宜シク本派ノ有力ナル檀信徒中ニ於テ一ノ保險會社ヲ組織シ同門相依同行相扶以テ個々ノ幸福ヲ增進スルト共ニ宗門ノ隆昌ヲ圖ルノ目的ニテ進行セハ或ハ護國扶宗ノ本分ヲ盡スニ庶幾カラン乎ト一部ノ有力ナル小西新右衞門外十七名發起人トナリ資本金ヲ五拾萬圓トシ株主ヲ全國ニ渉リ有力ナル檀信徒間ニ募リ成立ヲ告ケタリ續テ創業總會ニ於テ小西新右衞門等重役ニ當選就任シ事業ヲ開始シタルハ實ニ明治二十八年四月一日ニ御座候是ト同時ニ本派本願寺ハ門末一般ニ對シ會社ノ基礎確實ナル所以並ニ被保人募集上便宜ヲ與フヘキ旨ヲ訓告シ內外一致事業ニ著手シ募集ニ努力シタレハ其勢旭日ノ天ニ冲スルカ如ク駿馬ノ平原ヲ走ルカ如ク駸々乎トシテ進ミ同業者ヲシテ後ニ瞠若タラシメントセリ然ルニ好事魔多ク三十二三年ノ頃ヨリ世五年ノ間ニ於テ取締役監査役中病氣又ハ死亡ニテ退任セルモノ續出セルノ時或ル野心家ノ窃ニ株式ノ買收ヲ試ミテ爪牙ヲ磨ケルモノ猛然起テ當路者ニ對シ攻撃否讒誣中傷ヲ逞フスルト共ニ益善良ナル株主ニ嫌厭ノ念ヲ起サシメテ其株式ヲ賣放タシメノ之ヲ裏面ヨリ買收シテ將ニ肉薄セントセシモ幸ニシテ或ル仲介者ノ斡旋ニ依リ協約ヲ結ヒ彼我提携敢テ或ハ相侵ス事ナキヲ盟誓シ一時安寧ニ歸着シタルモ其後取締役ノ退任株式ノ變動等事端日ニ起リ禍機月ニ進ミタレハ當路者ハ寢食ヲ忘レ百方之レカ防遏ニ力ムト雖モ大勢已ニ彼レノ掌握スル所トナリ終ニ京都生命本店及大阪生命京都出張所ヲ幣社內ニ移轉併置スル等ノ變態ヲ敢テシ世上ノ疑惑ヲ深カラシメ代理店及被保人ノ動搖甚シク解約者ハ續出シ殆ント底止スル處ヲ知ラス復如何トモスヘカラサル狀態ニ立至候此時ニ當リ村上保險課長ノ一行ハ突如トシテ來臨具ニ御檢查ノ結果嚴正ナル本命令ヲ下サレタルモノナレハ暗中一縷ノ光明ニ接シタルカ如ク洵ニ機宜ニ適シタル御處置ト深ク敬服致候事ニ御座候赤來前陳當路者拘引等ノ事故アリタルモ告訴ハ免訴セラレ株券取戻訴訟ハ示談ニテ解決ヲ告ケタレハ幣社株式ノ八割强ハ確乎トシテ本派本願寺ノ有ニ歸シ玆ニ漸ク一陽來復シ創立趣旨ノ昔時ニ復スルヲ得タルハ無上ノ幸福トスル處ニ御座候

惟フニ事端錯綜物議囂然何人モ疑懼震セルノ時本派本願寺ニ於テ進ンテ右多數ノ株式ヲ買收シタルハ固ヨリ營利本位ニアラスシテ當初門末一般ニ對シ幣社ノ基礎確實ナルヲ保障シ勸誘上特ニ便宜ヲ與フヘシトノ訓告ヲ發シタル責任ヲ重ンジタル結果ナレハ誠ニ其當ヲ得タルト共ニ該株式ハ濫リニ之ヲ市場ニ散布シ再ヒ禍亂ノ因ヲ作リ豺狼ノ慾ヲ恣ニセシムルカ如キ事ナカルヘシ然ルニ御命令條項ニ對シテハ如彼ニ處理シ會社動搖ノ憂慮ナキニ至リタルモ幣社ノ危機ヲ御救濟ノ爲ニ下サレタル御命令ハ今尙嚴乎トシテ存セルカ故ニ本派本願寺法主ハ日夜特ニ之ヲ痛念セラレ當路者ニ囑スルニ御解除請願ノ事ヲ以テセラレタルハ實ニ一再而已ニ止マラス候

紛爭事件ノ解決後ハ一面世上ノ誤解ヲ正ス事ニ力ヲ盡シ他方本願寺特殊ノ關係ヲ以テ事業ノ發展ニ意ヲ致シタルハ幸ニ一般保險思想ノ普及向上ト相俟テ年々相當ノ契約ヲ締結セルモ衷心甚遺憾且ツ不快ニ堪ヘサルノ一事アリ輓近同業各社競爭ノ激甚ナルニ際シ不德ナル他會社外交員中ニハ往々自社ノ特長ヲ發揮スルニ勉メス反テ他社ノ攻撃ヲ能事トセルモノアリ甚シキニ至

テハ弊社ニ對スル御命令ノ内容ヲモ辨別セス漫然不謹愼ナル語調ヲ以テ眞宗保險ハ監督官廳ノ命令付ナレハ恰モ禁治産者ナリ後見付ナリ監視付ナリ斯ル厄介ニシテ危險極マル會社ニ何ヲ苦ンテ契約セントスルカ今ニ看ヨ眞宗保險ハ營業ヲ停止セラレ契約者ハ多大ノ迷惑ヲ被ルニ至ルヘシ若カ又吾會社ノ安全ニシテ利益多キニハト恰モ御命令ヲ以テ弊社ヘ契約セントスル者ヲ防禦セシメンカ爲ニ彼ニ與ヘラレタル唯一ノ武器ノ如ク吹聽スルモノアリ地方人ノ淳朴ニシテ動モスレハ事ニ迂ナルヲ利シ一犬虛ヲ吠エテ萬犬實ヲ傳ヘ往々所期ノ被保人ヲ彼レニ奪ハル、カ少ナクトモ我ニ收ムル能ハサル事アリ近時弊社ノ多少頭角ヲ現ハサントセル爲ニヤ一層其情報ニ接スル事頻繁ナリ之レカ爲ニ多大ノ勞力ト費用ヲ水泡ニ歸セシメ涙ヲ呑テ豫定ノ地ヲ去ル事少ナカラス候如此場合ニハ進テ其妄ヲ辨シ其ノ誤リヲ糺サシムル事ニ勉ムルト雖トモ畢竟辨舞ノ辭ニ過キストシ馬耳東風ニ聞流サル、事ニ御座候今ヤ第壹回國債殘額ノ全部償選セラレントシ又米作豐饒都鄙到ル處金融緩和ノ兆ヲ呈シ百事順境ニ向ヒ殊ニ畏クモ戊申詔勅ノ御下賜ハ斯業勸募ノ上ニ非常ノ好影響ヲ來セル秋ナルニ是等誣妄ノ言ヲ弄スルモノ、タメ進路ヲ妨ケラルルハ頗ル遺憾ニ御座候

以上開陳ノ次第ナレハ何卒事情御酌量ノ上出格ノ御詮議ヲ以テ速ニ命令御解除被成下度省吾等誠心誠意事々ニ從ヒ復昔日ノ過失ヲ再演スルカ如キ事ナク益進テ會社ノ内容ヲ改善シ基礎ヲ鞏固ニシテ其職責ヲ盡スベク候茲ニ狀ヲ具シ謹テ御解除ノ義奉仰願候也

明治四十一年十二月一日　京都市下京區油小路御前通下ル玉本町廿五番戸　眞宗信徒生命保險株式會社

農商務大臣　男爵　大浦兼武殿　　專務取締役　木村省吾

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十一年十二月二十一日

命令解除ニ付通牒 (888)

商第一一四八九號　貴管下眞宗信徒生命保險會社ニ對シ今般別帋ノ通リ命令解除ノ義詮儀相成候次第モ有之候處命令第一項ニ付テハ尚未タ回收未了ニ屬スル有價證券モ有之此等ハ命令解除ノ後ト雖モ遲滯ナク之カ取立ヲ勵行シ又財産ノ處分運用等ニ關シテハ命令ノ趣旨ヲ永ク服膺シ充分愼重ナル處置ニ出ツルコトヲ要スルハ勿論ノ義ニ有之候條其旨篤ト御諭示ノ上別紙交付方御取計相成度此段及御通牒候也

京都府京都市下京區油小路御前通南入玉本町二十五番戸　眞宗信徒生命保險株式會社

明治三十七年十一月十七日付商發第二四四號命令ヲ解除ス

明治四十一年十二月二十一日　農商務大臣　男爵　大浦兼武

九州生命保險株式會社

役員改選 (889)

〔四・二七、官報〕　九州生命保險株式會社ハ取締役及監査役滿期改選ニ依リ明治四十一年三月二十九日左ノ通就任ス

一取締役ノ氏名住所　東京市麴町區紀尾井町三番地　鈴木廣

東京府豐多摩郡大久保村西大久保四百九十六番地　朝倉要之助

福岡縣福岡市因幡町四十九番地　林銓吾

一監査役ノ氏名住所　東京市下谷區東黑門町二番地　中村進

右明治四十一年四月八日登記　福岡（福岡地方裁判所管内）區裁判所

〔七・二、官報〕　農商務省告示第百六十八號

明治四十一年　眞宗信徒生命　九州生命

新契約停止

保險業法第十二條ニ依リ福岡縣福岡市東中洲町二百十二番地九州生命保險株式會社ニ對シ新ニ保險契約ヲ締結スルコトヲ停止シタリ

明治四十一年七月二日

農商務大臣　松岡康毅

(891)

右命令ノ理由

〔七・四、福岡日々〕 新契約停止理由　福岡市九州生命及富山市北陸生命二會社か新に保險契約を締結することを停止せられたる理由を聞くに去三十六年中大阪の某氏か十一生命保險會社の合同を企て大阪生命保險會社を成立せしめたるに右二會社は事情を異にし單獨營業を持續したるか大阪生命保險は遂に三十九年解散の運命に陷りたり其前後に於て右の九州、北陸二會社とも整理を要する點を生したるを以て主務省は整理命令を與へたるも其後全く其命令に違犯せるを發見したるを以て直に保險契約を停止同時に新に命令を與へたれば遠からざる內再調査を爲し命令に適合する狀態にあるときは停止を解除すべく然らざるときは更に適當の處置に出づべしと云ふ尚右二會社の契約停止は保險金不拂に基づくものに非ずと云ふ

(892)

解散命令ヲ受ク

〔九・六、福岡日々〕 九州生命解散命令　九州生命及北陸生命の兩保險會社は去る七月二日主務省より新契約停止と同時に整理の命令を受け爾來整理中の所捗々しく整理の實を擧ぐる能はざりし爲め遂に營業免許を取消さるゝこととなり九州生命は福岡地方裁判所北陸生命は富山地方裁判所の手を經て各々去廿九日解散を命ぜられたり、右に就き福岡地方裁判所にて聞く所によれば九州生命は未だ抗告の手續きに及ばざる由なるが多分抗告するに至るべしと因に同會社現在の資本金は卅万圓の內拂込濟額七万五千圓、保險契約高は一萬千四百三十三件此金額三百五万三千一圓にして準備積立金は約三十五万八千三百三十三圓なりと

(893)

役員會ニテ解散ヲ決議

〔一二・一三、福岡日々〕 九州生命の解散　曩に解散命令の決定に對し上告中なりし九州生命保險會社は昨日重役會を開き商法第百二十一條三號に依り解散の決議をなしたり

備考　商法二二一條三項參照　株主か七名未滿に減したるときは解散す

(894)

變更役員

日宗生命保險株式會社

〔五・一三、官報〕 日宗生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

取締役小林潮純ハ明治四十一年四月二十五日辭任シ同日左者取締役ニ就任ス

東京府豐多摩郡內藤新宿北裏町七十四　滋野井實麗

右明治四十一年五月五日登記

東京區裁判所

徵兵保險株式會社

明治四十一年　九州生命　日宗生命　徵兵保險

保險料及責任準備金ノ算出基礎方法（抄）　明治四十一年一月二十四日改正認可申請

甲計算ノ基礎

一死亡生残表　フアール氏男子表（別表ヲ添フ）

二豫定利率　年四朱五厘

三徴兵危險率　抽籤ニヨル入營率百分ノ三十　一年志願兵入營率百分ノ六十

保險料及責任準備金算出ノ基礎變更ノ理由　保險料及責任準備金算出ノ基礎ニシテ其基ク處ノ理由ハ二個ニシテ

甲徴兵危險率　現行保險料算出ノ基礎ハ御省ノ認可ヲ經テ壯丁百人ニ對シ入營者十三人ヲ以テ之レカ計算ヲ爲セリ然ルニ師團增設軍備充實ノ結果其入營比率ハ現下ニ於テ業ニ既ニ本會社ノ豫定入營率ヲ超過シ現時ノ保險料ヲ以テ契約スルノ不利ナルハ殆ト爭フヘカラサル事實ナリ況ンヤ數年ノ後軍備充實計畫ノ完成セル場合ニ於テハ適齡壯丁ノ約五分ノ一カ入營スルモノト推定スヘキ理由アリ然レトモ本會社ハ尚之レヲ以テ充分ナル危險率トナスコト能ハス更ニ之レヲ增大シテ將來ニ於テハ壯丁總員ノ百分ノ三十カ入營スルモノト豫定シ之レニ適應シタル保險料ヲ算出セリ

一年志願兵入營率ハ最近ノ統計ニヨリ本會社ノ豫定率ヲ變更スルノ必要ヲ認メス故ニ從來ノ通リ百分ノ六十ノ豫定率ニヨリ保險料ヲ算出セリ

乙死亡生殘表　從來使用セル本會社ノ死亡生殘表ハフアール氏男子表ヲ一萬人基準ニ換算シ是ヨリ零歲ト二十歲以後ヲ削除シタルモノナリ然ルニ斯クテハ生後一ケ月ニ滿タサルモノト生後滿一年六ケ月ノモノト約一年半ノ差違アルニ拘ハラス同一保險料ヲ以テ契約セサルヲ得ス爲メニ契約ヲ締結セントスルモノ、不便トスルトコロナル面已ナラス計算ノ方法ニ於テモ精密ヲ缺クノ憾ナキ能ハサルヲ以テ今回別表ノ通リフアール氏男子表中所要ノ零歲ヨリ二十歲ニ至ル迄ヲ採用シテ此不便ヲ避ケントセリ

徴兵保險約款（抄）

【備考】明治四十一年一月二十四日改正認可申請、本約款ヲ四十一年「五月保險案內」中ノ約款ト照合シ相違セル條項ヲ訂正セリ

第二條　本約款ニ於テ現役ト稱スルハ抽籤ニヨリ入營スルモノニ限ル但シ補充兵ヲ含マス

第三條　保險金ノ拂渡及保險料ノ拂戻ハ被保險者カ徴兵適齡即チ滿貳拾歲ニ達シタルトキ左記ノ規定ニヨリ支拂フモノトス

第一種徴兵保險	現役入營者	實役在營期間二年未滿ノ兵種	保險金ノ百分ノ八十
		實役在營期間二年以上ノ兵種	保險金ノ全額
	一年志願兵入營者	既拂込保險料ヲ拂戻ス	保險金ノ全額
第二種徴兵保險	普通現役兵志願入營者六週間現役兵入營者補充兵（教育召集ノ爲メ入營シタル者ヲモ含ム）不當籤不合格其他ノ理由ニヨリ現役ニ徴集セラレサルモノ	既拂込保險料ヲ拂戻ス	第二種徴兵保險一年拂込濟ニアリテハ第六號表ノ金額ヲ拂戻シ第二徴兵保險第三年拂込濟ニアリテハ第七號表ノ金額ヲ拂戻ス
	一年志願兵不合格者	既拂込保險料ヲ拂戻ス	既拂込保險料ヲ拂戻ス

保險契約ヲ存續シ合格入營シタルトキニ第三條ノ保險金ヲ拂渡スヘシ

第五條　被保險者補充兵ニ當籤シタルトキハ本人ノ希望ニ依リ補充兵ニ當籤シタルトキヨリ一ケ年間第三條ノ拂戻シヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項猶豫期間中ニ於テ補闕ノ爲メ現役ニ徴集セラレタルトキ及戰時若クハ變亂ニ際シ入營シタル補充兵ニシテ教育期間ヲ經過スルモ猶在營シ且現役ニ轉換セル證明アル者ニハ契約ノ保險金ヲ拂渡スヘシ

第六條　被保險者入營ノ時ニ於テ保險金ヲ受取ラスシテ現役服務中若クハ滿期ノ後受取ルコトヲ望ムトキハ本會社ハ之レニ應シ保管シ置キ本人ノ請求スルトキニ於テ拂渡スヘシ

第七條　被保險者徴兵適齡ニ達シ徴兵檢查ヲ受ケタルトキハ其結果ヲ若シ受ケサルトキハ其理由ヲ本會社ニ通知スルヲ要ス

第八條　被保險者兵役ニ服シ入營シタルトキハ直チニ本會社ニ通知シ遲クモ六十日間以內ニ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一保險金請求書

二市町村役場ノ證明アル現役兵證明寫

三被保險者及受取人ノ戶籍謄本

本條ノ手續ヲ怠リタルトキハ保險金ノ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第十二條　保險料拂込期日後六十日ヲ猶豫期間トス此期間內ニ拂込マントスルトキハ延滯保險料ニ對シ一日壹萬分ノ四ノ利子ヲ

附加スヘキモノトス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス

一保險契約者又ハ被保險者ノ保險申込ノ際重要ナル事項ニ不實ノ事ヲ告ケタルトキ

二保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テ實際ノ年齡カ契約ノ當時本會社ノ保險料表ニ揭ケタル最終ノ年齡ニ超過シタルトキ

第十五條　被保險者カ徵兵令第三十一條ニ該當スル徵兵忌避ノ罪ヲ犯シタルトキハ本會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

第十六條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テ第三十條第二號ニ該當セサルモノハ左ノ方法ニ據テ處理スヘシ

一錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ契約ノ當初ニ溯リ保險料ヲ削減スヘシ

二錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ少カリシトキハ契約ノ當初ニ溯リ保險料ノ不足額ニ一箇年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收スヘシ

三保險金支拂時期到達以前ニ第一號ノ手續ヲナサヽリシトキハ保險金額ノ百分ノ五ヲ超過セサル金額ヲ保險金ヨリ控除シ第二號ノ手續ヲナサヽリシトキハ保險金額ノ百分ノ十ヲ超過セサル金額ヲ保險金ヨリ控除シ第一號ノ手續ヲナサヽリシトキハ保險金額ノ百分ノ十五ヲ超過セサル金額ヲ保險金ヨリ控除スヘシ

第十七條　保險料不拂ニ依リ保險契約ノ效力ヲ失ヒタル後六十日以內ニ契約ノ復活ヲ請求スルトキハ本會社ハ一日壹萬分ノ四ノ利子ヲ附加シタル延滯保險料及保險金壹百圓ニ付キ手數料金五十錢ヲ領收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十八條　保險契約無效失效又ハ本會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ既拂込保險料中ヨリ其十分ノ二及保險金ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ

第十九條　保險契約者ノ都合ニ依リ解約ヲ請求スルトキハ既拂込保險料中ヨリ其十分ノ二及保險金額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ控除シタル殘額ヲ拂戻シ保險契約ヲ解除スヘシ

第二十條　被保險者契約期間中ニ於テ死亡シタルトキハ保險契約ハ消滅シ本會社ハ其既拂込保險料ヲ拂戻スヘシ

但本條ノ拂戻請求書ニハ戶籍吏ノ證明書ヲ添フルヲ要ス

第二十二條　保險料ノ拂戻ハ總テ一時掛若クハ年掛ノ計算ニ據ルモノトス

變更理由　普通保險約款變更ノ理由　普通保險約款中變更ノ要點ハ保險金支拂ノ事由ニシテ現行普通保險約款ニハ保險金ノ支拂ニ關シ入營期間一年以下二年以上ノ三者ニ區別シ各等差アル保險金ヲ支拂フコト、規定セリ而シテ現時ノ約款ニテ一年以下ノ入營者トハ輜重輸卒砲兵輸卒等ヲ指シ二年以下ノ入營者トハ步騎砲工兵輜重兵及海軍兵ヲ指スモノナリ然ルニ今回兵制改正ノ結果徵集人員ノ大部分ヲ占ムル步兵カ二年入營兵トナリタル爲メ依然步兵ニ對シ保險金ノ全額ヲ支拂ハントスルノ希望ヨリ保險金支拂ニ關スル約款變更ヲナシタルモノナリ

又第二種徵兵保險ノ被保險者ニシテ一年志願兵トナリタルモノニ對シ保險金ノ全額ヲ支拂フコト、セハ入營期間ハ砲工助卒ト相似タルモノナレトモ他ノ普通入營兵ハ在營中ニ要スル諸費ヲ一切官給セラルヽニ反シ一年志願兵ハ一切自辨スル差違アリ又一年志願兵ハ率ネ相當ナル教育ヲ有シ彼等ノ兵營ニアルト否トハ個人經濟ニ及ホス影響至大ニシテ決シテ他ノ諸卒ト同一視シ難キ事情アリ之レニ加フルニ此種ノ保險契約ヲ締結セントスルモノノ一般希望ニ副ヒ以テ今回保險金ノ全額ヲ支拂フコトニ變更セリ

徵兵保險株式會社保險規則（抄）（明治四十一年五月「保險案內」ヨリ）

一本會社營業ノ目的ハ徵兵保險ヲ行ヒ國民壯丁ノ兵役ニ服スルモノヲ奬勵シ精勤忠勇ノ實ヲ擧ケシメ併テ家族生計ノ安全ヲ保護スルニ在リ

一被保險者タルヘキ人ハ年齡零歲ヨリ十五歲迄ノ男子トス但身體檢查ヲ要セス

一本會社ノ契約スヘキ保險金額ハ最高參千圓最低壹百圓トス

東京生命保險株式會社

移轉登記 (898)

〔五・一三、官報〕東京生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一本店ヲ明治四十一年五月三日左ノ所ニ移轉ス

東京市芝區三田四國町七番地

右明治四十一年五月六日登記

東京區裁判所

日本共同生命保險株式會社

清算終了 (899)

登記濟御屆

當會社明治四拾壹年拾壹月拾四日清算終了ニ付同年同月拾六日大阪區裁判所ニ於テ登記致候間登記簿抄本相添

〈此段御屆申上候也　【登記簿抄本ハ省略】

明治四拾壹年拾壹月拾八日　大阪市東區本町貳丁目六十一番屋敷　日本共同生命保險株式會社

清算人　平林幾太郎

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

役員變更 (900)

日東生命保險株式會社

〔九・一七、官報〕日東生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役池谷徹、石光三郎、金川正家、墨岡淳平ハ明治四十一年九月九日辭任シ同日左者取締役ニ就任ス

上野茂三郎、渡邊玄榮、春山茂十郎、高畑運助、石井隨應【住所省略】

一同日左者監査役ニ就任ス

長谷川吉郎、佐藤保【住所省略】

右明治四十一年九月十一日登記

東京區裁判所

明治四十一年　東京生命　日本共同生命　日東生命

大同生命保險株式會社

定款中變更（抄）　明治四十一年九月一日申請
同　年十月二十一日認可

第二十五條中當會社ノ取締役ハ『五名』トアルヲ『六名』ト改ム

第二十七條中取締役ノ任期ハ『貳年』トアルヲ『參年』ト改ム

第一生命保險相互會社

明治四十一年ノ主要事項——社員配當改正・未收保險料不徵・最高保險金額引上・保險種類增加・責任準備金ニ就テ（第六回明治四〇・九・同四一・八・三一報告書ヨリ）

定款及普通保險約款事業方法書變更ノ認可　【本編　ヲ參照】

明治四十年十一月十五日第五回定時社員總代會ニ於テ可決シタル定款及普通保險約款變更ノ件並ニ事業方法書變更ノ件卽チ

一社員配當金ハ保險金支拂後ト雖モ尙ホ三年間餘分ニ配當スル事

一社員配當金ヲ一時拂濟保險料ニ振替ヘ保險金ヲ增加スル事

一生殘團體（所謂トンチン式配當法）ヲ廢止スル事

一保險金支拂又ハ解約ニ際シ未收保險料ヲ追徵セサル事

一保險金ノ最高額ヲ二萬圓ニ改ムル事

一保險契約ノ種類ニ十年滿期、十五年滿期ノ二種ヲ追加スル事

ノ各項ニ就キ夫々理由ヲ具シ主務官廳ニ出願シタルニ明治四十一年四月十七日ヲ以テ認可ヲ與ヘラレタリ依テ直チニ各社員ニ通知シ五月一日ヨリ之レヲ實施セリ

責任準備積立金

責任準備金ハ前年度ニ於テ最モ潤澤ナル方法卽チ純保險料式ニ依リ四十四萬四千圓餘ヲ積立テ之レヲ本年度ニ繰越シ更ニ本期ニ於テ契約高ニ相當スル金額ヲ增加シ合計金六十四萬三千七百四十六圓餘ヲ積立テタリ我邦同業者中此純保險料式積立ヲ爲セルモノ實ニ寥々タルナリ

千代田生命保險相互會社

二千萬圓達成最高金額引上 (903)

〔一〇・四、東京日々〕廣　告

當會社の現在保險契約高貳千萬圓以上に達したり依て豫定の通り被保險者一人に付て引受くべき最高保險金額を貳萬圓と改正す

東京日本橋區新右衞門町　千代田生命保險相互會社

(904)

萬歲生命保險株式會社

〔六・一、官報〕萬歲生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

移轉登記

一本店ヲ明治四十一年五月二十日左ノ所ニ移轉ス

東京市日本橋區本材木町一丁目二十二番地　【新築落成ニ依ル】

右明治四十一年五月二十六日登記

東京區裁判所

大阪ニテ披露ノ宴 (905)

國光生命保險相互會社

〔一〇、三〇、大阪朝日〕國光生命披露の宴　華族團體の首唱に成れる國光生命保險相互會社は開業當時より營業費の支出比較的に多く爲に缺損を釀すに至り同業者間に於て兎角の風評ありしが主務省の注意に依り更に其缺損を塡補し伯爵島津社長自ら銳意其整理の任に當りたる結果新に同族の基金者を得改善の目的を達せしやにて今回關西地方へ發展の爲再昨日同社長及ひ加治木重役來阪し二十九日大阪ホテルに同披露の宴を開けり

明治四十一年　千代田生命　萬歲生命　國光生命

神國生命保險株式會社

神國生命保險株式會社事業免許申請書

明治四拾年拾貳月廿七日付ヲ以テ發起御認可相成候神國生命保險株式會社事業之義御免許被成下度保險業法第五條及同施行細則第參條ニ依リ別紙書類相添へ此段申請仕候也

明治四拾壹年參月貳拾八日　神國生命保險株式會社

取締役　千葉禎太郎、成瀬眞一、相澤鶴吉、谷口仁太郎、神作新

監査役　木嶋安五郎、秦野眞治

農商務大臣　松岡康毅殿

【備考】明治四十一年七月六日附農商務省指令商第三四九二號ヲ以テ免許

書類目錄

一定款

一事業方法書

一普通保險約款

一保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

附　死亡生殘表、養老保險計算基數表、資金保險計算基數表、養老保險料表、教育保險料表

一責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類

一株主名簿

一各株主ノ株式申込證

一創立總會ノ決議錄

附　調査報告書、創立費支拂明細書、株金拂込證明書

神國生命保險株式會社定款（抄）

第一章　總則

第一條　當會社ハ神國生命保險株式會社ト稱ス

第二條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置キ支店ヲ大阪市、仙臺市、名古屋市、熊本市ニ置ク

出張店代理店ノ設置ハ之ヲ取締役會ノ決議ニ一任ス

第三條　當會社ハ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

第四條　當會社ノ營ム保險ノ種類ハ年齡九年七箇月以上六十年六ヶ月以下ノ者ヲ被保險者トスル死亡生存混合ノ保險並ニ年齡十六年六ヶ月以下ノ者ヲ被保險者トスル生存保險ニシテ營業ノ範圍ハ日本國内ニ於テ一般公衆ト保險契約ヲ爲スニアリ

第二章　資本及ヒ株式

第六條　當會社ノ資本ハ金五拾萬圓トス

第七條　當會社ノ株式ハ壹株金五拾圓トシ其株數ヲ壹萬個トス

第九條　當會社株金ノ第壹回拂込ハ壹株ニ付キ金拾貳圓五拾錢トシ發起認可ヲ得タル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ爲サシメ其殘額ハ取締役會ニ於テ拂込期日及ヒ金額ヲ定メ期日貳週間前ニ之ヲ株主ニ通知シテ拂込マシム

第三章　取締役及監査役

第十六條　當會社ニ取締役五名監査役二名ヲ置ク

第十八條　取締役ノ任期ハ三箇年監査役ノ任期ハ壹箇年トス但初

期ノ取締役及ヒ監査役ノ任期ハ其改選期ノ直前ノ定時總會閉會ノ日ヲ以テ滿了スルモノトス

第廿一條　取締役ハ社長一名常務取締役一名ヲ互選ス

第廿四條　取締役會ハ事業ノ方法保險約款保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類並ニ營業ニ必要ナル諸書類執務上ノ諸規則等總テ事業ノ經營ニ屬スル事項ヲ議定シ及支配人ノ選任並ニ相談役又ハ顧問ノ囑託ヲ爲スコトヲ得

第四章　株主總會

第廿六條　當會社ノ定時株主總會ハ毎年二月中ニ之ヲ開キ前年度ニ對スル財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書ノ承認並ニ諸準備金、賞與金、株主配當金ノ決議ヲ爲ス

第五章　計　算

第卅一條　當會社ノ事業年度ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテトス

(908)

神國生命保險株式會社事業方法書（抄）

第一章　養老保險

第一節　保險ノ種類及ヒ保險金ノ制限

第一條　當會社ニ於テ營ム養老保險ノ種類ハ三十歲受取三十五歲受取四十歲受取四十五歲受取五十歲受取五十五歲受取六十歲受取六十五歲受取及ヒ七十歲受取ノ九種トス

第二條　一人ノ被保險者ニ對スル契約金額ハ最低ヲ金貳百圓トシ最高ヲ契約ノ度數ニ拘ラス合計金壹萬圓トス但金百圓以下ノ端數アル保險金額ヲ契約セス

前項ノ最高金額ヲ契約シタル後ト雖トモ教育結婚資金保險ハ尙之ヲ契約スルコトヲ得

第四節　保險料

第九條　保險料ハ毎一ケ年分ヲ前拂セシムルヲ本則トスルモ保險

契約者ノ希望ニ依リテハ毎三ケ月拂又ハ毎半ケ年拂トナスコトヲ得而シテ毎月拂ハ一般保險契約者ニ提供セサルモ多數被保險者ノ團體ヲ契約スル如キ場合ニ之ヲ承諾スルコトアルヘシ是等ノ場合ニ於ケル保險料ハ左ノ方法ニ據リテ算出シ厘位ハ四捨五入ス

第二章　教育結婚資金保險

第一節　保險ノ種類及ヒ保險金ノ制限

第十二條　教育結婚資金保險ノ種類ハ十五歲受取十七歲受取二十歲受取二十三歲受取ノ四種トス

第十三條　一人ノ被保險者ニ對シ契約金額ハ最低ヲ金壹百圓トシ最高ノ制限ヲ置カス但壹百圓以下ノ端數アル保險金額ヲ契約セス

第十四條　保險金ハ被保險者カ契約保險期間ヲ滿了シテ生存セル場合ニ之ヲ支拂フモノトス

被保險者カ契約ノ保險期間ヲ滿了セサル以前ニ於テ死亡シタル場合ニハ其既ニ拂込ミタル保險料ノ總額ヲ返還ス

(909)

神國生命保險株式會社普通保險約款（抄）

第一章　養老保險

第五條　保險料ノ拂込ハ期日若クハ其以前ニ之ヲ爲スヘキモノトス但期日後三十日ノ猶豫期間ヲ附與シ其間ニ被保險者死亡スルモ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ

第十三條　被保險者ノ年齡ハ其戸籍ニ記載セルモノヲ正當トシ之ニ相違セルトキハ第十條第三號ノ場合ノ外錯誤ノ年齡ニ應當スル每年拂保險料ノ正當年齡ニ應當スル每年拂保險料ニ對スル割合ヲ以テ保險金額ノ增減ヲ爲スモノトス

第十四條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額ノ十分ノ一ヲ削減シテ支拂フモノトス

一被保險者カ熱帶地方ニテ死亡シタルトキ

明治四十一年　神國生命

二被保險者カ陸海軍又ハ警察ノ職務司獄官航海鐵道漁獵又ハ鑛山ノ業務機械汽鑵電氣又ハ火藥ヲ取扱フ事業ニ從事シ之カ原因ト爲リテ死亡シタルトキ

第十五條　戰爭ニ因スル死亡ニ對シテ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス但保險契約者カ平時ニ於テ保契契約ノ當時ヨリ每年保險金ノ千分ノ二ニ當ル特別保險料ヲ拂込ムカ又戰時ニ方リテ當會社ノ指定シタル特別保險料ヲ拂込ムトキハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ

第十七條　保險契約ノ解除失効又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ該保險期間ノ終期ニ至ル年數ノ十分ノ一以上保險料ヲ拂込ミタル者ニ限リ當會社ハ該契約ニ對スル責任準備金ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ但第十二條第二號ノ場合ハ之ヲ除ク

第十八條　保險契約無効ノ場合ニ於テハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ但第十條第一號及ヒ第二號ノ場合ハ之ヲ除ク

第十九條　保險料ノ拂込遲延シテ猶豫期間ヲ經過シ之カ爲メニ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル後ト雖トモ尚三ケ月以内ニシテ被保險者ノ健全ナリト認メラルヽ場合ニ限リ當會社ハ契約ノ復活ヲ承諾スヘシ但延滯保險料ニ對スル一日壹萬分ノ四ノ利息ト保險金額ノ千分ノ三ニ當ル手數料ヲ請求スヘシ

第二十條　保險料ノ拂込遲延シテ猶豫期間ヲ經過シタルトキト雖モ該契約ニ對シ第十七條ノ拂戻金アル場合ニハ當會社ハ之ヲ延滯保險料ニ充テ其殘額カ一回分ノ保險料ニ不足ヲ告クルマテ保險契約ノ効力ヲ失ハサラシムヘシ保險契約者ニ於テ此取扱ヲ受クルヲ欲セサルトキハ猶豫期間内ニ其旨ヲ當會社ヘ申出ツヘキモノトス

第廿一條　保險契約ノ解除ヲ請求スルモ第十七條ノ拂戻ヲ受ケシテ新ニ同一種類ノ保險契約ヲ結ハント欲スルモノニ對シテハ該契約ニ對スル責任準備金ノ全部並ニ拂渡スヘキ利益分配金アル場合ニハ其金額ヲ一時拂保險料トシテ之ニ相當セル金額ノ拂濟證券ヲ交付スヘシ

但此拂濟證券ニ對シテハ利益金ノ分配ヲ爲サス

第廿二條　保險金額四百圓以下ノ契約ニ對シテハ之カ滿三ケ年間繼續シタル場合ニ限リ當會社ハ第十條第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於ケル契約ノ無効ヲ主張セス但契約復活ノ事實アリタル時ハ此期間ハ最後ノ復活ノ時ヨリ起算スルモノトス

保險金額四百圓以下ノ契約ヲ貳回以上締結シ其合計カ五百圓以上ニ達シタル場合ニ於テハ以前ニ契約シタル四百圓以下ノ金額ニ對シテノミ前項ノ規定ヲ適用スルモノトス但同時ニ四百圓以下ノ契約ヲ貳口以上締結シ其合計カ五百圓以上ニ達シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

（附言　本條ハ所謂不可爭條件ヲ設定シタルモノニシテ保險契約者カ滿三ケ年無事ニ繼續シタル後ハ保險契約者又ハ被保險者ノ惡意ナカリシモノト推定スルノ趣意ナリ）

第廿三條　保險金額五百圓以上ノ契約ニシテ滿三ケ年繼續シタルトキハ其保險契約者ハ當會社ノ利益分配ニ與ル權利ヲ有ス

利益分配金ハ每事業年度ノ終リニ於テ當會社定款ノ規定ニ從ヒ總利益金ノ十分ノ一以上ニ當ル金額ヲ該年度末ニ於テ利益分配ヲ受クヘキ權利アル保險契約ニ對シ其年拂保險料ノ比例ヲ以テ分配ノ計算ヲナシ之ヲ當會社ニ積立テ置キ五ケ年每ニ其合計ヲ保險契約者ヘ拂渡スモノトス五ケ年ノ滿了前ニ被保險者死亡シ又ハ保險期間ノ終期ニ達シ若クハ契約ノ解除ヲ爲シタル場合ニハ其契約ニ對シテ既ニ積立テタル利益分配金額ヲ拂渡スヘシ

保險金額四百圓以下ノ契約ニ對シテハ當會社ハ利益ノ分配ヲナサスト雖モ貳回以上之ヲ爲シテ其保險金額ノ合計カ五百圓以上ニ達スル場合ニハ其時ヨリ起算シ各契約ニ對シテ本條第一項ノ規定ニ從ヒ利益金ノ分配ヲ爲スモノトス

第廿四條　當會社ハ保險契約者及ヒ保險金受取人連帶ノ請求ニ依リ解約拂戻金カ五拾圓以上ナル場合ニ限リ保險證券ヲ擔保トシテ其以内ノ金額ヲ貸付クルヘシ

保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル事項（抄）

第二　保險料算出ノ基礎

甲　死亡生殘表　我國内閣統計局ニ於テ明治二十四年ヨリ三十一年ニ至ル八年間ノ我國人口統計ヲ材料トシテ作成シタル男女二表ヲ合併シタルモノニシテ表ハ別册ニ掲ケタリ而シテ此死亡生殘表調製ノ方法ハ第四回萬國「アクチュアリー」會議報告書第一卷第百二十三頁以下ニ詳細記述セラレタリ

乙　豫定利率

（一）養老保險　年四朱　（二）教育結婚資金保險　年五朱

〔七・一六、官報附錄〕株式會社登記簿第一三册第五七九號

一商　號　神國生命保險株式會社

一本　店　東京市下谷區上野町一丁目十八番地

一設立年月日　明治四十一年三月六日

一取締役ノ氏名住所　千葉縣市原郡海上村今富六百二十三番地　千葉禎太郎

靜岡縣周智郡森町森九十番地　成瀨眞一

山梨縣甲府市境町九番地　相澤鶴吉

福島縣石城郡平町二丁目三十九番地　谷口仁太郎

明治四十一年　神國生命

福壽生命保險株式會社

〔六・二七、時事〕 福壽生命の發起認可　名古屋生命保險會社が今回太陽生命保險會社と改稱し、本店を東京に移し同時に内部の大改革を爲したるに付、同社を退きたる連中が中心となり名古屋に於て福壽生命保險會社と稱する新會社を發起し其筋へ認可出願中なりしが過般愈々主務省より發起認可を與へられたりと

東京區裁判所

一監査役ノ氏名住所　東京府南多摩郡八王子町八百八十番地　木島安五郎
　　千葉縣市原郡白鳥村菅野百五十九番地　秦野眞治

一設立費償却ノ方法　初年度ニ於テ償却ス

右明治四十一年七月十一日登記

【備考】 明治四十一年八月一日開業

福壽生命保險株式會社定款（抄）

【創業當時ノモノ】

第一章　總則

第一條　當會社ハ福壽生命保險株式會社ト稱ス

第三條　當會社ハ本店ヲ名古屋市ニ置ク

第二章　資本金及積立金

第六條　當會社ノ資本金ハ五拾萬圓トス

第七條　當會社ノ財產ハ取締役會ノ決議ニヨリ左ノ方法ヲ以テ確實ニ之ヲ利用ス

一國債證券地方債證券又ハ確實ナル會社ノ債券株式ヲ取得スルコト

二確實ナル銀行ヘ預金トナスコト

三當會社ノ事業上必要ナル不動產ヲ取得スルコト

四第一號ニ揭ケタル有價證券ヲ擔保トシ貸付クルコト

五當會社ノ普通保險約款第十九條ニヨリ貸付金ヲナスコト

第三章　株式

第八條　當會社ノ株式ハ壹萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ五拾圓トス但株券ハ拾株券及五株券トシ記名式トス

第四章　株主總會

第十八條　定時總會ハ每年一月之ヲ開キ臨時總會ハ必要アル每ニ之ヲ開ク

第五章　取締役監査役

第二十六條　取締役ハ七名監査役ハ三名トス

第二十八條　取締役ノ任期ハ三ヶ年トシ監査役ノ任期ハ一ヶ年トス

第三十條　取締役ハ互選ヲ以テ社長一名專務取締役一名ヲ定ム

第六章　計算

第三十四條　當會社ノ事業年度ハ每年一月一日ヨリ十二月三十一日迄滿一ヶ年ヲ一期トス

第三十五條　當會社ノ損益計算ハ每期收入金ヘ前年度繰越金ヲ合算シタルモノノ內ヨリ左ノ五項ヲ控除シタル殘額ヲ利益金トス

一支拂保險金

一責任準備金

一支拂準備金

一保險契約ニ對スル諸拂戻金

一營業費損失金其他ノ支出金

第三十六條　當會社ノ利益金ハ左ノ範圍內ニ於テ分配ス

一法定準備金　利益金ノ百分ノ五以上

一特別積立金　同　百分ノ十以上

一保險契約者分配準備金　同　百分ノ十以上

前各項ノ積立金ヲ控除シタル殘額ノ內ヨリ以テ株主配當金ニ充當ス但計算ノ都合ニヨリ次期ヘ繰越スコトアルヘシ

附則

第三十八條　當會社ノ設立費用ハ金三千圓以內トシ初年度ニ於テ償却スルモノトス

第三十九條　當會社ノ發起人住所氏名左ノ如シ

明治四十一年　神國生命　福壽生命

名古屋市中區鐵砲町八十一番戸　神野金之助
三重縣三重郡四郷村大字室山二百十三番屋敷　伊藤傳七
名古屋市中區鐵砲町八十一番戸　富田重助
同　市西區傳馬町百五十八番戸　渡邊喜兵衞
同　市西區傳馬町百六十番戸　近藤友右衛門
同　市同區玉屋町九十八番戸　平戸德右衛門
同　市南區熱田須賀町三十五番戸　鈴木治右衛門

第四十條　本定款ハ明治四十一年三月十一日作成ス

(914)　普通保險約款（抄）【創業當時ノモノ】

第三條　第二回以後ノ保險料拂込ニ就テハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス此期間内ハ延滯保險料及ヒ之ニ對スル一日壹萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムコトヲ得

第十二條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他ノ變亂地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ之ヲ當會社ニ通知スヘキモノトス

當會社カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ一ケ年ニツキ保險金額ノ百分ノ十ヲ超ヘサル特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　保險契約ノ解除失効又ハ當會社カ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニ於テハ滿三年以上保險料ヲ拂込タルモノニ限リ當會社ハ該契約ニ對スル責任準備金ノ十分ノ七（金額ハ別表ニ示ス）ヲ拂戻スヘシ但第十條第二號ノ場合ハ此限ニアラス

第十七條　第三條ノ猶豫期間内ニ保險料ノ拂込ヲ爲サス又ハ保險契約ノ解除ヲ請求セサル場合ニ於テ一回分ノ保險料及ヒ其利子カ前條ノ拂戻金ニ超過セサル限リ之ヲ貸付金ニ振替ヘ保險料ノ拂込ニ充當シ保險契約ノ効力ヲ失ハサラシム

第十八條　當會社ハ保險契約解除ノ場合ニ於テ保險契約者ノ請求ニヨリ第十六條ノ拂戻金ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟保險證券ヲ交付スヘシ

拂濟保險金額ハ別表ニ例示ス

第十九條　當會社ハ保險契約者及保險金受取人ノ連帶ノ請求ニヨリ第十六條ノ拂戻金カ貳拾圓以上ナル場合ニ限リ當會社ノ定メタル手續ヲ履行セシメ其以内ノ金額ヲ貸付クヘシ

第二十一條　當會社ハ毎事業年度決算ニ於テ利益金ノ十分ノ一以上ヲ積立テ置キ五年目毎ニ取纏メ保險契約締結後滿三年以上ヲ經過シタル現在契約ニ對シ年額保險料ニ經過年數（端數及拂濟後ノ年數ヲ除ク）ヲ乘シタルモノニ比例シ分配スルモノトス

前項ノ分配金ハ之ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金ヲ計算シ契約ノ保險金額ヲ增加スヘシ

利益分配期以前ニ被保險者カ死亡スルカ又ハ保險契約カ滿了スル場合ニ於テ其前事業年度末マテニ滿三年以上ヲ經過シタル保險契約ニ對シテハ契約後該年度末ニ於テ滿三年以上ヲ經過シタル現在契約ノ經過年數（端數及ヒ保險料拂濟後ノ年數ヲ除ク）ニ年額保險料ヲ乘シタルモノニ比例シテ分配金ヲ計算シ之ヲ保險金額ニ附加シ保險金受取人ニ交付スルモノトス

生命保險案内（抄）【創業當時ノモノ】

保險種類

利益金分配付終身保險（十年拂込終身保險　十五年拂込終身保險　二十年拂込終身保險）
利益金分配付養老保險（十年滿期養老保險　十五年滿期養老保險　二十年滿期養老保險）
利益金分配付增額養老保險（四十五歳受取增額養老保險　五十歳受取增額養老保險　三十年滿期養老保險　四十五歳受取增額養老保險　五十五歳受取增額養老保險　六十歳受取增額養老保險）

此保險は普通養老保險と異るところなきも滿期に到り受取るべき保險金は其以前死亡したるときに受取る保險金よりも五割を增加する面白き保險であります

利益金の配當　當會社は定款に依り利益金を積立て置き五年目毎に三年以上繼續せられたる保險契約者に分配しますから生命保險の長所と普通貯金の長所と双つながら兼有して早世者は保險料に比して遙に多額の保險金を得長生者は保險金の外に更に多額の利益金を得ることが出來ます

此分配金は拂濟保險料に振替へて契約の保險金を增加しますから保險金を受取るべき場合には豫想外の澤山なる保險金を得ることになります

保險金額　當會社にて御引受する保險の金額は普通五百圓以上で壹百圓ごとに增加して最高は壹万圓でありますす然し場合に依れば最低參百圓以上御申込に應じます

創立事情（第一回明治四一・一〇・一二同・三一事業報告書ヨリ）

明治四十一年八月十六日當會社内ニ於テ創立總會ヲ開キ會社創立ニ關スル事項ヲ報告シ取締役及監査役ノ選擧ヲ爲シタルニ取締役ニ神野金之助、富田重助、伊藤傳七、早川周造、太田小三郎、渡邊喜兵衞、糟谷縫右衛門

明治四十一年　福壽生命

ノ七名監督役ニ平子德右衞門、近藤友右衞門、鈴木治左衞門ノ三名當選續テ商法第百三十四條ノ規定ニ基キタル取締役及監査役ノ調査報告アリテ閉會セリ

同日取締役會ヲ開キ社長及專務取締役ノ互選會ヲ開キタルニ社長ニ神野金之助專務取締役ニ富田重助當選セリ

又監査役ニ當選シタル近藤友右衞門ハ辭退ニ付定款第三十一條但書ニ準シ缺員ノ儘トシ改メテ選擧セサルコトニ決定セリ

同年同月二十五日保險事業免許申請書ヲ主務大臣ニ提出セリ

同年九月五日主務省ヨリ檢査官出張諸帳簿ヲ始メ檢査無事終了セリ

同年同月二十八日付ヲ以テ主務大臣ヨリ營業免許ノ指令下付同月三十日受領セリ

同年同月三十日名古屋區裁判所ヘ設立登記ノ申請ヲ爲シ卽日完了セリ

（以上ハ創立以後開業ニ至ル迄ノ事項ナルモ便宜記載セリ）

同年十月一日營業ヲ開始セリ

富士生命保險株式會社

富士生命保險株式會社發起認可申請書

富士生命保險株式會社設立致度候ニ付保險業法施行規則第一條ニ據リ保險業法第五條及第六條ニ規定セラレタル別紙書類相添ヘ候間發起認可相成度此段申請候也

明治四十一年九月七日

東京市牛込區白銀町廿八番地　富士生命保險株式會社

發起人總代　男爵　矢　吹　秀　一

農商務大臣　男爵　大　浦　兼　武　殿

【備考】明治四十一年十二月二十八日附農商務省指令商第九一八七號ヲ以テ認可

明治四十一年　福壽生命　富士生命

太平生命保險株式會社

發起認可申請 (918)

太平生命保險株式會社發起認可申請

今般下名ノ者共發起人トナリ生命保險事業ヲ目的トスル太平生命保險株式會社設立ノ義協定致候ニ付テハ會社發起ノ義御認可相成度左記書類相添ヘ此段申請候也

一定　款

一事業方法書

一普通保險約款

一保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

一責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類

追テ本申請添付書類ノ加除訂正ヲ要スル場合ニ於テハ楠秀太郎ヲ以テ總代理人トシテ其手續ヲ一任仕置候間此段添テ上申仕候也

以上

明治四十一年三月二十四日

東京市京橋區築地貳丁目貳拾番地　太平生命保險株式會社　發起人　楠　秀太郎

農商務大臣　松岡康毅殿

東京市芝區愛宕町貳丁目壹番地	伯爵　板垣退助
東京市麻布區櫻田町參拾八番地	伯爵　柳原義光
東京市日本橋區蠣殻町壹丁目四番地	內野五郎三
東京府北豐島郡南千住町橋場千參百七拾參番地	小林好愛
東京市日本橋區小網町參丁目參番地	北岡鶴松
東京市麻布區今井町參拾五番地	野中萬助
山梨縣東八代郡南八代村參拾八番戶	中山佐市
	加賀美東一郎
石川縣金澤市上柿木畠壹番地	代　楠秀太郎
石川縣金澤市高岡町貳拾六番地	男爵　橫山隆俊
佐賀縣藤津郡多良村大字永岐壹千〇六拾五番地	代　楠秀太郎
	橫山章
	代　楠秀太郎
	新宮清朗
	代　楠秀太郎

(919)

太平生命保險株式會社定款（抄）

第一章　總則

第一條　當會社ハ生命保險ヲ營業ノ目的トシ其事業ノ範圍ハ日本、支那、朝鮮ヲ主トシ漸次其他ノ諸國ニ之ヲ及スモノトス

第二條　當會社ハ太平生命保險株式會社ト稱ス

第三條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置キ出張所及ヒ代理店ハ必要ニ應ジ便宜樞要ノ地ニ之ヲ設ク

第二章　資本及ヒ株式

第五條　當會社ノ資本ノ總額ハ金五拾萬圓トス

第六條　當會社ノ株式ハ一株ヲ金壹千圓トシ總株數ヲ五百個トス

第九條　株金ノ拂込ハ第一回ヲ一株ニ付金貳百五拾圓トス其殘額ハ取締役會ノ決議ヲ以テ拂込ムヘキ金額及ヒ期日ヲ定メテ拂込マシムルモノトス

第三章　株主總會

第十六條　株主總會ヲ分チテ定時株主總會、臨時株主總會ノ二種トス

定時株主總會ハ毎年一回トシ二月中ニ之ヲ招集シ臨時株主總會ハ必要アル毎ニ臨時ニ之ヲ招集ス

第四章　取締役及ヒ監査役

第二十二條　當會社ノ取締役ハ五名乃至七名、監査役ハ一名乃至三名トシ其員數ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十三條　取締役ハ拾株以上監査役ハ五株以上ヲ所有スル當會社ノ株主ヨリ株主總會ニ於テ選任ス其任期ハ取締役ハ三年監査役ハ一年トス但再選スルコトヲ妨ケス

第二十七條　取締役ハ社長及ヒ專務取締役各一名ヲ互選ス

第六章　財產運用

第三十九條　當會社ノ財產ヲ利用スルニハ左ノ範圍トシ其運用方法ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

一確實ナル有價證券ヲ取得スルコト

二確實ナル有價證券ヲ擔保トシ又ハ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

三確實ナル銀行ニ預ケ金ヲ爲スコト

四不動產ヲ取得スルコト

五府縣市町村等ノ公法人ニ貸付ヲ爲スコト

六保險契約者ニ對シ解約價格ヲ限度トシテ貸付ヲ爲スコト

第七章　決算

第四十條　當會社ハ毎年十二月三十一日ヲ以テ帳簿ヲ閉鎖シ事業年度ノ決算ヲ爲ス

第四十一條　當會社ハ毎事業年度ニ於ケル總收入ヨリ總支出ヲ控除シタル殘額ヲ其年度ノ利益金トス

第四十二條　當會社ハ前條ノ利益金ヨリ其二十分ノ一乃至二十分ノ一・五ノ法定準備金、二十分ノ一以內ノ特別準備金、二十分ノ一以內ノ役員賞與金ヲ控除シ其殘額ヨリ拂込ミタル株金額ニ對シ株主普通配當金トシテ年六朱ニ相當スル金額ヲ充テ尙ホ殘額

アルトキハ其十分ノ一ヲ株主特別配當金、十分ノ九ヲ保險契約者配當準備金トス但計算ノ都合ニ依リ利益金ノ全部又ハ一部ヲ次年度ヘ繰越金ト爲スコトヲ得

(920)

事業方法書（抄）

一當會社ノ營業スル生命保險ノ種類ハ養老保險、貯蓄保險及ヒ定期保險ノ三種トス更ニ保險期間ヲ分チテ養老保險ヲ十年、十五年、二十年、二十五年、三十年滿期ノ五種トシ貯蓄保險ヲ十五年、二十年、二十五年、三十年ノ四種トシ定期保險ヲ三年、五年ノ二種トス

二當會社ノ被保險者ハ保險契約締結ノ當時ニ於テ年齡十五年七ケ年以上六十年六ケ月以下ノ者ニ限ル但保險契約ノ種類及ヒ保險期間ノ長短ニ依リ契約スヘキ年齡ハ保險料表又ハ保險金額表ニ揭クル範圍內トス

三當會社ノ締結スル被保險者ハ日本人、支那人、朝鮮人ヲ主タルモノトシ場合ニ依リ歐米人ヲモ締結スルコトアルヘシ

四當會社ノ事業ノ範圍ハ日本、支那、朝鮮ヲ主トシ漸次其他ノ諸國ニモ之ヲ擴張スルモノトス

五當會社ノ締結スル保險金額ハ各保險契約ノ種類ニ對シ保險者一人ニ付左ノ範圍內トス

（養老保險）　最低額　參百圓、最高額　貳萬圓

（定期保險）　最低額　參百圓、最高額　五千圓

（貯蓄保險）　最低額　保險料月掛壹圓ニ相當スル額

最高額　保險料月掛拾圓ニ相當スル額

但養老保險ニ限リ總保險金額ノ壹千萬圓ヲ超過シタルトキハ最高額ヲ其三百分ノ一マテ締結シ得ルモノトス

二一淸韓人ニ對スル契約ニ在リテハ金額ハ邦貨ヲ以テ計算シ契約上ノ文言ハ邦文ヲ以テ本則トス但便宜譯文ヲ添付スルコトアルヘシ

(921)

太平生命約款（其ノ一）

養老保險普通保險約款（抄）

第三條　保險契約者ハ保險期間滿了ノ時ニ於テ被保險者ノ生存シタル場合ニ限リ保險期間滿了ノ際會社ノ利益配當ニ與カル權利ヲ有スルモ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其權利ナキモノトス

第六條　保險料ノ拂込ハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス但此期間内ハ延滯シタル保險料ニ對シ其延滯日數ニ應シテ百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スルモノトス

第七條　被保險者ガ從軍スルカ又ハ戰爭其他變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ豫メ之ヲ會社ニ通知スヘシ

會社ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其戰爭又ハ變亂ノ事由ノ繼續スル期間ニ對スル保險料トシテ保險金額ノ一割ヲ超ヘサル限度ニ於テ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　保險契約者カ猶豫期間中ニ保險料ノ拂込ヲ怠リ保險契約ノ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ其失效ノ時ヨリ一箇年内ニ會社ノ定ムル書式ニ依ル健康證明書ヲ提出シ保險契約ノ復活ヲ請求スルトキハ會社ハ被保險者ノ身體ニ異狀ナキコトヲ認メタルトキニ限リ其請求ヲ承諾スヘシ此場合ニ於テハ保險期間カ繼續シタルモノト看做シ不拂ニ屬スル保險料及ヒ之ニ對シ百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

第十五條　保險契約無效ノ場合ニ於テハ既ニ拂込ヲ爲シタル保險料ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ返戻スルモノトス

第十九條　左ノ場合ニ於テ會社ハ保險金支拂ノ責任ナキモノトス

【二、三ハ省略】

一第一回保險料拂込以前ニ被保險者ガ死亡シタルトキ

四被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ

但特別保險料ヲ豫メ拂込ミタル者ハ此限ニ在ラス

五被保險者カ失踪ノ宣告ニ因リテ死亡者ト看做サレタルトキ但會社ガ被保險者ノ死亡シタルコトヲ事實ニ於テ推定シ得ヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第二十條　保險期間カ滿三箇年以上繼續シタルトキハ保險契約者ノ請求ニ因リ會社ハ第十四條ノ返戻金ニ超エサル金額ヲ貸付スヘシ

第二十一條　保險期間カ滿五箇年以上繼續シタルトキハ保險契約者ハ會社ノ承諾ヲ得テ保險金額ヲ變更シ將來ニ拂込ムヘキ保險料ノ支拂ヲ免カルルコトヲ得但此場合ニ於テ保險契約者ハ會社ノ利益配當ニ與カル權利ヲ失フモノトス

第二十二條　保險契約者カ配當ニ與カルヘキ會社ノ利益ハ每事業年度ノ決算ニ於テ生シタル利益金ヨリ其二十分ノ一乃至二十分ノ一、五ノ法定準備金、二十分ノ一以内ノ役員賞與金及ヒ拂込ミタル株金額ニ對シ年六朱ニ相當スル限度ニ於テ株主普通配當金ヲ控除シ其殘額ノ十分ノ九トス保險契約者ニ利益ヲ配當スルニハ其拂込ヲ爲シタル保險料額保險契約締結ノ當時ニ於ケル被保險者ノ年齡及ヒ保險期間ノ經過シタル年數ニ基キ會社カ別ニ定ムルトコロノ方法ニ從ヒ各保險契約者ノ配當金額ヲ定メ會社ノ本店又ハ支店ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類（抄）

死亡表ト豫定利率

一死亡生殘表　亞米利加實驗表ヲ用ユ（別表甲號ノ如シ）

二豫定利率　年三朱五厘トス

明治四十二年

明治生命保險株式會社

利附保險ノ配當率（第二十九回明治四二・一一・一報告ヨリ同四二・一二・三一報告ヨリ）

本季ハ尋常終身利益分配附保險ノ第七回配當期ニ相當スルヲ以テ利益分配無保險ニ比シ餘分ニ支拂フ保險料ニ年貳割ノ複利ヲ加ヘ金參萬貳千七百四拾五圓拾參錢ヲ契約人九百五拾五人ニ對シ本年度剩餘金中ヨリ分配スルコトヽセリ會社ハ創業以來每四年ヲ壹期トシ利附保險契約人ヘ利益ヲ分配シ來リシカ第五回決算期即明治參拾四年ハ恰モ會社創業ヨリ貳拾年ニ相當セシヲ以テ特ニ巨額ノ分配ヲ爲シ其分配ノ最モ多キモノハ保險金五百圓ニ付キ壹百圓ヲ加ヘ保險金ヲ六百圓ニ增加セリ第六回即明治參拾八年ニハ餘分ノ保險料ニ年壹割八分ノ複利ヲ加ヘ金六千八百七拾八圓貳拾壹錢參厘ヲ契約人員貳百八拾五人ニ分配セリ爾來利益分配附保險ノ契約次第ニ多ク本季ノ新契約中增加ノ割合最モ多キモノハ此種ノ保險ニシテ本季末現在契約ハ八千五百七拾七件此保險金壹千九拾貳萬五千壹百圓ニシテ之ヲ利益分配無ニ比スレハ件數ニ於テ壹割四分金額ニ於テハ參割九分ニ當リ今後モ此種ノ契約倍々多キヲ加ヘントスル傾向アリ